

若年層献血意識調査

— 結果報告書 —

平成20年10月

厚生労働省

医薬食品局 血液対策課

目次

I. 調査概要	2
---------	---

II. 未経験者編

1. 対象者特性	
(1)居住地・性別(SC1/SC3)	6
(2)年齢・職業(SC2/SC4)	7
(3)医療関係への関与有無(SC5)	8
2. 献血に関する認知・関心度	
(1)献血についての認知程度(Q1)	9
(2)献血の種類の認知(Q2)	11
(3)献血できる場所の認知(Q3)	13
(4)献血ルームのイメージ(Q14)	15
(5)献血への関心度(Q4)	17
(6)献血が病気の治療に役立っていることの認知(Q5)	19
(7)若年層の献血協力者の減少傾向認知(Q6)	21
3. 献血の広報・キャンペーンへの認知接触状況	
(1)献血に関する広報接触媒体(Q7)	23
(2)献血キャンペーンに効果的だと思う媒体(Q8)	25
(3)献血キャラクター「けんけつちゃん」認知(Q9)	27
(4)献血キャンペーン認知(Q10)	29
(5)「HOP STEP JUMP」を配布された記憶(Q11)	31
4. 感染症・血液製剤について	
(1)献血では感染症に感染しないことの認知(Q12)	33
(2)血液製剤の海外血液依存の認知(Q13)	35
5. 献血をしたことのない理由	
(1)1位<最も大きな理由>(Q15)	37
(2)1位~3位累計(Q15)	39
6. 献血するきっかけとなり得る要因	
(1)1位<最も大きな要因>(Q16)	41
(2)1位~3位累計(Q16)	43
7. 家族・友人の献血状況	
(1)家族の献血の有無(Q17)	45
(2)友人の献血の有無(Q18)	47
8. 献血に関する資料評価	
(1)献血の必要性への理解が良くなったか(Q19-1)	49
(2)献血に協力する意識の有無(Q19-2)	51
(3)今後の献血意向喚起(Q19-3)	53

III. 経験者編

1. 対象者特性	
(1)居住地・性別(SC1/SC3)	58
(2)年齢・職業(SC2/SC4)	59
(3)医療関係への関与有無(SC5)	60
2. 献血に関する認知状況	
(1)献血が病気の治療に役立っていることの認知(Q1)	61
(2)若年層の献血協力者の減少傾向認知(Q2)	63
3. 献血の広報・キャンペーンへの認知接触状況	
(1)献血に関する広報接触媒体(Q3)	65
(2)献血キャンペーンに効果的だと思う媒体(Q4)	67
(3)献血キャラクター「けんけつちゃん」認知(Q5)	69
(4)献血キャンペーン認知(Q6)	71
(5)「HOP STEP JUMP」を配布された記憶(Q7)	73
4. 感染症・血液製剤について	
(1)献血では感染症に感染しないことの認知(Q8)	75
(2)血液製剤の海外血液依存の認知(Q9)	77
5. 献血ルームのイメージ	
(1)ルームの雰囲気について(Q10-1)	79
(2)ルームの広さについて(Q10-2)	81
(3)職員の対応について(Q10-3)	83
(4)記念品や軽い飲食物について(Q10-4)	85
6. 初めての献血について	
(1)初めて献血した年齢(Q12)	87
(2)初めて献血した場所(Q13)	89
(3)初めての献血の種類(Q14)	91
(4)初めての献血で400ml献血することへの不安意識(Q15)	93
7. 献血回数について	
(1)過去1年間の200ml献血回数(Q16-1)	95
(2)過去1年間の400ml献血回数(Q16-2)	97
(3)過去1年間の成分献血回数(Q16-3)	99
(4)今までの合計献血回数(Q17)	101
8. 献血するきっかけ	
(1)初めての献血のきっかけ「1位<最も大きな要因>」(Q18)	103
(2)初めての献血のきっかけ「1位~3位累計」(Q18)	105
(3)現在献血するきっかけ「1位<最も大きな要因>」(Q19)	107
(4)現在献血するきっかけ「1位~3位累計」(Q19)	109
(5)高校での集団献血が その後の献血への動機付けとなるか(Q22)	111
9. 家族・友人の献血状況	
(1)家族の献血の有無(Q20)	113
(2)友人の献血の有無(Q21)	115
10. 献血に関する資料評価	
(1)献血の必要性への理解の深まり(Q23-1)	117
(2)献血に協力する意識の高まり(Q23-2)	119
(3)献血回数の増加意向喚起(Q23-3)	121
11. 献血についての要望・知りたいこと(Q11)	123

I. 調査概要



1. 調査の目的 : 近年、献血者数は減少傾向にあり、特に若年層の献血離れは深刻なものとなっていることから、献血推進の枠組みについての見直しが求められているところである。

そのため、若年層の献血に対する意識調査を実施し、平成17年度に行った同様の調査の結果との比較を行うことにより、若年層の献血に対する意識等の変化があるかどうかを検証し、検証結果を今後の若年層に対する献血推進のあり方の検討に資する。

2. 調査の内容 : (1) 若年層の献血への関心度や献血へのイメージを把握する。
(2) 若年層の献血に関する認知度を把握する。
(3) 若年層が献血を行った時期やきっかけを把握する。
(4) (1)~(3)について平成17年度の調査結果との比較を行う。

3. 調査の概要:

1)調査方法 : 委託先調査会社が保有している一般消費者パネルに対して、インターネットを通じて質問(調査票)を送付し、回答を収集する。

2)調査対象 : 全国の16~29歳の献血経験者及び献血未経験者
※献血経験者 : 過去に1度でも献血の経験がある者
※献血未経験者: 今まで1度も献血の経験がない者(採血前の検査で基準を満たさないため献血できなかった者を含む)

3)対象者数 : 回収数 5000名 (地域別内訳は、下表の通り)

	合計	経験者	未経験者
合計	10,000	5,000	5,000
北海道	420	210	210
東北	710	355	355
関東甲信越	3,650	1,825	1,825
東海北陸	1,560	780	780
近畿	1,632	816	816
中国・四国	862	431	431
九州・沖縄	1,166	583	583

4)調査期間 : 平成20年9月5日(金)~9月7日(日)

II. 未経験者編

(注)帯グラフ等に表記されている比率は端数処理をしているため、合計が必ずしも100%にはならない。



1. 対象者特性

【未経験者編】



(1) 居住地・性別 (SC1/SC3)

- 【居住地】は「関東甲信越」が36.5%を占めており、17年度調査と同様、中心となっている。以下、「近畿」(16.3%)、「東海北陸」(15.6%)の順で続き、全体構成も17年と概ね変わらない。
- 【性別】は、全体では「男性」51.1%、「女性」48.9%とほぼ半々。17年度に比べて男性回答者が大幅に増えている。
- 【年齢】については、20代がほぼ3/4(74.7%)を占めているが、17年度に比べ「16~17歳」(9.7%)、「18~19歳」(15.4%)といった10代の回答者が増加。
- 【職業】では、「会社員」(30.9%)、「大学生・専門学校生」(29.7%)が中心であり、両層で6割を占めている。17年度に比べて「大学・専門学校生」が増え、「専業主婦」「その他」が減少した。
- 【医療関係への関与有無】をみると、「携わっている」と回答した人は6.4%で、ほぼ前回並み。

居住地 (SC1)

		(%)					
		北海道	東北	関東甲信越	東海北陸	近畿	中国・四国
全 体	(N)	4.2	7.1	36.5	15.6	16.3	8.6
	17年 (5000)	4.0	7.0	36.0	15.0	17.0	9.0

【基数:対象者全員】

性別 (SC3)

		(N)		(%)	
				男性	女性
全 体	20年			51.1	48.9
	17年 (5000)			33.8	66.2
北海道	20年			50.0	50.0
	17年 (200)			34.0	66.0
東北	20年			51.0	49.0
	17年 (350)			36.0	64.0
関東甲信越	20年			51.9	48.1
	17年 (1800)			34.1	65.9
東海北陸	20年			51.9	48.1
	17年 (750)			34.9	65.1
近畿	20年			50.2	49.8
	17年 (850)			35.1	64.9
中国・四国	20年			50.8	49.2
	17年 (450)			29.8	70.2
九州・沖縄	20年			49.6	50.4
	17年 (600)			31.2	68.8

【基数:対象者全員】

1. 対象者特性

【未経験者編】



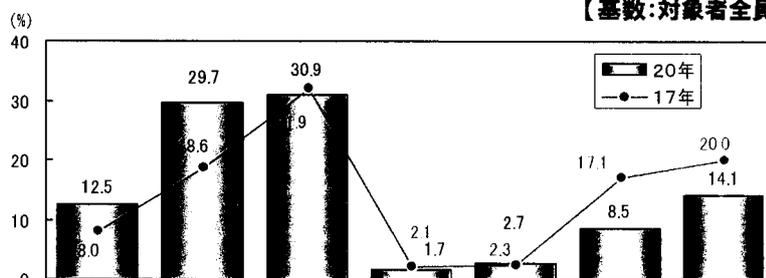
(2)年齢・職業 (SC2/SC4)

年齢 (SC2)

		(N)	16~17歳	18~19歳	20~24歳	25~29歳
全体			9.7	15.4	35.5	39.4
	17年 (5000)		5.5	6.1	30.8	57.6
性別	男性		10.4	14.7	35.5	39.4
	17年 (1688)		6.6	7.0	32.3	54.0
	女性		9.0	16.1	35.5	39.4
	17年 (3312)		4.9	5.6	30.0	59.5
地域別	北海道		11.4	14.8	35.2	38.6
	17年 (200)		6.0	8.5	35.0	50.5
	東北		10.4	17.5	34.6	37.5
	17年 (350)		6.6	4.9	25.7	62.9
	関東甲信越		8.1	15.0	35.6	41.4
	17年 (1800)		4.4	5.8	30.4	59.3
	東海北陸		12.1	14.1	35.3	38.6
	17年 (750)		6.9	7.3	30.3	55.5
近畿		8.9	16.3	35.9	38.8	
17年 (850)		6.6	5.9	37.6	49.9	
中国・四国		10.7	16.5	35.5	37.4	
17年 (450)		4.7	6.4	27.1	61.8	
九州・沖縄		11.3	15.4	35.5	37.7	
17年 (600)		5.2	5.3	27.0	62.5	

【基数:対象者全員】

職業 (SC4)



【基数:対象者全員】

		(N)	高校生	大学生・ 専門学校生	会社員	公務員	自営業	専業主婦	その他
全体			12.5	29.7	30.9	1.7	2.7	8.5	14.1
	17年 (5000)		8.0	18.6	31.9	2.1	2.3	17.1	20.0
性別	男性		13.5	26.1	35.9	2.1	3.7	-	11.8
	17年 (1688)		9.0	25.9	37.6	2.8	4.1	-	20.6
	女性		11.5	20.1	25.7	1.3	1.6	17.3	16.4
	17年 (3312)		7.4	14.9	29.0	1.7	1.4	25.8	19.7
地域別	北海道		15.7	25.2	27.1	2.4	6.2	10.5	12.9
	17年 (200)		11.0	15.5	25.0	2.5	2.5	16.0	27.5
	東北		11.6	20.6	27.6	1.4	3.9	7.3	15.5
	17年 (350)		9.1	15.1	31.4	2.0	2.9	18.3	21.1
	関東甲信越		10.1	21.7	33.7	1.4	2.5	7.7	13.1
	17年 (1800)		6.3	20.4	33.8	1.6	1.7	16.9	19.3
	東海北陸		9.0	24.0	33.7	2.4	1.4	9.5	14.0
	17年 (750)		9.7	18.1	33.5	3.7	2.8	15.5	16.7
近畿		11.4	24.6	27.2	1.1	2.9	9.8	13.0	
17年 (850)		8.5	22.0	31.1	1.6	1.5	14.6	20.7	
中国・四国		10.7	27.6	30.2	2.1	1.6	8.1	16.7	
17年 (450)		8.0	15.6	30.2	3.1	3.6	18.9	20.7	
九州・沖縄		11.3	27.6	27.4	2.2	3.4	7.9	16.3	
17年 (600)		8.2	14.7	29.3	1.2	3.3	21.8	21.5	

(注) □ は、17年と比べて5%以上高いもの。□ は、17年と比べて5%以上低いもの。以降も同様。

1. 対象者特性

【未経験者編】



(3) 医療関係への関与有無 (SC5)

SC5. あなたは学業及び職業で、医療関係に携わっていますか。

		【基数:対象者全員】		(N)		%	
						携わっている	携わっていない
全体						6.4	93.6
	17年	(5000)		6.0		94.0	
高校生						1.4	98.6
	17年	(398)		2.6		97.5	
大学生・専門学校生						10.5	89.5
	17年	(932)		10.2		89.8	
会社員						6.7	93.3
	17年	(1596)		6.1		93.9	
公務員						7.1	92.9
	17年	(104)		13.5		86.5	
自営業						6.0	94.0
	17年	(115)		3.5		96.5	
専業主婦						3.1	96.9
	17年	(856)		4.0		96.0	
その他						3.3	96.7
	17年	(999)		4.5		95.5	
性別	男性					4.9	95.1
	17年	(1688)		4.7		95.3	
女性						7.9	92.1
	17年	(3312)		6.7		93.3	
地域別	北海道					7.1	92.9
	17年	(200)		9.5		90.5	
東北						5.9	94.1
	17年	(350)		8.3		91.7	
関東甲信越						5.6	94.4
	17年	(1800)		4.6		95.4	
東海北陸						5.4	94.6
	17年	(750)		5.6		94.4	
近畿						6.6	93.4
	17年	(850)		6.4		93.6	
中国・四国						9.0	91.0
	17年	(450)		8.4		91.6	
九州・沖縄						7.7	92.3
	17年	(600)		5.8		94.2	



(1) 献血に関する認知程度 (Q1)

- 『献血』について「よく知っている」と回答した人は12.6%。「ある程度知っている」というレベルの人(80.3%)まで含めると、認知率は9割を超えて92.9%にのぼる。
- 職業別では、高校生の認知率が他層に比べてやや低い。性別・地域別による認知率の違いはそれほどみられない。

- 17年度調査と比較すると、全体での認知率は73.8%→92.9%へ、大幅(19ポイント増)に上昇。
- 属性別にみても、各層とも認知率アップが目立つが、その中でも特に、職業別では会社員・専業主婦、性別では男性、地域別では北海道・関東甲信越で顕著となっている。
- なお、「よく知っている」レベルによる比較では、職業別では自営業の上昇度が最も大きく、逆に公務員は減少している。

2. 献血に関する認知・関心度

【未経験者編】



(1) 献血に関する認知程度 (Q1)

Q1. 献血について知っていますか。

		【基数:対象者全員】 (N)		(%)			認知計
		17年	(N)	よく知っている	ある程度知っている	全く知らない	
職業別	全体	17年	(5000)	12.6	80.3	7.1	92.9
				8.4	65.4	26.2	73.8
	高校生	17年	(398)	9.7	79.1	12.1	88.8
				10.1	62.3	27.6	72.4
	大学生・専門学校生	17年	(932)	13.6	81.5	4.9	95.1
				9.9	67.0	23.2	76.8
	会社員	17年	(1596)	13.6	79.4	7.0	89.0
				8.2	65.6	26.2	73.8
	公務員	17年	(104)	11.8	83.5	4.7	95.3
				18.3	70.2	11.5	88.5
自営業	17年	(115)	16.4	73.1	10.4	83.5	
			10.4	65.2	24.3	75.7	
専業主婦	17年	(856)	10.6	85.1	4.3	94.9	
			8.1	67.5	24.4	75.6	
その他	17年	(999)	11.5	79.8	8.7	90.2	
			5.8	62.4	31.8	68.2	
性別	男性	17年	(1688)	13.3	77.8	8.9	86.1
				7.6	61.5	30.9	69.1
	女性	17年	(3312)	11.9	82.9	5.2	89.8
				8.8	67.3	23.8	76.2
地域別	北海道	17年	(200)	14.8	80.0	5.2	94.8
				9.0	62.5	28.5	71.5
	東北	17年	(350)	14.6	80.8	4.5	95.5
				9.1	66.6	24.3	75.7
	関東甲信越	17年	(1800)	12.8	79.7	7.6	92.4
				8.4	63.4	28.2	71.8
	東海北陸	17年	(750)	12.2	79.4	8.5	91.5
				6.5	66.4	27.1	72.9
	近畿	17年	(850)	12.4	82.0	5.6	94.4
				9.2	65.9	24.9	75.1
中国・四国	17年	(450)	11.1	81.9	7.0	93.0	
			9.1	66.7	24.2	75.8	
九州・沖縄	17年	(600)	12.2	79.8	8.1	91.9	
			8.7	68.5	22.8	77.2	



(2) 献血の種類認知 (Q2)

<新規質問>

- 『献血』には全血献血と成分献血といった種類があるということを「知っている」人は38.6%。残りの6割以上の人は未だ認知していない。
- 職業別では、公務員の認知率が半数を超えており他層に比べて高い。一方、高校生の7割強が「知らない」としており最も認知率が低い。
- 性別では、男性に比べて女性の認知率が10ポイント上回っている。
- 地域別では、東北の認知率が最も高い。



(2) 献血の種類認知 (Q2)

Q2. 献血の種類(*)を知っていますか。

* 献血の種類には、すべての血液の成分を採血する全血献血(200mlまたは400ml)と、必要な血液の成分だけを採血する成分献血(血漿成分献血と血小板成分献血)があります。

【基数:対象者全員】		(N)	(%)	
			知っている	知らない
全体		(5000)	38.6	61.4
職業別	高校生	(626)	29.1	70.9
	大学生・専門学校生	(1484)	39.4	60.6
	会社員	(1545)	39.3	60.7
	公務員	(85)	50.6	49.4
	自営業	(134)	36.6	63.4
	専業主婦	(423)	42.8	57.2
	その他	(703)	40.3	59.7
	性別	男性	(2556)	34.3
女性		(2444)	43.0	57.0
地域別	北海道	(210)	36.2	63.8
	東北	(355)	49.0	51.0
	関東甲信越	(1825)	36.4	63.6
	東海北陸	(780)	36.8	63.2
	近畿	(816)	36.8	63.2
	中国・四国	(431)	43.4	56.6
	九州・沖縄	(583)	41.2	58.8



(3) 献血できる場所の認知 (Q3)

<新規質問>

- 『献血』できる場所(献血ルーム／献血バス／血液センター／会社や団体での出張献血)の認知状況をみると、「よく知っている」という人が24.5%と全体の1/4程度。また「ある程度知っている」(63.2%)まで含めると、認知率は87.7%にのぼる。
- 職業別では、専業主婦の認知率が最も高い。一方、高校生・自営業で他層よりもやや低い。
- 性別では、女性の認知率及び「よく知っている」とする割合の両方とも男性に比べて高い。
- 地域別では、東北のほぼ3人に1人が「よく知っている」と回答しており、他地域に比べて目立つ。

2. 献血に関する認知・関心度

【未経験者編】



(3) 献血できる場所の認知 (Q3)

Q3. 献血がどこでできるか知っていますか。(*)

* 献血は、①献血ルーム、②献血バス、③血液センター、④会社や団体での出張献血をすることができます。

【基数:対象者全員】		(N)	(%)			認知計
			よく知っている	ある程度知っている	知らない	
全体		(5000)	24.5	63.2	12.3	87.7
職業別	高校生	(626)	21.9	60.2	17.9	82.1
	大学生・専門学校生	(1484)	27.2	62.9	10.0	90.0
	会社員	(1545)	24.7	61.9	13.4	86.6
	公務員	(85)	27.1	62.4	10.6	89.4
	自営業	(134)	20.9	60.4	18.7	81.3
	専業主婦	(423)	27.9	65.7	6.4	93.6
	その他	(703)	19.2	68.4	12.4	87.6
	性別	男性	(2556)	21.1	62.7	16.2
女性		(2444)	28.0	63.7	8.2	91.8
地域別	北海道	(210)	19.0	71.0	10.0	90.0
	東北	(355)	32.4	59.7	7.9	92.1
	関東甲信越	(1825)	24.9	63.4	11.7	88.3
	東海北陸	(780)	20.6	62.3	17.1	82.9
	近畿	(816)	23.2	66.8	10.0	90.0
	中国・四国	(431)	24.6	61.7	13.7	86.3
	九州・沖縄	(583)	27.3	59.2	13.6	86.4



(4) 献血ルームのイメージ (Q14)

- 『献血ルーム』のイメージについては、全体の半数弱(47.4%)が「ふつう」の印象を持っている。一方、「明るい」イメージの12.7%に対して、「暗い」イメージが15.4%と、僅かに暗いイメージの方が上回る。その一方で、4人に1人は「わからない」としている。
- 職業別で見ると、「明るい」と評価するのは専業主婦で最も高く、唯一「暗い」イメージを上回る。他層は「暗い」イメージの方がやや上回る。(その他の層は除く)
なお、自営業で「わからない」が多くなっている。
- 性別では、男性に比べて女性の方が「明るい」イメージを持つ割合がやや高い。
- 地域別では、「明るい」イメージは北海道で最も高い。

- 17年度調査と比較すると、前回「わからない」の回答肢がないため、一概には比較できないが、全体では「明るい」「ふつう」「暗い」のいずれも減少。特に「ふつう」の落ち込みが顕著。
- 職業別にみると、「明るい」イメージは専業主婦を除く殆どの層で、軒並み17年度に比べて減少している。その中で、公務員はむしろ「暗い」イメージが高まっている。
- 性別では、男女ともに「ふつう」「暗い」で5ポイント以上のスコア低下がみられる。
- 地域別では、北海道で「暗い」イメージがやや上昇した。

2. 献血に関する認知・関心度

【未経験者編】



(4) 献血ルームのイメージ (Q14)

Q14. 献血ルームのイメージを教えてください。

		【基数:対象者全員】		(%)			
		(N)		明るい	ふつう	暗い	わからない
全体				12.7	47.4	15.4	24.5
	17年	(5000)		18.2	61.2		20.6
高校生				12.8	45.0	16.1	26.0
	17年	(398)		20.6	61.1		18.3
大学生・専門学校生				13.5	49.5	15.7	21.4
	17年	(932)		20.0	59.0		21.0
会社員				10.6	48.3	15.9	25.2
	17年	(1596)		17.9	60.2		21.9
公務員				11.8	49.4	18.8	20.0
	17年	(104)		23.1	64.4		12.5
自営業				9.7	40.3	12.7	37.3
	17年	(115)		19.1	62.6		18.3
専業主婦				17.3	46.3	15.1	21.3
	17年	(856)		16.9	63.4		19.6
その他				13.8	45.0	12.9	28.3
	17年	(999)		16.3	62.8		20.9
性別	男性			9.1	46.9	17.3	26.7
	17年	(1688)		12.8	62.0		25.2
女性				16.5	48.0	13.3	22.2
	17年	(3312)		20.9	60.8		18.3
地域別	北海道			18.1	45.7	13.8	22.4
	17年	(200)		23.0	69.0		8.0
東北				14.9	49.9	11.5	23.7
	17年	(350)		15.4	62.9		21.7
関東甲信越				11.0	46.6	17.9	24.5
	17年	(1800)		17.6	59.7		22.7
東海北陸				12.2	47.6	14.1	26.2
	17年	(750)		16.4	62.3		21.3
近畿				11.6	47.4	17.3	23.7
	17年	(850)		16.0	60.8		23.2
中国・四国				14.8	48.3	10.9	26.0
	17年	(450)		20.0	65.6		14.4
九州・沖縄				15.4	48.4	12.5	23.7
	17年	(600)		23.7	58.5		17.8

注:17年は「わからない」の回答数なし。



(5) 献血への関心度 (Q4)

- 『献血』に対する関心度をみると、関心あり層の45.8%（そのうち、非常に関心がある:5.2%）に対して、関心なし層が54.2%（うち、全く関心がない:8.6%）と、“無関心派”がやや上回る。
- 職業別では、他層に比べて専業主婦で関心あり層の割合が高い。
- 性別では、男性に比べて女性の関心度が高く、関心あり層の割合は男性を18ポイント上回る。
- 地域別では、九州の関心度が他地域に比べて高くなっている。

- 17年度調査との比較でみると、全体では関心あり層が52.2%→45.8%へ6ポイント低下した。
- 職業別にみると、関心度の高い専業主婦を除く各層の関心度が低下傾向となっている。また、男女ともに関心度が低下している。
- 地域別では、北海道、関東甲信越、東海北陸、近畿等において関心度がやや低下。

2. 献血に関する認知・関心度

【未経験者編】



(5) 献血への関心度 (Q4)

Q4. 献血について関心がありますか。

		【基数:対象者全員】		(%)					
		(N)		非常に 関心がある	関心 がある	特に 関心がない	全く 関心がない	関心 がある (計)	関心 がない (計)
全体	2017年	(5000)	5.2	40.7	45.5	8.6	45.8	54.2	
	17年	(5000)	6.4	45.8	40.3	7.5	52.2	47.8	
高校生	2017年	(398)	7.5	39.5	44.6	8.5	47.0	53.0	
	17年	(398)	12.8	46.7	34.2	6.3	59.5	40.5	
大学生・専門学校生	2017年	(932)	6.0	41.4	45.2	7.3	47.4	52.6	
	17年	(932)	8.0	49.4	35.1	7.5	57.4	42.6	
会社員	2017年	(1596)	3.4	39.4	47.6	9.6	42.7	57.3	
	17年	(1596)	4.4	43.4	42.9	9.3	47.8	52.2	
公務員	2017年	(104)	4.7	38.8	45.9	10.6	43.5	56.5	
	17年	(104)	3.8	48.1	43.3	4.8	51.9	48.1	
自営業	2017年	(115)	6.7	34.3	45.5	13.4	41.0	59.0	
	17年	(115)	7.8	47.8	41.7	2.6	55.7	44.3	
専業主婦	2017年	(856)	5.4	48.0	42.3	4.3	53.4	46.6	
	17年	(856)	6.1	46.7	41.5	5.7	52.8	47.2	
その他	2017年	(999)	5.0	40.0	44.4	10.7	45.0	55.0	
	17年	(999)	5.6	44.8	41.9	7.6	50.5	49.5	
性別	2017年	(1688)	3.0	34.5	51.4	11.2	37.5	62.5	
	17年	(1688)	4.6	40.2	45.1	10.1	44.8	55.2	
女性	2017年	(3312)	7.5	47.1	39.4	6.0	54.6	45.4	
	17年	(3312)	7.3	48.7	37.8	6.2	55.9	44.1	
地域別	2017年	(200)	6.7	40.0	42.9	10.5	46.7	53.3	
	17年	(200)	5.5	47.5	41.0	6.0	53.0	47.0	
東北	2017年	(350)	4.2	46.2	46.5	3.1	50.4	49.6	
	17年	(350)	5.7	44.3	42.0	8.0	50.0	50.0	
関東甲信越	2017年	(1800)	4.3	39.1	45.3	11.3	43.4	56.6	
	17年	(1800)	5.7	45.3	41.1	7.9	51.1	48.9	
東海北陸	2017年	(750)	4.6	38.8	48.8	7.7	43.5	56.5	
	17年	(750)	6.5	47.3	36.9	9.2	53.9	46.1	
近畿	2017年	(850)	5.9	40.4	46.7	7.0	46.3	53.7	
	17年	(850)	6.8	45.8	40.8	6.6	52.6	47.4	
中国・四国	2017年	(450)	5.1	39.9	48.0	7.0	45.0	55.0	
	17年	(450)	7.1	42.7	43.8	6.4	49.8	50.2	
九州・沖縄	2017年	(600)	7.9	45.6	38.9	7.5	53.5	46.5	
	17年	(600)	7.5	48.2	37.5	6.8	55.7	44.3	



(6) 献血が病気の治療に役立っていることの認知 (Q5)

<新規質問>

- 『献血』がさまざまな病気の治療に役立っていることは、ほぼ半数の48.0%が認知している。
- 認知率は、職業別・性別・地域別のいずれでも、各層でそれほど違いはみられない。



(6) 献血が病気の治療に役立っていることの認知 (Q5)

Q5. 献血は患者さんに対する輸血だけでなく、献血を原料とした血液製剤として、さまざまな病気の治療に役立っていることを知っていますか。

【基数:対象者全員】		(N)	知っている	知らない
全体		(5000)	48.0	52.0
職業別	高校生	(626)	47.4	52.6
	大学生・専門学校生	(1484)	50.5	49.5
	会社員	(1545)	46.3	53.7
	公務員	(85)	48.2	51.8
	自営業	(134)	48.5	51.5
	専業主婦	(423)	48.9	51.1
	その他	(703)	46.5	53.5
	性別	男性	(2556)	48.3
女性		(2444)	47.7	52.3
地域別	北海道	(210)	48.1	51.9
	東北	(355)	47.6	52.4
	関東甲信越	(1825)	46.1	53.9
	東海北陸	(780)	48.8	51.2
	近畿	(816)	49.8	50.2
	中国・四国	(431)	49.7	50.3
	九州・沖縄	(583)	49.6	50.4



(7)若年層の献血協力者の減少傾向認知 (Q6)

<新規質問>

- 近年、『献血』へ協力してくれる10代・20代の若年層が大幅に減少していることを「知っている」という人は37.3%。
- 職業別にみると、公務員の認知率が他層に比べて高い。なお、大学・専門学校生の認知率は40.2%、高校生は33.7%と1/3程度にとどまる。
- 認知率は、男女間で差はなく、地域別でもそれほど違いはみられない。



(7)若年層の献血協力者の減少傾向認知 (Q6)

Q6. 献血へ協力して下さる若い方の数が、近年大幅に減っています(＊)。知っていましたか。

＊最近5年間で20代の献血者数は161万8千人から113万5千人(30%減)に、10代の献血者数は、56万4千人から32万4千人(43%減)に減少しています。

【基数:対象者全員】		(N)	知っている	知らない
全体		(5000)	37.3	62.7
職業別	高校生	(626)	33.7	66.3
	大学生・専門学校生	(1484)	40.2	59.8
	会社員	(1545)	36.7	63.3
	公務員	(85)	52.9	47.1
	自営業	(134)	36.6	63.4
	専業主婦	(423)	35.7	64.3
	その他	(703)	34.6	65.4
	性別	男性	(2556)	37.0
女性		(2444)	37.5	62.5
地域別	北海道	(210)	39.5	60.5
	東北	(355)	42.8	57.2
	関東甲信越	(1825)	35.5	64.5
	東海北陸	(780)	36.9	63.1
	近畿	(816)	37.9	62.1
	中国・四国	(431)	40.1	59.9
	九州・沖縄	(583)	36.2	63.8



(1) 献血に関する広報接触媒体 (Q7)

- 『献血』に関して接触したことがある広報媒体をみると、最も高いのが「街頭での呼びかけ」で60.6%。以下、「テレビ」(50.4%)、「献血バス」(49.8%)、「献血ルーム前の看板・表示」(48.5%)の順で続き、以上が主要な媒体となっている。
- 職業別にみると、「街頭での呼びかけ」は大学生・専門学校生と専業主婦でやや高い。また専業主婦は「献血バス」「献血ルーム前の看板・表示」も高く、現場での接触が目立つ。一方、高校生は「街頭での呼びかけ」「献血バス」「献血ルーム前の看板・表示」「献血関係のイベント」など、総じて低い。
- 性別では、「街頭での呼びかけ」「献血バス」「献血ルーム前の看板・表示」での接触率が男性に比べて女性が高いのが目立つ。
- 地域別では、「街頭の呼びかけ」は北海道、中国・四国、九州・沖縄でやや低い。「テレビ」は東北で高く、関東甲信越で低い。一方、「献血ルーム前の看板・表示」は東海北陸、中国・四国、九州・沖縄で他地域よりも低い。

- 17年度調査と比較すると、「街頭での呼びかけ」「テレビ」「献血バス」といった主要な広報媒体をはじめ、「ポスターの掲示」「献血関係のイベント」「新聞」など、総じて接触率が低下している。
- 属性別にみても、職業別・性別・地域別のいずれも主要媒体の接触率は、各層でほぼ低下傾向となっている。
- なお、高校生や自営業では、いずれも見たこと(聞いたこと)がないが1割弱まで増加している。

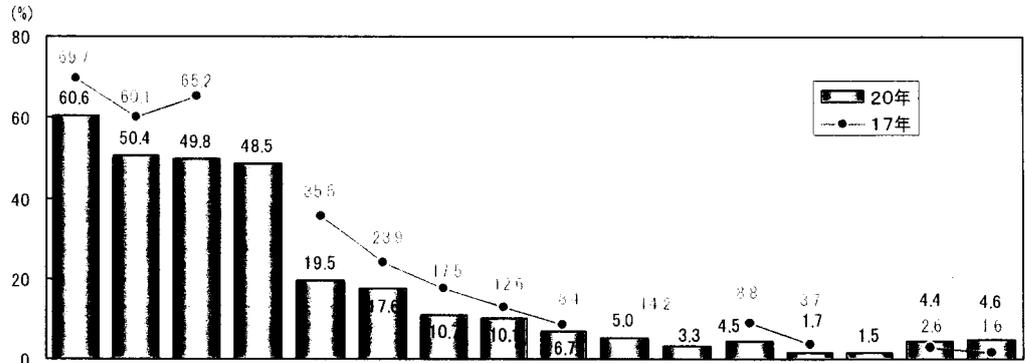
3. 献血の広報・キャンペーンへの認知接触状況

【未経験者編】



(1) 献血に関する広報接触媒体 (Q7)

Q7. 献血に関して、どのような広報媒体を見たこと(聞いたこと)がありますか。(いくつでも)



【基数:対象者全員】

	年	(N)	Media Type (%)															
			街頭での呼びかけ	テレビ	献血バス	献血ルーム前の看板・表示	ポスターの掲示	献血関係のイベント	新聞	チラシの配布	インターネット	FM放送	その他のラジオ放送	自治体の広報誌	雑誌等	その他	何かで見たが覚えていない	見たこと(聞いたこと)がない
全体	2016	(5000)	60.6	50.4	49.8	48.5	19.5	17.6	10.7	10.1	6.7	5.0	3.3	4.5	1.7	1.5	4.4	4.6
	17年	(5000)	69.7	60.1	65.2	-	35.5	23.9	17.5	12.6	8.4	14.2	-	8.8	3.7	-	2.6	1.6
職業別	高校生	2016	42.0	50.2	36.3	36.6	19.2	12.0	12.3	13.4	8.6	4.3	2.7	4.5	1.4	2.6	2.8	2.5
		17年	(398)	56.5	61.1	53.8	-	33.7	21.9	18.6	18.3	12.8	-	13.1	5.8	5.8	2.8	2.5
	大学生・専門学校生	2016	65.8	49.1	53.7	50.5	20.7	19.3	10.0	11.6	7.3	4.5	3.4	2.9	1.9	1.8	3.4	4.5
		17年	(932)	73.0	61.2	69.4	-	39.5	29.2	16.8	17.8	9.8	14.2	-	7.0	3.8	2.7	1.9
	会社員	2016	63.2	48.0	48.3	51.5	18.7	18.0	10.3	8.6	5.3	5.8	3.0	4.7	1.4	0.8	3.5	4.3
		17年	(1596)	71.6	57.0	65.5	-	34.6	23.4	17.5	10.3	7.4	15.8	-	7.7	3.1	2.4	1.7
	公務員	2016	58.8	45.9	51.8	50.6	18.8	27.1	11.8	14.1	5.9	4.7	2.4	14.1	1.2	-	-	3.5
		17年	(104)	79.8	64.4	65.4	-	43.3	33.7	22.1	17.3	5.8	24.0	-	21.2	6.7	3.8	2.9
自営業	2016	55.2	48.5	42.5	40.3	16.4	14.9	13.4	8.2	9.0	8.2	3.7	6.7	2.2	0.7	5.2	8.2	
	17年	(115)	68.7	66.1	60.0	-	34.8	20.0	18.3	14.8	7.8	16.5	-	18.3	3.5	3.5	0.9	
専業主婦	2016	66.9	53.0	61.7	56.5	21.0	20.8	7.8	9.5	3.3	4.0	2.1	4.5	0.9	1.9	3.8	2.4	
	17年	(856)	73.6	57.6	68.9	-	34.6	25.0	15.1	9.8	4.0	9.1	-	14.0	2.6	1.9	0.6	
その他	2016	57.8	57.9	50.9	44.8	18.6	15.6	12.7	7.8	8.4	4.7	5.1	6.3	2.7	1.4	5.8	3.3	
	17年	(999)	64.6	64.9	62.8	-	34.1	19.3	18.9	10.7	11.1	15.0	-	6.5	4.5	3.0	1.8	
性別	男性	2016	54.7	49.2	43.4	41.2	18.0	13.8	11.8	9.3	7.4	5.9	4.2	4.5	1.4	1.3	5.4	6.1
		17年	(1688)	62.6	61.4	58.6	-	29.6	20.9	19.3	11.4	11.1	16.6	-	6.6	3.7	3.7	2.8
	女性	2016	66.7	51.6	56.5	56.2	21.0	21.6	9.6	11.0	5.9	4.1	2.4	4.6	2.0	1.7	3.4	3.0
	17年	(3312)	73.3	59.5	68.6	-	38.6	25.5	16.5	13.2	7.0	12.9	-	9.9	3.7	2.0	1.1	
地域別	北海道	2016	46.7	49.5	49.0	49.5	26.2	15.7	12.9	6.7	10.5	4.3	6.2	5.7	1.4	1.4	4.3	5.7
		17年	(200)	60.5	59.0	64.5	-	41.0	15.5	19.5	7.5	12.0	-	15.5	8.0	5.0	3.5	3.5
	東北	2016	58.9	67.3	50.4	50.4	22.8	23.4	16.3	15.8	8.5	10.1	5.4	7.9	3.1	1.4	3.4	1.7
		17年	(350)	64.6	66.6	67.1	-	37.1	25.1	23.7	11.7	6.0	19.1	-	12.9	2.9	2.0	2.3
	関東甲信越	2016	67.2	41.2	47.9	56.5	17.0	15.5	8.0	8.3	5.8	3.5	2.4	3.5	1.5	1.3	2.6	5.8
		17年	(1800)	76.8	54.1	61.4	-	33.4	19.7	12.8	9.9	7.0	9.7	-	6.2	3.3	2.2	1.6
	東海北陸	2016	56.9	48.2	45.3	39.9	19.7	17.6	12.8	10.9	6.4	5.6	2.2	4.4	2.2	1.9	7.4	5.5
		17年	(750)	65.3	55.5	64.3	-	33.3	28.3	18.3	13.6	7.9	13.7	-	10.9	3.7	3.1	3.1
近畿	2016	63.7	57.1	56.3	46.1	20.1	15.2	10.0	10.2	5.9	3.9	3.3	4.4	1.2	1.1	4.3	2.3	
	17年	(850)	69.3	68.1	71.5	-	36.9	23.9	17.3	13.4	10.4	14.1	-	7.1	3.8	1.9	0.7	
中国・四国	2016	49.4	58.7	51.3	42.2	21.1	20.9	13.0	11.1	7.7	4.9	5.3	5.6	1.6	1.9	6.0	3.7	
	17年	(450)	64.7	64.0	72.0	-	40.2	30.4	24.4	18.4	9.1	15.3	-	11.1	4.2	2.2	1.1	
九州・沖縄	2016	54.5	56.4	51.6	41.7	20.4	22.5	11.3	11.8	7.9	7.5	4.3	5.1	1.7	1.9	5.8	5.0	
	17年	(600)	64.2	66.3	62.8	-	36.3	28.7	21.0	15.8	10.2	23.8	-	12.3	4.5	4.3	0.7	

注: 17年は「献血ルーム前の看板・表示」「その他」の回答肢なし。また、「FM放送」「その他のラジオ放送」は17年の回答肢は「ラジオ」のみ。



(2) 献血キャンペーンに効果的だと思う媒体 (Q8)

- 『献血』のキャンペーンを行う際に効果的だと思われる媒体をいつでも挙げてもらったところ、「テレビ」が84.7%で圧倒的に高い。次いで「インターネット」が46.8%で続く。以下、「新聞」(23.7%)「ポスター」(22.7%)「雑誌」(22.7%)「携帯電話」(22.2%)等が2割強。
- 職業別にみると、各層とも「テレビ」「インターネット」中心は変わらない。その中で高校生は他層より「インターネット」がやや低く、逆に「携帯電話」がやや高い。専業主婦・公務員で「自治体の広報誌」を挙げる割合がやや高く、専業主婦はその他にも「新聞」「雑誌」が他層よりもやや高い。
- 性別では、男性よりも女性の方が「雑誌」を挙げる割合が高い。
- 地域別では、「新聞」は北海道、中国・四国、「携帯電話」は東北でそれぞれやや高くなっている。

- 17年度調査と比較すると、「インターネット」「携帯電話」を挙げる割合が高まっている。なお、前回の「ラジオ」に関しては、今回「FM放送」「その他のラジオ放送」に回答肢を分割したので参考程度。
- 属性別にみても、職業別・性別・地域別を通して、総じて各層とも「インターネット」「携帯電話」が効果的とする傾向が強まっている。
- それ以外では、「テレビ」は大学生・専門学校生、公務員、自営業で、「新聞」は会社員、公務員、自営業で、「ポスター」「雑誌」については高校生と公務員で、それぞれ前回よりやや低下した。なお、「新聞」は男性でもやや下がった。

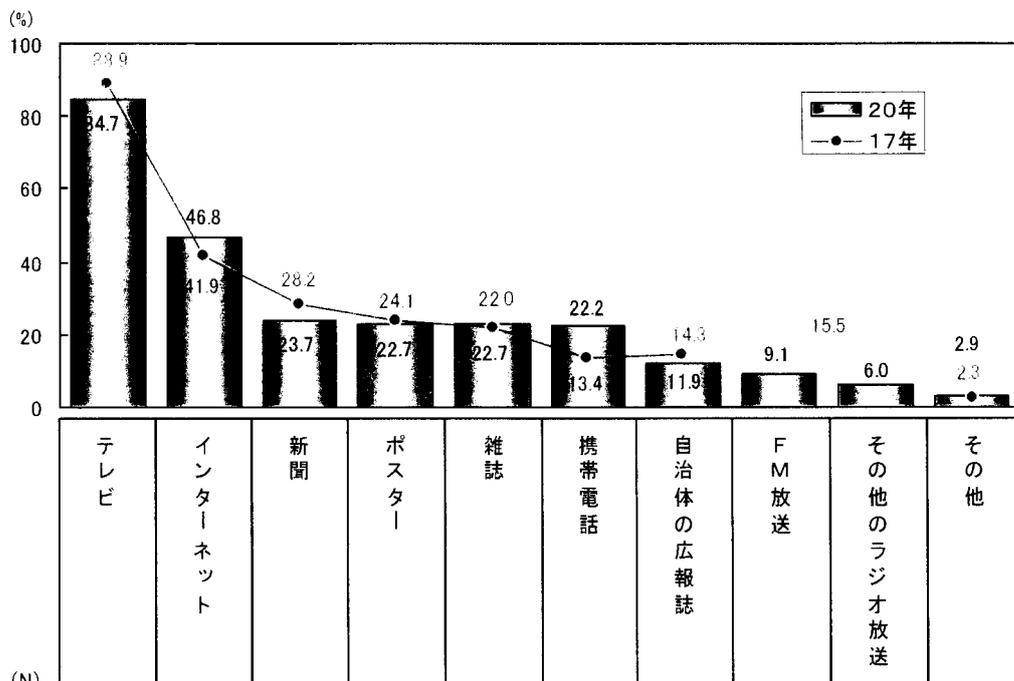
3. 献血の広報・キャンペーンへの認知接触状況

【未経験者編】



(2) 献血キャンペーンに効果的だと思う媒体 (Q8)

Q8. 献血のキャンペーンを行う際の効果的な媒体は何だと思いますか。(いくつでも)



【基数:対象者全員】

		(N)	テレビ	インターネット	新聞	ポスター	雑誌	携帯電話	自治体の広報誌	FM放送	その他のラジオ放送	その他	(%)
全体	20年		84.7	46.8	23.7	22.7	22.7	22.2	11.9	9.1	6.0	2.9	
	17年 (5000)		88.9	41.9	28.2	24.1	22.0	13.4	14.3	15.5	6.0	2.3	
職業別	高校生	20年	86.3	40.9	25.2	22.4	20.6	28.0	9.4	7.8	5.8	2.2	
	17年 (398)		86.9	41.2	30.2	30.7	27.1	22.4	12.6	12.8	5.8	1.3	
	大学生・専門学校生	20年	83.2	46.6	23.9	24.6	24.2	25.4	9.7	8.2	5.6	3.2	
	17年 (932)		88.4	42.3	25.2	26.5	21.7	13.9	12.0	12.7	5.6	2.3	
	会社員	20年	84.1	46.5	20.7	19.5	20.3	10.4	11.5	9.6	6.0	2.4	
	17年 (1596)		87.3	42.0	27.0	21.8	21.4	11.8	12.4	16.9	6.0	2.1	
	公務員	20年	87.1	51.8	21.2	12.9	21.2	18.8	18.8	12.9	8.2	1.2	
	17年 (104)		92.3	39.4	26.9	23.1	28.8	10.6	17.3	21.2	8.2	1.0	
自営業	20年	79.9	44.0	20.9	19.4	19.4	13.4	13.4	9.7	6.7	3.0		
17年 (115)		88.7	47.0	29.6	24.3	16.5	13.0	19.1	21.7	6.7	3.5		
専業主婦	20年	89.1	45.2	30.0	25.5	29.8	17.0	21.5	8.5	4.7	2.1		
17年 (856)		92.6	38.0	30.4	24.1	21.7	9.3	21.5	15.1	4.7	1.3		
その他	20年	85.6	54.2	25.7	26.5	23.0	21.8	21.8	12.8	11.0	7.5	4.4	
17年 (999)		89.1	44.6	30.1	22.8	21.6	15.5	15.5	12.9	16.3	7.5	3.8	
性別	男性	20年	81.8	47.8	22.7	19.6	17.6	22.8	9.8	9.4	6.3	3.1	
	17年 (1688)		85.8	44.1	27.8	20.4	16.0	15.0	11.0	16.4	6.3	2.5	
女性	20年	87.7	45.8	24.9	26.0	27.9	21.6	14.1	8.9	5.7	2.7		
17年 (3312)		90.5	40.8	28.4	25.9	25.1	12.6	15.9	15.1	5.7	2.1		
地域別	北海道	20年	88.1	47.6	30.5	26.2	26.2	21.9	14.8	7.6	8.6	1.9	
	17年 (200)		88.5	41.5	35.0	26.0	22.0	13.0	13.0	20.0	8.6	2.5	
	東北	20年	85.1	45.9	25.6	22.0	21.1	27.3	16.1	9.9	8.2	3.1	
	17年 (350)		89.7	38.0	27.7	21.7	19.1	10.6	20.0	18.3	8.2	3.1	
	関東甲信越	20年	83.6	46.3	22.4	22.2	23.3	21.9	9.1	8.1	5.5	3.0	
	17年 (1800)		88.2	44.9	25.8	24.6	24.3	14.5	12.9	12.7	5.5	2.9	
	東海北陸	20年	84.6	48.3	24.1	21.2	21.2	19.7	12.3	10.5	5.3	3.5	
	17年 (750)		90.0	41.1	28.0	22.1	21.3	12.9	15.7	16.7	5.3	1.2	
近畿	20年	85.0	47.9	20.7	22.4	21.8	22.3	11.3	7.6	4.7	2.6		
17年 (850)		90.1	40.5	26.2	24.5	20.4	14.2	10.9	14.0	4.7	2.1		
中国・四国	20年	85.2	47.1	29.9	24.4	22.0	21.1	15.8	10.2	8.4	2.3		
17年 (450)		89.1	40.2	34.7	25.3	21.1	11.8	16.7	16.7	8.4	0.9		
九州・沖縄	20年	85.9	45.1	23.5	24.9	24.0	24.0	14.6	11.8	6.7	2.9		
17年 (600)		87.5	39.3	31.5	24.0	20.8	12.3	16.5	21.0	6.7	2.5		

注「FM放送」「その他のラジオ放送」は17年の回答肢は「ラジオ」のみ。



(3) 献血キャラクター「けんけつちゃん」認知 (Q9)

- 献血キャラクターの『けんけつちゃん』の認知率は7.2%。
- 職業別にみると、高校生、大学性・専門学校生の認知率が1割強と他層よりもやや高い。また、男性よりも女性の認知率がやや上回り、地域別では、東北でやや高くなっている。

- 17年度調査と比較すると、認知率は3.0%→7.2%へと4ポイントアップしたが、それでも未だ1割には届かず、浸透度は広がっていない。
- 属性別にみると、今回比較的認知率が高かった、高校生、大学性・専門学校生、および女性において認知率は6～7ポイント程度上昇した。また、東北で最も認知率が高まっている。

3. 献血の広報・キャンペーンへの認知接触状況

【未経験者編】



(3) 献血キャラクター「けんけつちゃん」認知 (Q9)

Q9. 厚生労働省では献血推進のためのキャラクターとして「けんけつちゃん」を作成していますが、知っていますか。

		【基数:対象者全員】		(%)	
		(N)		知っている	知らない
全体				7.2	92.8
	17年	(5000)		3.0	97.0
職業別	高校生			12.0	88.0
		17年	(398)	5.0	95.0
	大学生・専門学校生			10.6	89.4
		17年	(932)	3.5	96.5
	会社員			4.6	95.4
		17年	(1596)	2.5	97.5
	公務員			7.1	92.9
		17年	(104)	6.7	93.3
	自営業			3.7	96.3
		17年	(115)	0.4	99.1
専業主婦			3.5	96.5	
	17年	(856)	3.0	97.0	
その他			4.4	95.6	
	17年	(999)	2.1	97.9	
性別	男性			4.8	95.2
		17年	(1688)	2.7	97.6
	女性			9.7	90.3
17年		(3312)	3.3	96.7	
地域別	北海道			3.3	96.7
		17年	(200)	0.5	99.5
	東北			12.7	87.3
		17年	(350)	4.0	96.0
	関東甲信越			7.8	92.2
		17年	(1800)	3.2	96.8
	東海北陸			7.9	92.1
		17年	(750)	2.8	97.2
	近畿			5.6	94.4
17年		(850)	2.1	97.9	
中国・四国			6.0	94.0	
	17年	(450)	3.3	96.7	
九州・沖縄			5.7	94.3	
	17年	(600)	3.5	96.5	



(4) 献血キャンペーン認知 (Q10)

- 献血キャンペーンのことを「知っている」と回答した人は14.7%。
- 職業別にみると、他層に比べて公務員の認知率がやや高い。また、男性に比べて女性の認知率がやや高い。地域別では、東北でやや高くなっている。

- 17年度調査と比較すると、認知率は25.9%→14.7%へと、11ポイント低下している。
- 属性別にみても、各層とも認知率は低下傾向となっている。特に、公務員で落ち込みが目立つ。また、地域別では、近畿、九州・沖縄で認知率の低下が目立つ。

3. 献血の広報・キャンペーンへの認知接触状況

【未経験者編】



(4) 献血キャンペーン認知 (Q10)

Q10. 献血に関するキャンペーンを知っていますか。
 (毎年7月:愛の血液助け合い運動 毎年1~2月:「はたちの献血」キャンペーン)

		【基数:対象者全員】		(%)	
		(N)		知っている	知らない
全体	2016年		14.7	85.3	
	17年 (5000)		25.9	74.1	
高校生	2016年		12.9	87.1	
	17年 (398)		18.3	81.7	
大学生・専門学校生	2016年		15.1	84.9	
	17年 (932)		25.5	74.5	
会社員	2016年		14.4	85.6	
	17年 (1596)		26.1	73.9	
公務員	2016年		20.0	80.0	
	17年 (104)		38.5	61.5	
自営業	2016年		15.7	84.3	
	17年 (115)		23.5	76.5	
専業主婦	2016年		14.2	85.8	
	17年 (856)		27.1	72.9	
その他	2016年		15.4	84.6	
	17年 (999)		27.1	72.9	
性別	男性	2016年	11.6	88.4	
	17年 (1688)		19.4	80.6	
女性	2016年		17.8	82.2	
	17年 (3312)		29.3	70.7	
地域別	北海道	2016年	12.9	87.1	
	17年 (200)		23.5	76.5	
東北	2016年		20.3	79.7	
	17年 (350)		32.3	67.7	
関東甲信越	2016年		13.4	86.6	
	17年 (1800)		21.2	78.8	
東海北陸	2016年		12.6	87.4	
	17年 (750)		21.5	78.5	
近畿	2016年		15.4	84.6	
	17年 (850)		31.1	68.9	
中国・四国	2016年		16.0	84.0	
	17年 (450)		30.7	69.3	
九州・沖縄	2016年		16.5	83.5	
	17年 (600)		32.0	68.0	



(5) 「HOP STEP JUMP」を配布された記憶 (Q11)

- 高校3年生を対象に、『HOP STEP JUMP』という普及啓発資材が配布されていることを認知している人は9.6%と1割程度。授業で使用した経験がある人は2.2%にとどまる。
- 職業別にみると、(現役)高校生や大学生・専門学校生といった、より若い世代の認知率がやや高い。それでも認知率は10%台にとどまる。

- 17年度調査と比較すると、認知率は7.1%→9.6%へと、若干上昇している。
- 職業別にみると、大きな動きはないが、会社員、自営業以外は、いずれも認知率がやや上昇。性別・地域別でも、各層とも認知率が若干高まる。

3. 献血の広報・キャンペーンへの認知接触状況

【未経験者編】



(5) 「HOP STEP JUMP」を配布された記憶 (Q11)

Q11. 平成2年から全国の高校3年生を対象に、献血に関する普及啓発資材「HOP STEP JUMP」を配布していますが、学校で配られた記憶はありますか。

【基数:対象者全員】		(N)	保健体育の授業で 使用した				他の授業で使用した				配布されただけ				知らない				認知 (計)
全体			1.8	0.6	7.4	1.8	0.6	90.4	1.8	0.6	90.4	1.8	0.6	90.4	1.8	0.6	90.4	9.6	
	17年	(5000)	1.8	0.6	5.8	1.8	0.6	92.9	1.8	0.6	92.9	1.8	0.6	92.9	1.8	0.6	92.9	7.1	
高校生			1.6	0.3	15.0	1.6	0.3	81.6	1.6	0.3	81.6	1.6	0.3	81.6	1.6	0.3	81.6	18.4	
	17年	(398)	2.6	0.8	13.6	2.6	0.8	84.7	2.6	0.8	84.7	2.6	0.8	84.7	2.6	0.8	84.7	15.3	
大学生・専門学校生			1.5	0.4	10.3	1.5	0.4	86.2	1.5	0.4	86.2	1.5	0.4	86.2	1.5	0.4	86.2	13.8	
	17年	(932)	2.5	1.0	9.2	2.5	1.0	88.5	2.5	1.0	88.5	2.5	1.0	88.5	2.5	1.0	88.5	11.5	
職業別	会社員		1.7	0.5	3.9	1.7	0.5	95.1	1.7	0.5	95.1	1.7	0.5	95.1	1.7	0.5	95.1	4.9	
	17年	(1596)	0.1	0.2	4.4	0.1	0.2	94.5	0.1	0.2	94.5	0.1	0.2	94.5	0.1	0.2	94.5	5.5	
公務員			0.3	0.1	5.9	0.3	0.1	91.8	0.3	0.1	91.8	0.3	0.1	91.8	0.3	0.1	91.8	8.2	
	17年	(104)	1.2	1.2	3.8	1.2	1.2	96.2	1.2	1.2	96.2	1.2	1.2	96.2	1.2	1.2	96.2	3.8	
自営業			0.1	0.1	5.2	0.1	0.1	93.3	0.1	0.1	93.3	0.1	0.1	93.3	0.1	0.1	93.3	6.7	
	17年	(115)	1.5	0.0	5.2	1.5	0.0	92.2	1.5	0.0	92.2	1.5	0.0	92.2	1.5	0.0	92.2	7.8	
専業主婦			2.2	0.9	5.4	2.2	0.9	93.6	2.2	0.9	93.6	2.2	0.9	93.6	2.2	0.9	93.6	6.4	
	17年	(856)	0.6	0.5	4.4	0.6	0.5	94.9	0.6	0.5	94.9	0.6	0.5	94.9	0.6	0.5	94.9	5.1	
その他			0.6	0.1	4.3	0.6	0.1	94.5	0.6	0.1	94.5	0.6	0.1	94.5	0.6	0.1	94.5	5.5	
	17年	(999)	1.0	0.4	3.2	1.0	0.4	95.8	1.0	0.4	95.8	1.0	0.4	95.8	1.0	0.4	95.8	4.2	
性別	男性		0.5	0.2	7.1	0.5	0.2	91.1	0.5	0.2	91.1	0.5	0.2	91.1	0.5	0.2	91.1	8.9	
	17年	(1688)	1.8	0.3	6.1	1.8	0.3	92.6	1.8	0.3	92.6	1.8	0.3	92.6	1.8	0.3	92.6	7.4	
女性			0.0	0.3	7.8	0.0	0.3	89.7	0.0	0.3	89.7	0.0	0.3	89.7	0.0	0.3	89.7	10.3	
	17年	(3312)	1.7	0.8	5.7	1.7	0.8	93.1	1.7	0.8	93.1	1.7	0.8	93.1	1.7	0.8	93.1	6.9	
地域別	北海道		1.6	0.3	8.1	1.6	0.3	90.0	1.6	0.3	90.0	1.6	0.3	90.0	1.6	0.3	90.0	10.0	
	17年	(200)	1.8	1.0	6.5	1.8	1.0	93.0	1.8	1.0	93.0	1.8	1.0	93.0	1.8	1.0	93.0	7.0	
東北			0.5	0.0	10.7	0.5	0.0	87.6	0.5	0.0	87.6	0.5	0.0	87.6	0.5	0.0	87.6	12.4	
	17年	(350)	1.4	0.3	6.0	1.4	0.3	92.0	1.4	0.3	92.0	1.4	0.3	92.0	1.4	0.3	92.0	8.0	
関東甲信越			1.7	0.3	6.2	1.7	0.3	91.5	1.7	0.3	91.5	1.7	0.3	91.5	1.7	0.3	91.5	8.5	
	17年	(1800)	1.2	0.9	5.4	1.2	0.9	93.2	1.2	0.9	93.2	1.2	0.9	93.2	1.2	0.9	93.2	6.8	
東海北陸			1.6	0.3	9.2	1.6	0.3	88.6	1.6	0.3	88.6	1.6	0.3	88.6	1.6	0.3	88.6	11.4	
	17年	(750)	1.8	0.4	6.9	1.8	0.4	91.6	1.8	0.4	91.6	1.8	0.4	91.6	1.8	0.4	91.6	8.4	
近畿			1.6	0.1	5.6	1.6	0.1	92.5	1.6	0.1	92.5	1.6	0.1	92.5	1.6	0.1	92.5	7.5	
	17年	(850)	1.2	0.5	5.9	1.2	0.5	93.2	1.2	0.5	93.2	1.2	0.5	93.2	1.2	0.5	93.2	6.8	
中国・四国			0.5	0.2	8.8	0.5	0.2	89.1	0.5	0.2	89.1	0.5	0.2	89.1	0.5	0.2	89.1	10.9	
	17年	(450)	1.4	0.2	6.4	1.4	0.2	93.6	1.4	0.2	93.6	1.4	0.2	93.6	1.4	0.2	93.6	6.4	
九州・沖縄			0.1	0.1	8.2	0.1	0.1	89.7	0.1	0.1	89.7	0.1	0.1	89.7	0.1	0.1	89.7	10.3	
	17年	(600)	2.0	0.0	4.8	2.0	0.0	93.3	2.0	0.0	93.3	2.0	0.0	93.3	2.0	0.0	93.3	6.7	



(1) 献血では感染症に感染しないことの認知 (Q12)

- 『献血』でエイズ、肝炎といった感染症に感染しないことを認知している人は59.1%。
- 属性別による違いはあまりみられない。その中で、専業主婦の認知率が最も高く、また男性よりも女性の認知率が上回っている。

- 17年度調査と比較すると、認知率は60.9%→59.1%へと、ほぼ横ばい。
- 職業別にみると、公務員、自営業の認知率が低下している。特に、公務員の落ち込みが顕著。地域別では、北海道でやや低下している。



(1) 献血では感染症に感染しないことの認知 (Q12)

Q12. 献血でエイズ、肝炎その他の感染症に感染することはありませんが、そのことを知っていますか。

【基数:対象者全員】			(%)	
			知っている	知らない
全体		(N)	59.1	40.9
	17年	(5000)	60.9	39.1
高校生			60.5	39.5
	17年	(398)	56.8	43.2
大学生・専門学校生			60.9	39.1
	17年	(932)	65.0	35.0
会社員			58.5	41.5
	17年	(1596)	60.8	39.2
公務員			60.0	40.0
	17年	(104)	81.7	18.3
自営業			54.5	45.5
	17年	(115)	63.5	36.5
専業主婦			64.1	35.9
	17年	(856)	60.5	39.5
その他			53.1	46.9
	17年	(999)	56.7	43.3
性別	男性		56.3	43.7
	17年	(1688)	59.7	40.3
女性			62.0	38.0
	17年	(3312)	61.5	38.5
地域別	北海道		55.7	44.3
	17年	(200)	61.5	38.5
東北			61.7	38.3
	17年	(350)	58.9	41.1
関東甲信越			58.2	41.8
	17年	(1800)	58.9	41.1
東海北陸			59.2	40.8
	17年	(750)	63.1	36.9
近畿			58.7	41.3
	17年	(850)	62.7	37.3
中国・四国			61.9	38.1
	17年	(450)	62.4	37.6
九州・沖縄			59.7	40.3
	17年	(600)	61.2	38.8



(2) 血液製剤の海外血液依存の認知 (Q13)

- 《血液製剤は未だ海外の血液に依存している》ということを認知している人は14.5%。
- 職業別にみると、公務員の認知率が他層に比べてやや高い。
また、性別・地域別による差はあまりみられない。

- 17年度調査と比較すると、認知率は22.6%→14.5%へ、8ポイント低下した。
- 職業別では、各層ともほぼ10ポイント前後の低下となっている。また、地域別では九州・沖縄で最も低下している。



(2) 血液製剤の海外血液依存の認知 (Q13)

Q13. 血液製剤(*)は未だ海外の血液に依存していることを知っていますか。

*重症熱傷に用いるアルブミン製剤では、国内自給率は未だ60%台である。

		【基数:対象者全員】		(%)	
		(N)	知っている	知らない	
全体			14.5	85.5	
	17年	(5000)	22.6	77.4	
職業別	高校生		13.9	86.1	
	17年	(398)	24.4	75.6	
大学生・専門学校生			16.4	83.6	
	17年	(932)	25.6	74.4	
会社員			13.5	86.5	
	17年	(1596)	23.6	76.4	
公務員			21.2	78.8	
	17年	(104)	32.7	67.3	
自営業			17.9	82.1	
	17年	(115)	29.6	70.4	
専業主婦			10.6	89.4	
	17年	(856)	19.2	80.8	
その他			14.2	85.8	
	17年	(999)	18.7	81.3	
性別	男性		14.3	85.7	
	17年	(1688)	24.8	75.2	
女性			14.8	85.2	
	17年	(3312)	21.5	78.5	
地域別	北海道		17.1	82.9	
	17年	(200)	22.5	77.5	
東北			18.0	82.0	
	17年	(350)	23.1	76.9	
関東甲信越			13.3	86.7	
	17年	(1800)	18.7	81.3	
東海北陸			15.4	84.6	
	17年	(750)	25.1	74.9	
近畿			13.7	86.3	
	17年	(850)	25.3	74.7	
中国・四国			17.2	82.8	
	17年	(450)	23.3	76.7	
九州・沖縄			13.6	86.4	
	17年	(600)	26.8	73.2	



(1) 1位＜最も大きな理由＞（Q15）

- 『献血』をしたことがない理由を大きい順に3つまで選んでもらった。
1位に挙げた理由をみると、「針を刺すのが痛くて嫌だから」がトップで15.3%。
以下、「健康上出来ないと思ったから」(8.5%)、「なんとなく不安だから」(8.2%)、「近くに献血する場所や機会がなかったから」(7.8%)、「献血を申し込んだが、基準に適合せずに断られた」(7.7%)などが1割弱で続き、以上がベスト5。
- 職業別にみると、専業主婦で「献血を申し込んだが、基準に適合せずに断られた」が他層よりやや高い。一方、高校生は「健康上出来ないと思ったから」、公務員は「近くに献血する場所や機会がなかったから」、自営業は「針を刺すのが痛くて嫌だから」が他層よりやや低い。
- 地域別では、北海道で「献血する意志がない」とする割合が他地域に比べてやや高い。

- 17年度調査と比較すると、全体では「献血を申し込んだが、基準に適合せずに断られた」「健康上出来ないと思ったから」を理由に挙げる割合が若干減少している。
- 職業別では、「献血を申し込んだが、基準に適合せずに断られた」は高校生、自営業で前回よりやや低下。一方、公務員で「針を刺すのが痛くて嫌だから」が低下している。
- 地域別では、北海道で「針を刺すのが痛くて嫌だから」「献血する意志がない」が高まっている。

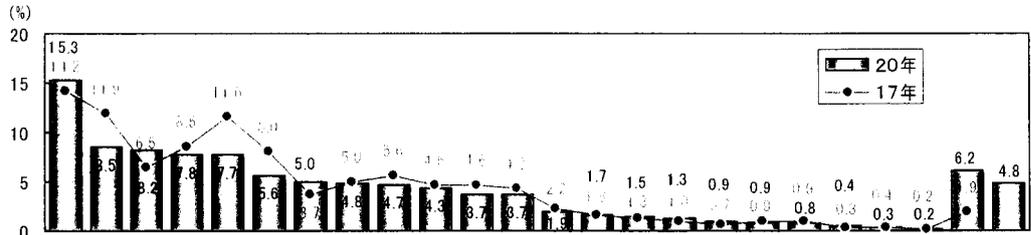
5. 献血をしたことがない理由

【未経験者編】



(1) 1位<最も大きな理由> (Q15)

Q15. 献血したことがないのはどのような理由からですか。
理由の大きい順に3つまでお選びください。(それぞれひとつずつ)



【基数:対象者全員】

	(N)	理由																				(%)					
		針を刺すのが痛くて嫌だから	健康上出来ないと思ったから	なんとなく不安だから	近くに献血する場所や機会がなかったから	献血を申し込んだが、基準に適合せずに断られた	献血している所に入りづらかったから	献血する意志がない	恐怖心	時間がかかりそうだから	血を探られるという感じが嫌だ	忙しくて献血する時間がなかったから	薬を服用しているので献血ができない	どこで献血ができるか分からない	献血場所が遠いので面倒だから	病気がうつると思ったから	自分が献血しなくても誰かがやると思ったから	呼び込みが強引で嫌だったから	海外渡航歴等による献血制限で献血しなくてもできない	自分の血液が役に立たないと思ったから	献血すると言ったら、友人や家族からとめられた		血液が無駄にされていると聞いたから	職員の態度が悪いので献血したくない	わからない	その他	
全体	17年 (5000)	15.3	8.5	8.2	7.8	7.7	5.6	5.0	4.8	4.7	4.3	3.7	3.7	3.7	1.9	1.7	1.5	1.3	0.9	0.9	0.8	0.4	0.3	0.2	6.2	4.8	
職業別	高校生	17年 (398)	15.2	2.4	8.8	12.5	3.4	6.2	5.8	5.9	3.8	3.2	4.2	1.3	3.4	1.9	0.8	1.6	0.5	0.6	0.5	0.8	0.2	5.4	11.2		
	大学生・専門学校生	17年 (932)	16.2	7.9	9.2	7.2	6.6	6.5	5.0	4.6	5.8	6.0	4.1	3.4	1.5	1.8	1.6	1.5	1.1	1.1	0.7	0.4	0.1	0.3	4.2	3.4	
	会社員	17年 (1596)	15.3	8.6	8.0	6.5	9.2	5.0	5.1	4.2	4.9	4.7	3.5	3.4	1.7	1.9	1.6	1.0	1.3	1.2	1.2	0.2	0.3	0.2	6.7	4.5	
	公務員	17年 (104)	15.3	9.4	10.6	2.4	9.4	5.9	1.2	3.5	5.9	2.4	5.9	1.2	-	1.2	1.2	3.5	1.2	2.4	-	1.2	2.4	-	9.4	4.7	
	自営業	17年 (115)	7.5	11.9	5.2	13.4	8.2	3.7	6.0	3.0	2.2	5.2	3.0	5.2	2.2	1.5	3.7	1.5	0.7	1.5	0.7	-	-	-	7.5	6.0	
	専業主婦	17年 (856)	13.7	11.8	6.4	5.9	15.4	4.3	3.1	5.4	3.3	1.9	4.0	6.1	0.9	0.5	0.9	0.9	0.2	-	0.2	0.9	-	0.2	10.2	3.5	
	その他	17年 (999)	15.6	12.1	7.3	8.4	6.0	5.3	5.5	5.4	3.8	2.6	2.6	5.8	2.6	1.4	1.6	1.6	0.6	0.3	0.7	0.4	0.3	0.1	7.1	3.0	
	性別	男性	17年 (1688)	13.9	6.3	8.1	9.0	3.6	5.8	7.2	4.1	6.0	5.4	4.5	2.5	2.6	2.2	1.7	1.7	1.3	1.0	0.8	0.2	0.2	0.3	5.4	6.4
		女性	17年 (3312)	16.7	10.8	8.2	6.5	12.1	5.4	2.7	5.5	3.3	3.2	2.9	5.0	1.1	1.3	1.3	1.0	0.6	0.7	0.7	0.7	0.3	0.1	7.0	3.1
	地域別	北海道	17年 (200)	18.6	7.6	4.8	7.1	7.1	5.2	10.5	4.8	2.9	2.9	3.8	4.3	1.9	1.9	1.4	-	0.5	0.5	1.0	0.5	0.5	-	6.7	5.7
東北		17年 (350)	11.0	11.0	5.6	11.3	10.1	7.9	5.6	3.9	3.7	4.2	2.8	4.2	2.3	0.8	1.7	1.1	0.6	0.6	0.3	0.8	-	-	7.0	3.4	
関東甲信越		17年 (1800)	15.4	8.5	8.6	6.0	7.3	5.5	4.9	5.5	4.9	5.6	3.3	3.7	1.5	1.3	2.0	1.4	1.2	1.1	0.5	0.4	0.2	0.1	6.2	4.8	
東海北陸		17年 (750)	14.6	9.6	9.6	7.7	6.8	4.9	5.3	4.5	3.8	4.1	4.5	2.9	2.3	2.7	0.4	0.8	0.8	1.0	1.3	0.4	0.4	0.1	6.5	5.0	
近畿		17年 (850)	16.5	6.9	8.8	9.4	6.6	7.0	4.3	4.9	5.3	3.9	3.8	4.4	1.5	1.3	1.3	2.0	0.9	0.6	0.7	0.5	0.1	0.4	5.3	3.6	
中国・四国		17年 (450)	16.0	10.2	6.5	8.8	6.7	3.0	3.7	3.5	5.8	2.6	4.2	3.9	2.8	2.1	1.2	1.4	0.7	1.2	1.6	0.2	0.7	0.7	6.7	5.8	
九州・沖縄		17年 (600)	14.8	6.7	8.1	8.4	11.3	5.5	4.6	4.1	4.6	3.1	3.8	2.9	2.2	2.1	1.5	1.5	0.9	0.5	0.5	0.2	0.5	0.2	6.0	6.0	

注: 17年は「その他」の回答数なし。



(2)1位～3位累計 (Q15)

- 『献血』をしたことがない理由を、1位～3位の累計で見ると「針を刺すのが痛くて嫌だから」(31.2%)と「なんとなく不安だから」(30.8%)が上位で拮抗し、主な理由となっている。以下、「時間がかかりそうだから」(21.6%)、「恐怖心」(21.1%)、「近くに献血する場所や機会がなかったから」(19.9%)が2割前後で続き、以上がベスト5。
- 職業別にみると、高校生で「近くに献血する場所や機会がなかったから」がやや高い。公務員は他層に比べて「時間がかかりそうだから」「忙しくて献血する時間がなかった」が高く、その一方で「献血している所に入りづらかったから」がやや低い。なお、専業主婦では1位の理由と同様に、「献血を申し込んだが、基準に適合せず断られた」が他層よりもやや高い。
- 性別では、女性で「健康上出来ないと思ったから」という理由が男性に比べて高くなっている。

- 17年度調査と比較すると、全体では総じて大きな変化はみられない。その中で「健康上出来ないと思った」が5ポイント低下した。
- 職業別では、公務員で「時間がかかりそうだから」「忙しくて献血する時間がなかった」「近くに献血する場所や機会がなかったから」等が上昇。また自営業で「なんとなく不安だから」「血を採られるという感じが嫌だ」という意識がやや高まる。
- 一方、「健康上できないと思ったから」は高校生、会社員、公務員でやや低下傾向。また、大学生・専門学校生は「忙しくて献血する時間がなかったから」、高校生は「どこで献血ができるかわからない」「献血を申し込んだが、基準に適合せず断られた」との理由はやや減少した。

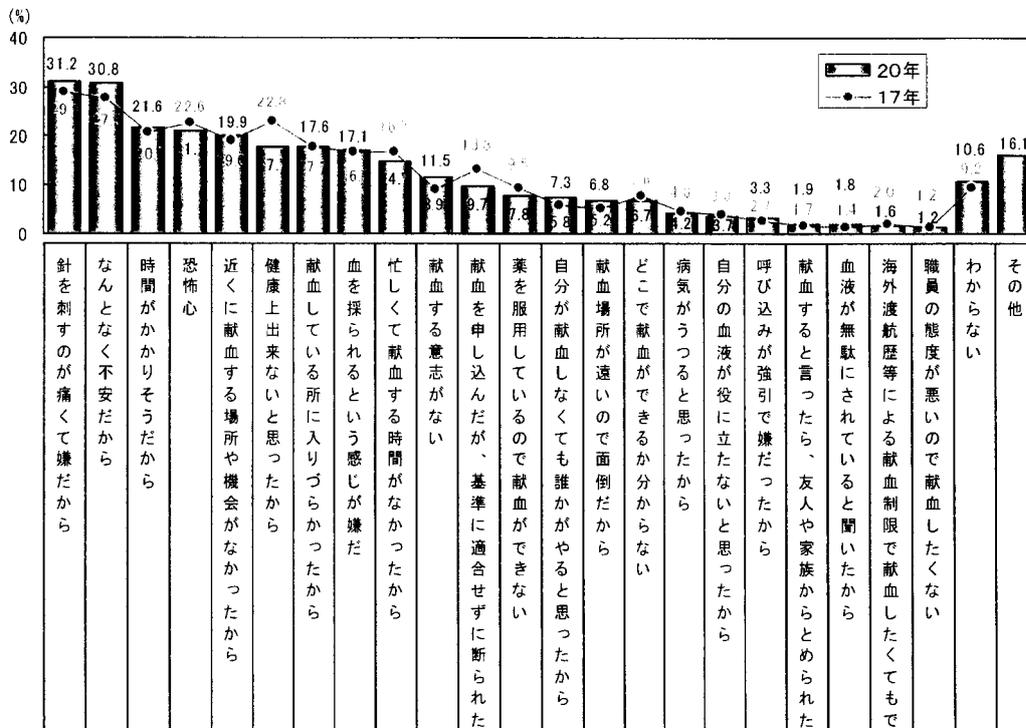
5. 献血をしたことがない理由

【未経験者編】



(2)1位~3位累計 (Q15)

Q15. 献血したことがないのはどのような理由からですか。
理由の大きい順に3つまでお選びください。(それぞれひとつずつ)



【基数:対象者全員】

	(N)	理由 (%)																								
		17年	17年	17年	17年	17年	17年	17年	17年	17年	17年	17年	17年	17年	17年	17年	17年	17年	17年	17年						
全体	(5000)	31.2	30.8	21.6	21.1	19.9	17.7	17.6	17.1	14.7	11.5	9.7	7.8	7.3	6.8	6.7	4.2	3.7	3.3	1.9	1.8	1.6	1.2	10.6	16.1	
職業別	高校生	(398)	30.7	29.4	18.7	22.0	25.9	7.0	17.4	16.1	11.2	4.8	3.2	6.4	8.6	9.7	2.7	3.2	1.8	1.8	1.9	1.3	0.8	8.8	23.3	
	大学生・専門学校生	(932)	33.2	31.8	25.1	21.8	17.3	16.6	19.4	20.3	16.0	12.1	8.8	6.8	8.8	6.5	5.1	4.2	2.8	4.1	2.4	1.8	1.8	1.3	7.6	13.5
	会社員	(1596)	30.8	30.6	21.5	20.9	18.6	16.9	16.7	17.0	14.8	12.3	11.2	7.8	6.1	7.1	5.8	5.2	3.8	3.6	1.2	1.9	2.2	1.6	11.8	16.3
	公務員	(104)	31.8	34.1	27.1	18.8	18.8	15.3	11.8	15.3	21.2	9.4	10.6	7.1	9.4	10.6	2.4	1.2	4.7	4.7	1.2	4.7	2.4	-	16.5	10.6
	自営業	(115)	22.4	27.6	18.7	15.7	22.4	22.4	16.4	17.9	14.9	9.7	9.7	8.2	8.2	5.2	8.2	6.7	7.5	6.7	0.7	2.2	1.5	1.5	11.9	16.4
	専業主婦	(856)	30.7	29.3	17.7	20.3	21.0	26.2	17.7	13.2	14.2	6.6	16.8	11.6	7.3	5.0	3.8	4.0	2.8	1.4	3.1	1.4	0.7	0.5	15.8	15.8
	その他	(999)	29.9	31.9	19.1	21.1	22.0	25.7	16.8	13.7	9.8	12.2	8.5	11.4	6.8	6.1	11.5	3.3	5.1	2.4	1.8	1.6	0.7	1.0	11.4	15.5
	性別																									
男性	(1688)	29.3	30.9	24.6	17.7	20.5	12.8	17.1	19.6	16.2	15.3	5.0	5.8	8.5	7.9	8.0	4.1	3.3	4.2	1.1	1.9	1.6	1.4	8.8	17.2	
女性	(3312)	33.1	30.8	18.4	24.6	19.4	22.8	18.1	14.4	13.1	7.6	14.7	9.8	6.0	5.7	5.4	4.3	4.0	2.3	2.7	1.8	1.6	1.0	12.4	15.0	
地域別	北海道	(200)	31.4	29.5	21.0	19.0	22.9	21.0	13.8	19.0	11.9	18.1	8.1	8.6	4.8	6.7	4.8	3.3	5.2	1.9	1.9	1.4	0.5	0.5	12.4	15.7
	東北	(350)	23.9	27.3	22.0	17.2	24.8	19.7	20.0	16.1	16.6	13.2	12.4	9.9	8.2	8.7	7.0	3.4	4.5	3.4	2.3	1.7	1.7	1.1	10.7	13.5
	関東甲信越	(1800)	32.6	31.8	22.1	22.4	15.7	18.5	16.9	19.1	13.6	12.1	9.4	8.2	6.9	4.7	4.9	4.8	3.2	4.3	2.0	2.1	1.6	1.1	11.5	16.4
	東海北陸	(750)	31.3	31.3	19.5	20.8	22.8	18.1	15.0	17.2	14.0	10.5	8.5	6.5	7.2	8.6	10.0	3.3	4.1	2.8	2.1	2.4	1.8	1.3	9.6	16.2
	近畿	(850)	32.7	32.0	23.8	21.4	21.4	15.0	21.9	16.4	15.9	11.4	8.6	7.2	8.1	6.1	6.4	3.8	3.2	2.7	1.0	1.0	1.6	1.2	8.9	15.4
	中国・四国	(450)	31.6	29.2	22.3	20.6	20.9	19.0	15.3	14.8	14.6	10.0	8.4	8.4	7.0	10.7	9.0	4.2	4.4	1.4	2.6	2.3	2.1	1.4	10.9	15.1
	九州・沖縄	(600)	28.3	29.5	18.9	20.6	22.5	15.4	18.7	13.0	17.2	8.7	14.1	6.9	8.1	8.1	7.4	5.0	3.4	3.4	1.7	1.4	1.2	1.5	10.1	18.5

注: 17年は「その他」の回答肢なし。



(1) 1位＜最も大きな要因＞ (Q16)

- 『献血』をするきっかけになり得ることを大きい順に3つまで選んでもらった。1位に挙げたのは「針を刺すときに痛みを和らげる処置が実施された」点で12.1%。前述の献血をしたことがない理由でも「針を刺すのが痛くて嫌だから」が1位だったことから、やはり“針を刺す時の痛さ”が献血へのネックとなっていることが窺える。
- 以下、「家族や友人などから勧められた」(11.4%)、「献血しているところが入りやすい雰囲気になった」(8.6%)、「近くに献血する場所ができた(献血ルーム)」(7.1%)の順で続く。
- 職業別にみると、1位の「針を刺すときに痛みを和らげる処置が実施された」は公務員でやや高く、自営業で最も低い。その自営業では「献血は絶対しない」がほぼ1/4と多い。
- 性別・地域別による違いはあまりみられない。その中で、北海道で「献血は絶対にしない」が他の地域よりもやや高い。

- 17年度調査と比較すると、全体では「献血しているところが入りやすい雰囲気になった」を挙げる割合が約9ポイント減少したのが目立つ。一方、「献血は絶対にしない」を挙げる割合が増加している。
なお、「近くに献血する場所ができた」は、今回、(献血ルーム)と(献血バスまたは出張献血)に回答肢を分けたため、前回との比較は参考程度となるが、概ね大きな違いはみられない。
- 属性別にみると、各層とも総じて「献血しているところが入りやすい雰囲気になった」が減少、「献血は絶対にしない」が増加しているのは共通。
- それ以外では、公務員で「献血の重要性が明確になった」がやや上昇。一方、自営業で「針を刺すときに痛みを和らげる処置が実施された」が前回に比べてやや低下している。

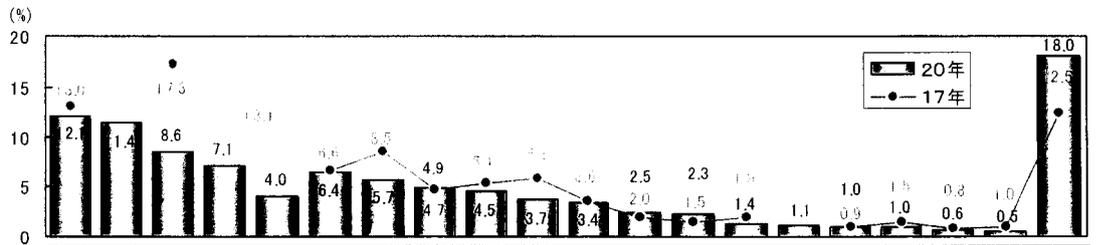
6. 献血するきっかけとなり得る要因

【未経験者編】



(1) 1位<最も大きな要因> (Q16)

Q16. あなたが献血するきっかけとなり得る項目を選択してください。
 きっかけの大きい順に3つまでお選びください。(それぞれひとつずつ)



針を刺すときに痛みを和らげる処置が実施された	家族や友人などから勧められた	献血しているところが入りやすい雰囲気になった	近くに献血する場所ができた(献血ルーム)	近くに献血する場所ができた(献血バスまたは出張献血)	献血の重要性が明確になった	献血が自分の健康管理の役に立つようになった	献血したときの処遇品(記念品)が良くなった	針が細くなった	キャンペーンやイベント等により	献血が健康にほとんど害がないということが分かった	献血で病気がうつることはない我知道了	献血できる場所が分かった	血液が無駄になってないことが分かった	好きなタレントがキャンペーンに起用されていた	海外渡航歴等の献血制限が解除された	献血ルームのサービスが良くなった	職員の態度が良くなった	献血ルームの受付時間が長くなった	献血は絶対しない
------------------------	----------------	------------------------	----------------------	----------------------------	---------------	-----------------------	-----------------------	---------	-----------------	--------------------------	--------------------	--------------	--------------------	------------------------	-------------------	------------------	-------------	------------------	----------

【基数:対象者全員】

	(N)	2020年 (%)																				2017年 (%)																			
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20																				
全体	5000	12.1	11.4	8.6	7.1	4.0	6.4	5.7	4.9	4.5	3.7	3.4	2.5	2.3	1.4	1.1	1.0	1.0	0.6	0.5	18.0	13.0	11.4	17.3	13.1	4.0	6.6	8.5	4.7	5.4	5.8	3.6	2.0	1.5	1.9	0.9	1.5	0.8	1.0	12.5	
職業別	高校生	11.2	15.3	7.8	8.0	4.0	5.9	2.9	5.1	4.5	3.7	2.2	1.9	4.3	1.8	1.6	0.8	1.3	0.3	0.2	17.3	13.8	16.3	16.6	8.5	3.8	7.0	6.3	6.8	2.0	1.0	2.0	3.8	1.0	1.5	1.0	0.5	8.0			
	大学生・専門学校生	13.5	12.1	9.2	5.7	4.5	7.1	5.2	5.2	3.8	3.5	3.4	2.5	2.1	1.5	1.5	1.1	1.0	0.7	0.7	15.7	14.4	18.3	11.3	7.1	8.3	4.7	6.2	4.8	3.4	2.3	1.6	1.7	1.2	1.6	0.6	1.2	11.3			
	会社員	12.2	10.7	7.2	5.9	3.5	6.4	6.6	5.0	4.8	4.8	3.8	2.7	1.9	1.5	0.7	1.4	1.2	0.6	0.6	18.5	13.3	15.9	11.7	7.1	9.5	4.8	4.6	5.5	3.2	2.3	1.1	2.1	0.9	1.3	0.9	1.4	14.4			
	公務員	17.6	8.2	4.7	3.5	7.1	7.1	7.1	4.7	9.4	4.7	1.2	3.5	-	2.4	-	1.2	-	-	-	17.6	17.3	15.4	10.6	1.9	8.7	5.8	4.8	4.8	6.7	1.0	1.9	3.8	-	1.9	-	-	13.5			
	自営業	5.2	11.9	9.0	10.4	2.2	9.0	3.7	2.2	3.0	1.5	3.7	4.5	3.0	1.5	2.2	0.2	0.7	0.7	-	23.1	13.9	10.4	17.4	4.3	9.6	6.1	5.2	7.0	5.2	1.7	3.5	2.6	0.9	-	1.7	0.9	9.6			
	専業主婦	10.4	10.9	11.8	9.5	2.6	4.7	7.8	5.4	6.1	2.8	4.0	2.8	1.7	0.7	0.5	0.5	0.7	0.5	0.2	16.3	9.5	19.2	15.8	6.4	9.3	4.0	5.3	6.1	3.6	2.0	1.5	0.9	0.8	2.0	0.6	0.9	12.1			
	その他	11.4	8.7	9.2	10.4	4.6	5.7	6.0	4.0	3.8	2.7	3.3	1.8	2.3	0.6	0.7	0.6	0.7	0.6	0.3	22.8	13.3	18.3	13.4	5.5	8.0	3.7	5.5	6.5	4.3	2.0	1.7	1.4	2.0	0.7	1.6	0.7	0.4	12.9		
	性別	男性	10.9	10.9	7.3	7.3	4.0	7.2	5.6	5.6	3.6	3.9	3.4	2.5	2.8	1.9	1.2	1.1	0.8	0.6	0.5	19.0	12.0	16.4	13.2	7.4	7.8	5.7	5.1	6.0	3.0	1.8	1.6	2.7	0.6	1.2	1.1	0.9	13.5		
女性	13.3	12.0	9.9	7.0	4.0	5.6	5.8	4.2	5.4	3.5	3.4	2.5	1.8	0.8	0.9	1.0	1.2	0.6	0.4	17.0	13.5	17.8	13.1	6.2	8.8	4.1	5.5	5.7	3.8	2.1	1.5	1.4	1.1	1.6	0.7	1.0	1.2	12.0			
地域別	北海道	9.5	9.5	6.7	9.0	2.9	7.6	5.7	7.1	5.7	1.9	2.4	2.4	2.9	1.4	1.4	-	-	0.5	-	23.3	13.5	17.5	19.0	3.5	9.0	4.0	5.0	6.5	3.5	2.5	2.0	0.5	0.5	0.5	-	1.0	11.5			
	東北	9.3	13.2	10.4	7.6	4.2	6.2	7.9	4.8	4.5	3.4	3.7	2.3	2.3	1.7	0.6	0.8	0.6	0.8	0.8	14.9	14.3	18.3	11.4	6.6	8.6	5.1	4.3	5.7	3.1	2.3	0.6	2.3	-	1.1	0.6	0.9	14.9			
	関東甲信越	12.4	11.0	7.7	6.4	3.1	6.7	5.8	4.9	4.1	3.2	4.0	2.9	2.4	1.3	0.9	1.0	1.1	0.7	0.3	20.1	12.6	16.7	10.7	7.0	9.0	5.1	5.3	5.2	3.3	2.3	1.6	2.2	1.1	2.1	0.9	1.1	1.3	13.8		
	東海北陸	11.9	12.2	9.2	8.7	5.5	4.9	5.4	4.4	3.3	3.5	3.5	1.8	2.9	1.2	0.9	0.9	0.9	0.1	0.8	18.1	12.0	17.5	15.6	6.7	9.1	4.8	5.3	5.3	2.8	1.3	1.9	1.3	1.2	0.7	1.1	0.8	12.7			
	近畿	14.3	11.6	9.1	5.4	3.4	7.5	5.3	4.7	5.0	5.0	2.3	3.2	1.5	1.7	1.3	1.2	1.0	0.4	0.7	15.3	13.6	16.7	12.0	7.6	6.7	3.8	5.5	6.7	4.1	2.4	2.4	2.0	1.3	1.5	0.9	0.8	11.9			
	中国・四国	10.9	11.8	7.9	8.1	4.9	5.8	4.9	4.9	4.9	4.2	3.9	2.1	2.6	1.2	1.2	0.9	1.9	1.2	0.2	16.7	13.8	17.6	14.7	4.7	9.6	3.8	7.3	6.0	5.3	2.0	0.7	2.0	0.9	0.7	0.9	0.9	9.3			
	九州・沖縄	11.8	10.6	9.8	8.1	4.8	6.2	5.3	5.0	5.5	4.5	2.6	1.7	1.9	1.4	1.4	1.5	0.9	0.5	0.3	16.3	13.0	19.0	16.8	6.3	7.7	5.0	4.5	6.5	3.3	1.2	0.8	1.5	0.2	2.0	0.5	1.2	10.5			

注: 17年は「家族や友人などから勧められた」「好きなタレントがキャンペーンに起用されていた」の回答なし。

「近くに献血する場所ができた(献血ルーム)」「近くに献血する場所ができた(献血バスまたは出張献血)」は17年は「近くに献血する場所ができた」のみ。



(2)1位～3位累計 (Q16)

- 『献血』をするきっかけになり得る要因を1位～3位の累計で見ると、「献血しているところが入りやすい雰囲気になった」が最も高く27.4%。「針を刺すときに痛みを和らげる処置が実施された」が25.7%で差のない2位。
- 以下、「献血の重要性が明確になった」「家族や友人などから勧められた」(各20.8%)、「献血が自分の健康管理に役に立つようになった」(20.1%)、「近くに献血する場所ができた(献血ルーム)」(18.7%)の順で続く。
- 職業別にみると、公務員で「献血の重要性が明確になった」「針が細くなった」がきっかけになる得る要因とする割合が他層よりもやや高い。一方、自営業は「近くに献血する場所ができた(献血ルーム)」がや高いが、逆に「針を刺すときに痛みを和らげる処置が実施された」が他層に比べて低い。
- 地域別では、北海道で「献血しているところが入りやすい雰囲気になった」が他地域より低い。

- 17年度調査と比較すると、全体では「献血しているところが入りやすい雰囲気になった」「献血が自分の健康管理の役に立つようになった」が6ポイント減少している。それ以外はそれほど違いはみられない。
- 属性別にみると、公務員、自営業で「献血しているところが入りやすい雰囲気になった」点を挙げる割合が高まるが、それ以外の層は低下傾向。また、公務員は「献血の重要性が明確になった」も大きく上昇した。自営業は「針を刺すときに痛みを和らげる処置が実施された」が前回に比べて低下したのが目立つ。
- 地域別では、北海道で「献血の重要性が明確になった」が上昇、「献血しているところが入りやすい雰囲気になった」の落ち込みが目立つ。

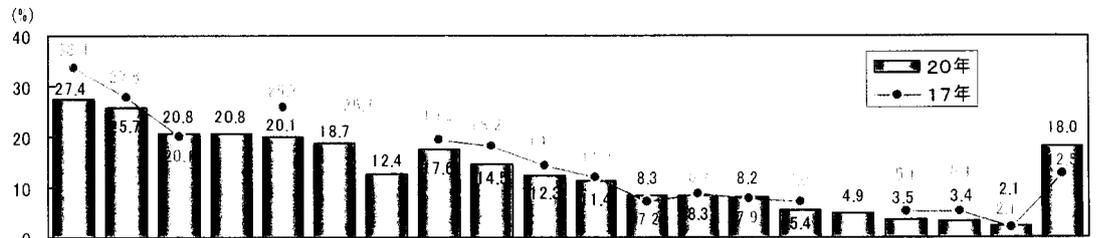
6. 献血するきっかけとなり得る要因

【未経験者編】



(2)1位～3位累計 (Q16)

Q16. あなたが献血するきっかけとなり得る項目を選択してください。
 きっかけの大きい順に3つまでお選びください。(それぞれひとつずつ)



【基数:対象者全員】

	(N)	2020年																		2017年																						
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18					
全体	5000	27.4	25.7	20.8	20.8	20.1	18.7	12.4	17.6	14.5	12.3	11.4	8.3	8.3	8.2	5.4	4.9	3.5	3.4	2.1	18.0	33.4	27.6	20.1	20.8	20.1	25.7	25.7	30.7	19.6	20.9	18.3	9.8	10.8	13.6	5.0	7.8	3.3	5.8	1.8	8.0	
職業別	高校生	206	26.5	25.6	19.6	24.4	12.8	22.4	13.6	18.4	15.8	11.5	9.7	10.7	10.7	6.5	5.8	6.9	1.6	3.0	2.7	17.3	35.9	30.2	23.6	15.3	20.4	16.4	12.4	18.6	14.6	13.5	11.6	8.1	6.8	8.8	5.5	5.3	4.6	3.9	2.0	15.7
	大学生・専門学校生	932	28.2	28.5	21.8	22.0	20.4	16.4	12.4	18.6	14.6	13.5	11.6	8.1	6.8	8.8	5.5	5.3	4.6	3.9	2.0	15.7	35.8	31.2	22.5	15.3	25.8	22.9	22.5	16.5	13.0	11.5	7.3	7.8	8.0	8.2	6.1	5.2	2.6	11.3		
	会社員	1596	25.8	26.0	21.1	19.5	23.5	16.6	11.3	16.7	15.0	12.5	11.6	8.5	7.8	8.6	5.4	5.0	4.5	2.9	2.3	18.5	30.2	27.6	20.1	27.7	23.9	18.1	18.2	13.6	11.8	7.7	7.5	8.4	5.5	6.1	4.8	1.9	14.4			
	公務員	104	29.4	29.4	27.1	20.0	22.4	14.1	9.4	23.5	10.6	12.9	8.2	10.6	1.2	11.8	4.7	2.4	4.7	2.4	2.4	2.4	17.6	23.1	30.8	13.5	24.0	19.2	22.1	19.2	20.2	12.5	6.7	2.9	9.6	8.7	2.9	7.7	1.9	13.5		
	自営業	115	26.9	14.9	24.6	20.1	14.9	24.6	15.7	10.4	14.2	6.7	8.2	9.7	13.4	9.0	3.0	6.0	0.7	3.0	4.5	23.1	20.0	27.8	21.7	26.1	32.2	13.9	18.3	13.9	12.2	17.4	4.3	7.0	3.5	5.2	1.7	9.6				
	専業主婦	856	29.8	20.8	17.5	19.1	22.0	21.7	12.3	20.6	16.8	15.6	15.1	7.3	9.0	7.8	6.9	2.8	2.4	2.4	1.2	16.3	36.1	20.9	18.2	26.1	29.3	18.2	18.1	15.2	12.1	5.8	7.9	8.3	9.6	4.6	4.9	2.2	12.1			
	その他	999	28.6	23.8	19.6	19.1	17.8	22.9	13.9	15.5	11.2	9.1	10.8	6.5	10.0	7.3	4.3	3.7	2.0	4.4	1.3	22.8	35.5	28.5	18.4	26.6	26.2	18.9	18.6	12.1	13.0	5.4	9.7	8.0	5.9	4.2	4.9	1.8	12.9			
	男性	1688	24.9	24.9	22.1	20.2	19.7	18.3	12.5	14.9	14.9	12.5	11.3	9.7	9.0	8.5	4.7	5.4	3.8	3.4	2.2	19.0	31.0	28.0	22.6	24.2	26.3	19.1	19.4	14.5	11.5	8.5	10.8	7.1	5.3	5.5	5.6	1.7	13.5			
女性	3312	30.0	26.5	19.4	21.4	20.4	19.2	12.4	20.4	14.1	12.1	11.5	7.0	7.6	7.9	6.0	4.5	3.2	3.4	2.0	17.0	34.6	27.4	18.8	26.5	25.4	19.3	17.5	13.9	12.2	6.5	7.6	8.3	7.9	4.9	4.8	2.3	12.0				
地域別	北海道	200	17.6	22.9	21.0	19.0	19.5	20.5	11.9	18.6	11.0	13.8	10.0	9.5	10.0	7.6	2.9	6.7	3.8	2.9	1.0	23.3	34.5	29.5	13.5	26.5	34.5	19.0	21.5	10.5	11.0	8.0	9.0	9.0	5.5	7.5	4.5	1.5	11.5			
	東北	350	31.3	22.0	22.0	21.4	21.4	19.4	16.3	16.1	12.4	12.1	10.7	10.1	9.9	9.0	5.9	4.2	5.4	3.4	2.3	14.9	30.9	27.1	18.3	30.9	22.9	17.4	18.6	12.6	11.4	7.4	10.0	7.4	6.9	5.4	4.3	1.1	14.9			
	関東甲信越	1800	27.0	26.1	20.3	20.3	20.3	16.0	9.7	17.2	13.4	12.4	12.7	8.1	7.2	8.6	6.4	4.3	3.2	4.7	2.0	20.1	33.2	26.8	19.9	26.6	22.3	18.3	16.8	15.4	12.3	6.7	8.0	8.7	8.4	4.8	4.8	2.4	13.8			
	東海北陸	750	29.5	22.8	19.2	21.3	19.9	21.3	15.6	15.4	15.8	11.3	11.9	7.8	9.2	7.3	4.6	5.4	3.5	2.1	1.9	18.1	34.1	28.7	20.8	25.1	28.5	18.7	18.8	13.9	11.6	6.8	9.2	6.3	5.1	4.5	4.5	2.7	12.7			
	近畿	850	27.8	29.8	23.0	21.0	20.7	19.0	12.0	19.5	15.3	11.5	9.1	10.2	7.5	9.3	4.7	4.4	4.2	2.6	2.6	15.3	33.5	28.7	19.2	23.9	24.6	20.8	17.4	12.6	11.9	7.1	8.7	8.4	6.4	4.2	5.1	5.6	2.2	11.9		
	中国・四国	450	25.1	26.0	20.2	23.2	19.5	21.1	14.2	16.5	14.2	13.0	12.5	9.0	10.9	6.5	4.9	6.0	2.6	2.6	2.1	16.7	33.1	27.6	21.3	25.8	27.8	22.2	21.8	12.7	14.9	10.2	8.0	8.4	5.3	5.3	5.3	1.8	9.3			
	九州・沖縄	600	28.1	25.6	21.1	19.9	18.5	20.8	13.9	20.6	17.8	13.6	10.1	5.3	8.4	7.5	5.1	6.2	3.3	3.1	2.2	16.3	34.3	26.7	23.0	23.5	31.3	19.3	18.5	15.5	9.7	6.5	9.7	6.3	8.3	5.7	6.2	1.0	10.5			

注: 17年は「家族や友人などから勧められた」「好きなタレントがキャンペーンに起用されていた」の回答肢なし。
 「近くに献血する場所ができた(献血ルーム)」「近くに献血する場所ができた(献血バスまたは出張献血)」は17年は「近くに献血する場所ができた」のみ。



(1) 家族の献血の有無 (Q17)

<新規質問>

- 家族が『献血』している姿を見たことが「ある」という人は10.6%と1割程度にとどまる。
- 職業別にみると、「ある」の割合は高校生、専業主婦でやや高い。また、男性よりも女性の方が約7ポイント上回る。
- 地域別による差はそれほどみられない。

7. 家族・友人の献血状況

【未経験者編】



(1) 家族の献血の有無 (Q17)

Q17. ご家族が献血している姿を見たことがありますか。

【基数:対象者全員】		(N)	ある			ない			覚えていない		
全体		(5000)	10.6	80.0			9.4				
職業別	高校生	(626)	15.5	74.1			10.4				
	大学生・専門学校生	(1484)	10.4	79.8			9.8				
	会社員	(1545)	8.8	81.6			9.6				
	公務員	(85)	11.8	80.0			8.2				
	自営業	(134)	10.4	78.4			11.2				
	専業主婦	(423)	15.4	79.0			5.7				
	その他	(703)	7.3	83.2			9.5				
性別	男性	(2556)	7.4	81.6			11.0				
	女性	(2444)	13.9	78.3			7.8				
地域別	北海道	(210)	11.9	77.6			10.5				
	東北	(355)	11.8	80.8			7.3				
	関東甲信越	(1825)	9.0	81.6			9.3				
	東海北陸	(780)	10.6	80.3			9.1				
	近畿	(816)	12.3	78.7			9.1				
	中国・四国	(431)	12.3	77.7			10.0				
	九州・沖縄	(583)	10.3	78.4			11.3				



(2)友人の献血の有無 (Q18)

<新規質問>

- 《友達に献血をしている人はいますか》と質問したところ、「いる」が33.4%、「いない」が34.1%、「わからない」が32.5%と、大きく3分割された。
- 職業別にみると、「いる」の割合が高いのは公務員、大学生・専門学校生。一方、高校生のほぼ半数が「いない」としており、他層で比べて目立つ。
- 性別では、「いる」の割合は男性に比べて女性が10ポイント上回っている。
- 地域別では、北海道、東北で「いる」が4割程度と他地域よりもやや高い。



(2)友人の献血の有無 (Q18)

Q18. あなたのお友達に献血をしている人はいますか。

【基数:対象者全員】		(N)	(%)		
			いる	いない	わからない
全体		(5000)	33.4	34.1	32.5
職業別	高校生	(626)	12.1	48.4	39.5
	大学生・専門学校生	(1484)	40.3	31.5	28.2
	会社員	(1545)	37.3	31.1	31.6
	公務員	(85)	48.2	25.9	25.9
	自営業	(134)	29.9	34.3	35.8
	専業主婦	(423)	36.6	31.0	32.4
	その他	(703)	26.2	36.6	37.3
	性別	男性	(2556)	28.4	36.2
女性		(2444)	38.7	32.0	29.3
地域別	北海道	(210)	41.4	31.0	27.6
	東北	(355)	39.7	31.5	28.7
	関東甲信越	(1825)	33.6	33.5	32.9
	東海北陸	(780)	28.7	38.8	32.4
	近畿	(816)	33.2	35.3	31.5
	中国・四国	(431)	34.8	34.1	31.1
	九州・沖縄	(583)	31.6	31.0	37.4



(1) 献血の必要性への理解が良くなったか (Q19-1)

- 献血に関する資料(巻末参照)の閲読後に、『献血』に関する意識の変化を質問した。まず、「献血の必要性への理解は良くなりましたか」という質問では、「はい」が34.0%で、「どちらかというとはい」(57.8%)まで含めると、「はい計(理解が良くなった)」は実に91.7%にのぼる。否定的な意見はほとんどみられなかった。
- 職業別にみると、肯定的な評価は特に専業主婦で高い。特に、トップボックス(はい)で他層との差が大きい。一方、自営業で好意的な評価は他層よりもやや低い。
- 地域別では、九州・沖縄でトップボックスが他地域に比べて高くなっている。

- 17年度調査と比較すると、全体では“理解が良くなった計”は、87.7%→91.7%へと、さらに理解度が高まっている。
- 属性別にみると、肯定的な評価は専業主婦で上昇し、逆に自営業でやや低下している。
- また、性別では女性、地域別では東北、九州・沖縄で肯定的評価が高まっている。

8. 献血に関する資料評価

【未経験者編】



(1) 献血の必要性への理解が良くなったか (Q19-1)

Q19. 献血に関する資料を読まれた後で次の質問にお答え下さい。

1) 献血の必要性への理解は良くなりましたか。

【基数:対象者全員】		(N)	(%)				はい (計)	いいえ (計)
			はい	どちらかという はい	どちらかという いいえ	いいえ		
全体	17年	(5000)	34.0	57.8	5.7	2.6	91.7	8.3
	17年	(5000)	19.5	68.2	9.2	3.1	87.7	12.3
高校生	17年	(398)	32.3	58.5	7.2	3.1	90.7	9.3
	17年	(398)	22.4	65.1	8.8	3.8	87.4	12.6
大学生・専門学校生	17年	(932)	34.5	58.0	5.5	2.0	92.5	7.5
	17年	(932)	19.8	68.8	8.4	3.0	88.6	11.4
会社員	17年	(1596)	32.2	58.8	5.8	3.2	91.0	9.0
	17年	(1596)	17.4	70.0	9.4	3.2	87.4	12.6
公務員	17年	(104)	31.8	61.2	4.7	2.1	92.9	7.1
	17年	(104)	21.2	70.2	7.7	1.0	91.3	8.7
自営業	17年	(115)	32.1	54.5	6.7	6.7	86.6	13.4
	17年	(115)	26.1	67.8	4.3	3.0	93.9	6.1
専業主婦	17年	(856)	43.7	51.5	3.5	2.2	87.2	12.8
	17年	(856)	20.1	68.3	9.1	2.5	88.4	11.6
その他	17年	(999)	33.0	58.3	5.8	2.8	89.3	10.7
	17年	(999)	19.9	65.7	10.8	3.6	85.6	14.4
性別 男性	17年	(1688)	29.6	59.3	7.7	3.4	88.9	11.1
	17年	(1688)	17.3	68.4	10.7	3.7	85.7	14.3
性別 女性	17年	(3312)	38.5	56.2	3.6	4.7	94.7	5.3
	17年	(3312)	20.6	68.1	8.5	2.8	88.7	11.3
地域別 北海道	17年	(200)	35.7	55.2	6.2	2.9	91.0	9.0
	17年	(200)	24.0	64.0	8.5	3.5	88.0	12.0
地域別 東北	17年	(350)	32.1	60.0	6.8	1.1	92.1	7.9
	17年	(350)	16.9	66.9	12.9	3.4	83.7	16.3
地域別 関東甲信越	17年	(1800)	32.1	58.6	5.9	3.4	90.7	9.3
	17年	(1800)	19.6	67.9	9.9	2.6	87.6	12.4
地域別 東海北陸	17年	(750)	33.6	57.3	6.4	2.7	90.9	9.1
	17年	(750)	17.7	70.8	8.4	3.1	88.5	11.5
地域別 近畿	17年	(850)	33.1	60.2	4.8	2.0	93.3	6.7
	17年	(850)	20.6	67.8	8.1	3.5	88.4	11.6
地域別 中国・四国	17年	(450)	33.6	58.2	6.3	1.9	91.9	8.1
	17年	(450)	17.6	69.6	9.6	3.3	87.1	12.9
地域別 九州・沖縄	17年	(600)	42.4	51.6	3.9	2.1	94.0	6.0
	17年	(600)	21.3	67.3	7.7	3.7	88.7	11.3



(2) 献血に協力する意識の有無 (Q19-2)

- 閲読後に、《今は献血に協力する気持ち》が「ある」と回答した人は16.4%で、「どちらかというところがある」(48.8%)まで含めると65.2%。ほぼ3人に2人が協力への意向を示している。
- 職業別による違いはほとんどみられない。性別では、男性より女性の方が前向きな意向が高い。
- 地域別では、中国・四国、九州・沖縄でポジティブ評価がやや高く、北海道でやや低い。

- 17年度調査と比較すると、全体のポジティブ評価は65.0%→65.2%と、変化はみられない。
- 職業別にみると、自営業でやや低下している。
- 地域別では、東北、中国・四国で前回よりやや上昇、逆に北海道でやや低下した。

8. 献血に関する資料評価

【未経験者編】



(2) 献血に協力する意識の有無 (Q19-2)

Q19. 献血に関する資料を読まれた後で次の質問にお答え下さい。

2) 今は献血に協力する気持ちはありますか。

(%)

【基数:対象者全員】

	(N)	ある				ない	
		ある	どちらかという	ある	どちらかという	ない	ない
全 体	17年 (5000)	16.4	48.8	25.4	9.4	65.2	34.8
	17年 (5000)	13.0	52.0	26.7	8.3	65.0	35.0
高校生	17年 (398)	20.9	47.8	23.6	7.7	68.7	31.3
	17年 (398)	22.1	48.5	23.9	5.5	70.6	29.4
大学生・専門学校生	17年 (932)	16.4	49.8	25.1	8.6	66.2	33.8
	17年 (932)	13.5	52.3	25.1	9.1	65.8	34.2
会社員	17年 (1596)	14.4	50.0	25.2	10.4	64.5	35.5
	17年 (1596)	10.5	53.9	27.2	8.4	64.4	35.6
公務員	17年 (104)	12.9	50.6	30.6	5.9	63.5	36.5
	17年 (104)	15.4	44.2	31.7	8.7	59.6	40.4
自営業	17年 (115)	13.4	47.0	28.4	11.2	60.4	39.6
	17年 (115)	16.5	53.0	24.3	6.1	69.6	30.4
専業主婦	17年 (856)	19.6	48.9	24.1	7.3	68.6	31.4
	17年 (856)	13.4	54.1	25.1	7.4	67.5	32.5
その他	17年 (999)	15.8	44.8	27.3	12.1	60.6	39.4
	17年 (999)	11.9	48.9	29.7	9.4	60.9	39.1
性別	17年 (1688)	12.7	48.1	28.0	11.2	60.8	39.2
	17年 (1688)	10.1	49.4	30.6	9.9	59.5	40.5
女性	17年 (3312)	20.3	49.5	22.6	7.7	69.8	30.2
	17年 (3312)	14.5	53.3	24.8	7.5	67.8	32.2
地域別	17年 (200)	20.5	39.5	25.2	14.8	60.0	40.0
	17年 (200)	15.5	52.0	24.0	8.5	67.5	32.5
東北	17年 (350)	17.5	51.8	22.5	8.2	69.3	30.7
	17年 (350)	10.9	52.0	26.9	10.3	62.9	37.1
関東甲信越	17年 (1800)	14.3	46.5	27.9	11.3	60.8	39.2
	17年 (1800)	12.1	51.0	28.6	8.3	63.1	36.9
東海北陸	17年 (750)	17.2	48.8	25.5	8.5	66.0	34.0
	17年 (750)	14.9	51.5	24.7	8.9	66.4	33.6
近畿	17年 (850)	17.2	48.8	26.7	7.4	65.9	34.1
	17年 (850)	12.2	52.6	26.4	8.8	64.8	35.2
中国・四国	17年 (450)	14.6	56.1	20.9	8.4	70.8	29.2
	17年 (450)	13.3	48.7	30.9	7.1	62.0	38.0
九州・沖縄	17年 (600)	20.2	51.8	20.4	7.5	72.0	28.0
	17年 (600)	14.5	57.3	22.0	6.2	71.8	28.2



(3) 今後の献血意向喚起 (Q19-3)

- 《今後、実際に献血に行きますか》との質問では、「はい」が6.1%で、「どちらかというとはい」(41.3%)まで含めると47.4%。ほぼ半数が献血への意向を喚起されている。
- 職業別にみると、自営業で前向きな評価が他層に比べてやや低い。
なお、前向きな評価が最も高いのは高校生。

- 17年度調査と比較すると、全体のポジティブ評価は49.5%→47.4%と、2ポイント減。
- 属性別にみると、自営業で前回より10ポイント以上低下したのが目立つ。
それ以外は、大きな変化はみられない。



(3) 今後の献血意向喚起 (Q19-3)

Q19. 献血に関する資料を読まれた後で次の質問にお答え下さい。

3) 今後、実際に献血に行きますか。

【基数:対象者全員】		(N)	(%)				はい (計)	いいえ (計)
			はい	どちらかという はい	どちらかという いいえ	いいえ		
全 体	17年	(5000)	6.1	41.3	36.4	16.2	47.4	52.6
	17年	(5000)	5.5	44.0	37.2	13.3	49.5	50.5
高校生	17年	(398)	8.8	43.5	35.6	12.1	52.2	47.8
	17年	(398)	10.6	46.2	33.7	9.5	56.8	43.2
大学生・専門学校生	17年	(932)	6.5	43.3	35.4	14.8	49.9	50.1
	17年	(932)	6.7	44.4	35.2	13.7	51.1	48.9
会社員	17年	(1596)	4.9	41.2	36.9	17.0	46.1	53.9
	17年	(1596)	4.0	44.6	37.3	14.1	48.6	51.4
公務員	17年	(104)	4.7	42.4	41.2	11.8	47.1	52.9
	17年	(104)	7.7	36.5	41.3	14.4	44.2	55.8
自営業	17年	(115)	7.0	39.6	38.8	19.4	41.8	58.2
	17年	(115)	7.0	47.8	35.7	9.6	54.8	45.2
専業主婦	17年	(856)	8.7	42.1	34.3	14.9	50.8	49.2
	17年	(856)	5.1	48.4	34.5	12.0	53.5	46.5
その他	17年	(999)	4.6	35.3	38.5	21.6	39.8	60.2
	17年	(999)	4.6	38.5	42.2	14.6	43.1	56.9
性別 男性	17年	(1688)	4.1	40.7	38.0	17.2	44.8	55.2
	17年	(1688)	5.1	41.2	39.1	14.6	46.3	53.7
性別 女性	17年	(3312)	8.2	42.0	34.7	15.1	50.2	49.8
	17年	(3312)	5.7	45.5	36.2	12.7	51.2	48.8
地域別 北海道	17年	(200)	11.0	36.2	30.5	22.4	47.1	52.9
	17年	(200)	7.0	45.0	34.0	14.0	52.0	48.0
地域別 東北	17年	(350)	6.8	43.9	33.5	15.8	50.7	49.3
	17年	(350)	6.3	42.3	36.9	14.6	48.6	51.4
地域別 関東甲信越	17年	(1800)	5.0	39.0	37.4	18.6	44.1	55.9
	17年	(1800)	4.6	42.4	39.5	13.5	47.0	53.0
地域別 東海北陸	17年	(750)	5.1	40.1	39.5	15.3	45.3	54.7
	17年	(750)	6.7	43.2	36.7	13.5	49.9	50.1
地域別 近畿	17年	(850)	6.6	41.9	38.2	13.2	48.5	51.5
	17年	(850)	5.2	45.3	36.0	13.5	50.5	49.5
地域別 中国・四国	17年	(450)	4.9	46.4	35.3	13.5	51.3	48.7
	17年	(450)	5.8	42.4	40.0	11.8	48.2	51.8
地域別 九州・沖縄	17年	(600)	8.6	46.0	31.6	13.9	54.5	45.5
	17年	(600)	5.8	50.2	31.5	12.5	56.0	44.0

Ⅲ. 経験者編

(注)帯グラフ等に表記されている比率は端数処理をしているため、合計が必ずしも100%にはならない。

1. 対象者特性

【経験者編】



(1) 居住地・性別 (SC1/SC3)

- 【居住地】は「関東甲信越」が36.5%を占めており、17年度調査と同様、中心となっている。以下、「近畿」(16.3%)、「東海北陸」(15.6%)の順で続き、全体構成も17年と概ね変わらない。
- 【性別】は、全体では「男性」51.1%、「女性」48.9%とほぼ半々。17年度に比べて男性回答者が大幅に増えている。
- 【年齢】については、20代が9割弱(88.7%)を占めてはいるが、17年度に比べて「16～17歳」(2.5%)、「18～19歳」(8.7%)といった10代の回答者が増加。
- 【職業】では、「会社員」(43.0%)、「大学生・専門学校生」(29.1%)が中心であり、両層で7割強を占めている。17年度に比べて「大学生・専門学校生」が大幅増、「専業主婦」が減少した。
- 【医療関係への関与有無】をみると、「携わっている」と回答した人は11.0%で、ほぼ前回並み。

居住地 (SC1)

		(%)					
		北海道	東北	関東甲信越	東海北陸	近畿	中国・四国
全 体	(N)	4.2	7.1	36.5	15.6	16.3	8.6
	17年 (5000)	4.0	7.0	36.0	15.0	17.0	9.0

【基数:対象者全員】

性別 (SC3)

		(N)		男性		女性	
全 体	(N)	5000	5000	51.1	48.9		
	17年 (5000)			34.1	65.9		
地域別	北海道	200	200	50.0	50.0		
	17年 (200)			28.5	71.5		
東北	(N)	350	350	51.0	49.0		
	17年 (350)			34.6	65.4		
関東甲信越	(N)	1800	1800	51.9	48.1		
	17年 (1800)			33.7	66.3		
東海北陸	(N)	750	750	51.9	48.1		
	17年 (750)			35.5	64.5		
近畿	(N)	850	850	50.2	49.8		
	17年 (850)			34.9	65.1		
中国・四国	(N)	450	450	50.8	49.2		
	17年 (450)			32.9	67.1		
九州・沖縄	(N)	600	600	49.6	50.4		
	17年 (600)			34.8	65.2		

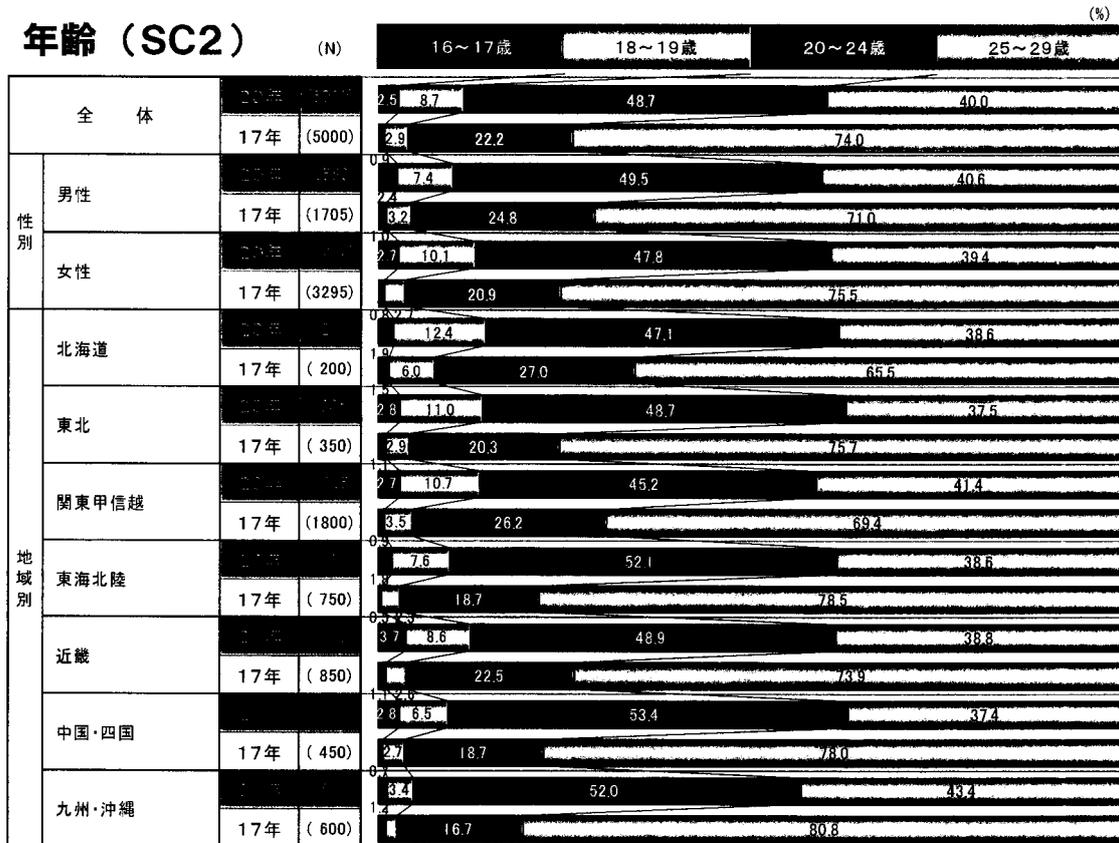
【基数:対象者全員】

1. 対象者特性

【経験者編】

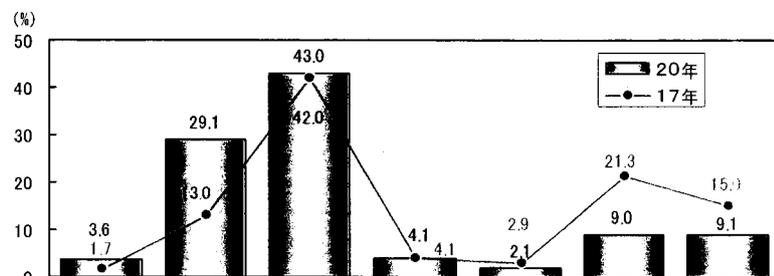


(2)年齢・職業 (SC2/SC4)



【基数:対象者全員】

職業 (SC4)



【基数:対象者全員】

		(N)	高校生	大学生・専門学校生	会社員	公務員	自営業	専業主婦	その他	(%)
全体	20年		3.6	29.1	43.0	4.1	2.1	9.0	9.1	
	17年 (5000)		1.7	13.0	42.0	4.1	2.9	21.3	15.0	
性別	男性	20年	3.4	33.0	48.0	5.4	2.7	-	7.5	
	17年 (1705)		1.9	19.2	54.4	6.6	4.6	-	13.3	
性別	女性	20年	3.8	26.0	37.8	2.9	1.5	18.3	10.7	
	17年 (3295)		1.7	9.8	35.6	2.7	2.0	32.4	15.8	
地域別	北海道	20年	2.9	32.4	34.8	6.7	3.3	11.0	9.0	
	17年 (200)		3.0	15.0	35.5	6.5	2.5	22.0	15.5	
地域別	東北	20年	2.0	25.9	39.7	5.6	2.5	7.3	11.3	
	17年 (350)		2.0	11.7	41.1	6.6	4.3	21.1	13.1	
地域別	関東甲信越	20年	3.7	31.1	44.9	2.8	1.8	7.9	7.9	
	17年 (1800)		2.0	16.5	43.2	2.6	2.6	18.2	14.9	
地域別	東海北陸	20年	3.3	25.8	46.4	3.2	1.8	11.7	7.8	
	17年 (750)		1.5	8.5	44.5	4.0	2.7	26.7	12.1	
地域別	近畿	20年	4.0	33.0	39.3	3.8	2.3	8.5	9.1	
	17年 (850)		1.9	14.5	39.1	3.4	2.1	21.6	17.4	
地域別	中国・四国	20年	3.7	25.5	41.8	6.7	1.4	9.7	11.1	
	17年 (450)		0.9	9.3	44.4	6.9	2.9	20.9	14.7	
地域別	九州・沖縄	20年	1.0	25.0	43.9	6.3	3.3	8.9	11.5	
	17年 (600)		1.2	9.2	40.2	5.0	4.3	23.8	16.3	

(注) □ は、17年と比べて5%以上高いもの。□ は、17年と比べて5%以上低いもの。但し、(N=30未満)は除く。以降も同様。

1. 対象者特性

【経験者編】



(3)医療関係への関与有無 (SC5)

SC5. あなたは学業及び職業で、医療関係に携わっていますか。

		【基数:対象者全員】		(N)	携わっている		携わっていない		(%)
全体					11.0			89.0	
	17年			(5000)	10.0			90.0	
職業別	高校生				7.2			92.8	
		17年		(398)	4.6			95.4	
職業別	大学生・専門学校生				14.1			85.9	
		17年		(932)	16.0			84.0	
職業別	会社員				10.4			89.6	
		17年		(1596)	11.3			88.7	
職業別	公務員				17.4			82.6	
		17年		(104)	15.3			84.7	
職業別	自営業				9.4			90.6	
		17年		(115)	4.9			95.1	
職業別	専業主婦				5.8			94.2	
		17年		(856)	6.1			93.9	
職業別	その他				8.6			91.4	
		17年		(999)	6.9			93.1	
性別	男性				9.8			91.2	
		17年		(1688)	7.0			93.0	
性別	女性				13.3			86.7	
		17年		(3312)	11.6			88.4	
地域別	北海道				14.8			85.2	
		17年		(200)	14.0			86.0	
地域別	東北				14.9			85.1	
		17年		(350)	9.1			90.9	
地域別	関東甲信越				9.1			90.9	
		17年		(1800)	8.6			91.4	
地域別	東海北陸				11.3			88.7	
		17年		(750)	9.9			90.1	
地域別	近畿				10.5			89.5	
		17年		(850)	10.1			89.9	
地域別	中国・四国				12.1			87.9	
		17年		(450)	11.3			88.7	
地域別	九州・沖縄				13.0			87.0	
		17年		(600)	12.5			87.5	



(1) 献血が病気の治療に役立っていることの認知 (Q1)

<新規質問>

- 『献血』がさまざまな病気の治療に役立っていることを「知っている」と回答した人は65.9%。経験者のほぼ3人に2人が認知している。
- 職業別にみると、他層に比べ公務員の認知率が高いのが目立つ。一方、専業主婦で最も低い。なお、男女間で認知率に差はみられない。



(1) 献血が病気の治療に役立っていることの認知 (Q1)

Q1. 献血は患者さんに対する輸血だけでなく、献血を原料とした血液製剤として、さまざまな病気の治療に役立っていることを知っていますか。

【基数:対象者全員】		(N)	知っている	知らない	(%)
全体		(5000)	65.9	34.1	
職業別	高校生	(181)	64.6	35.4	
	大学生・専門学校生	(1453)	69.9	30.1	
	会社員	(2152)	64.9	35.1	
	公務員	(207)	75.8	24.2	
	自営業	(106)	61.3	38.7	
	専業主婦	(448)	58.7	41.3	
	その他	(453)	61.8	38.2	
	性別	男性	(2556)	65.5	34.5
女性		(2444)	66.3	33.7	
地域別	北海道	(210)	70.0	30.0	
	東北	(355)	68.5	31.5	
	関東甲信越	(1825)	62.5	37.5	
	東海北陸	(780)	67.7	32.3	
	近畿	(816)	68.1	31.9	
	中国・四国	(431)	66.4	33.6	
	九州・沖縄	(583)	67.6	32.4	



(2)若年層の献血協力者の減少傾向認知 (Q2)

<新規質問>

- 近年、『献血』へ協力してくれる10代・20代の若年層が大幅に減少していることを「知っている」という人は55.3%。
- 職業別にみてもそれほど差はないが、公務員の認知率が他層に比べてやや高い。
- 性別では差はなく、地域別では、東北、中国・四国の認知率がやや高くなっている。

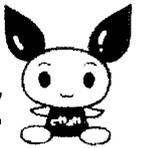


(2)若年層の献血協力者の減少傾向認知 (Q2)

Q2. 献血へ協力して下さる若い方の数が、近年大幅に減っています(＊)。知っていましたか。

＊最近5年間で20代の献血者数は161万8千人から113万5千人(30%減)に、10代の献血者数は、56万4千人から32万4千人(43%減)に減少しています。

【基数:対象者全員】		(N)	知っている	知らない
全体		(5000)	55.3	44.7
職業別	高校生	(181)	56.9	43.1
	大学生・専門学校生	(1453)	55.5	44.5
	会社員	(2152)	55.1	44.9
	公務員	(207)	60.4	39.6
	自営業	(106)	55.7	44.3
	専業主婦	(448)	53.1	46.9
	その他	(453)	54.3	45.7
性別	男性	(2556)	54.7	45.3
	女性	(2444)	55.9	44.1
地域別	北海道	(210)	52.9	47.1
	東北	(355)	62.8	37.2
	関東甲信越	(1825)	52.8	47.2
	東海北陸	(780)	56.0	44.0
	近畿	(816)	54.8	45.2
	中国・四国	(431)	61.5	38.5
	九州・沖縄	(583)	54.4	45.6



(1) 献血に関する広報接触媒体 (Q3)

- 『献血』に関して接触したことがある広報媒体をみると、「街頭での呼びかけ」(68.0%)「献血ルーム前の看板・表示」(65.5%)がともに2/3程度を占めており双璧。これに続くのが「献血バス」(57.6%)、「テレビ」(55.4%)で、以上が主要の接触媒体である。
- 職業別にみると、主要の「街頭での呼びかけ」「献血ルーム前の看板・表示」「献血バス」といった現場での接触は専業主婦で高い。逆に、高校生、公務員、自営業で低い。また、高校生、自営業は「献血関係のイベント」も他層に比べてやや低い。
- 性別では、「街頭での呼びかけ」「献血ルーム前の看板・表示」「献血バス」での接触率が男性に比べて女性で高いのが目立つ。
- 地域別では、「街頭の呼びかけ」は北海道、中国・四国でやや低い。一方、関東甲信越は他地域に比べて「テレビ」がやや低い。

- 17年度調査と比較すると、新規回答肢の「献血ルーム前の看板・表示」を除くと、各媒体の接触率は総じて低下している。特に「ポスターの掲示」が20ポイント近く下がったのが目立つ。
- 属性別にみても、職業別・性別・地域別のいずれも各層で傾向は変わらず、ほぼ低下傾向を示している。

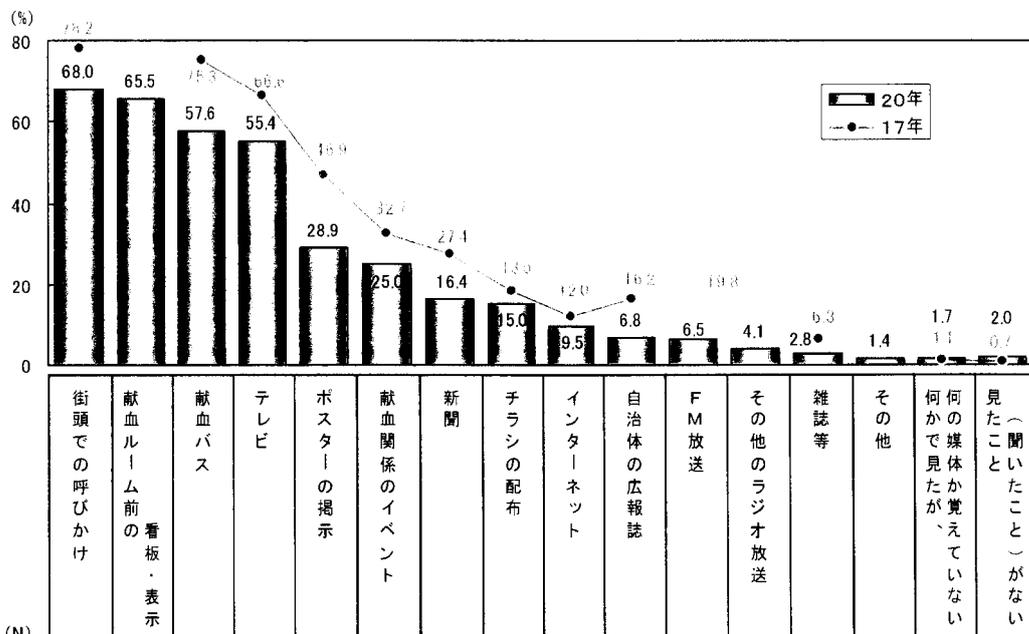
3. 献血の広報・キャンペーンへの認知接触状況

【経験者編】



(1) 献血に関する広報接触媒体 (Q3)

Q3. 献血に関して、どのような広報媒体を見たこと(聞いたこと)がありますか。(いくつでも)



【基数:対象者全員】

		(N)																			
		20年	17年	20年	17年	20年	17年														
職業別	全体	68.0	78.2	65.5	75.3	57.6	66.6	55.4	46.9	28.9	32.7	16.4	15.0	9.5	6.8	6.5	4.1	2.8	1.4	1.7	2.0
	高校生	49.2	69.0	51.4	67.8	39.8	60.9	56.4	39.1	24.3	17.7	13.3	17.1	12.2	3.3	6.1	2.8	2.2	3.9	2.8	3.9
	大学生・ 専門学校生	69.2	80.8	65.2	75.8	59.2	65.6	56.3	49.5	31.4	27.0	18.0	17.8	11.3	4.5	6.1	4.0	3.6	1.9	1.8	2.1
	会社員	68.2	78.3	65.7	72.9	54.6	64.0	55.4	26.9	23.5	15.7	12.8	8.1	6.2	7.3	4.5	2.0	2.0	0.7	1.4	2.0
	公務員	62.3	77.8	59.4	71.9	60.4	70.9	52.2	33.3	29.5	17.4	19.8	8.2	19.3	8.2	2.9	2.9	1.4	2.4	1.9	-
	自営業	62.3	78.3	60.4	72.9	51.9	64.0	40.6	26.4	17.0	17.9	13.2	13.2	7.5	9.4	3.8	6.6	1.9	3.8	2.8	2.8
	専業主婦	74.3	79.7	71.0	79.7	63.4	69.4	54.9	48.8	29.7	26.3	11.8	14.3	4.2	9.6	4.0	2.5	2.2	0.4	1.8	1.8
	その他	68.9	77.6	69.5	78.9	68.2	70.6	57.4	30.0	27.8	19.6	14.3	13.9	10.2	5.7	5.7	3.3	3.1	1.3	1.3	1.5
	性別	男性	62.9	72.8	57.9	68.3	50.9	64.5	56.7	40.1	22.4	18.3	14.6	10.8	6.0	8.0	5.2	2.8	1.4	2.2	2.4
	女性	73.4	81.0	73.4	78.9	64.6	67.7	54.0	32.2	27.8	14.4	15.4	8.1	7.7	5.0	2.9	2.7	1.5	1.2	1.6	0.5
地域別	北海道	56.2	69.0	61.9	75.0	56.7	63.5	55.2	31.0	21.4	17.1	14.3	9.5	6.2	6.2	8.1	4.8	1.9	1.4	2.4	-
	東北	65.9	73.1	67.0	74.9	60.6	74.6	65.4	49.1	25.4	24.2	16.9	9.6	12.4	9.6	4.2	3.9	1.1	1.4	0.6	0.9
	関東甲信越	70.7	82.6	68.9	73.1	53.6	62.2	46.6	25.0	20.3	12.8	12.5	8.5	4.3	4.9	3.1	2.0	1.5	1.9	2.8	1.0
	東海北陸	67.7	74.8	60.5	71.3	56.8	63.3	55.3	45.2	29.9	29.2	17.9	14.9	11.2	7.7	7.8	3.7	3.1	1.4	2.1	1.7
	近畿	70.3	77.9	64.3	79.5	62.0	64.3	54.7	34.7	23.2	17.9	15.4	9.2	6.7	6.9	4.0	2.9	1.3	1.2	1.6	0.5
	中国・四国	59.6	72.9	63.6	79.6	60.6	67.6	60.6	30.2	31.3	21.6	19.7	11.6	9.3	5.3	5.3	3.0	1.4	2.3	1.9	0.7
	九州・沖縄	68.8	79.8	64.8	78.2	61.6	66.2	60.7	30.0	33.3	14.6	17.8	8.7	8.6	8.6	5.7	2.7	1.4	1.2	1.5	0.3

(注) □ は、17年と比べて5%以上高いもの。□ は、17年と比べて5%以上低いもの。以降も同様。

注: 17年は「献血ルーム前の看板・表示」「その他」の回答肢なし。また、「FM放送」「その他のラジオ放送」は17年の回答肢は「ラジオ」のみ。



(2) 献血キャンペーンに効果的だと思う媒体 (Q4)

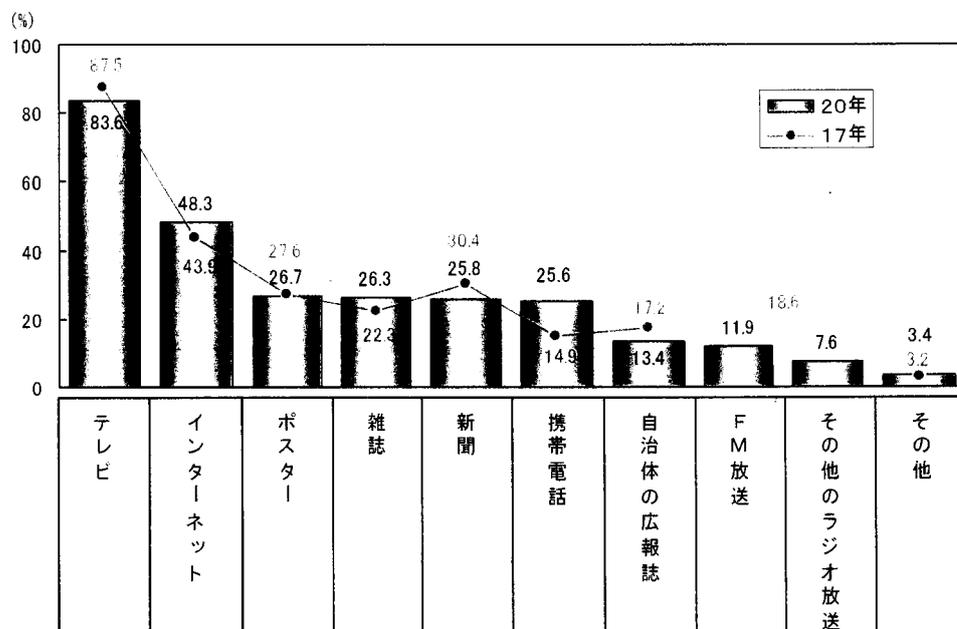
- 『献血』のキャンペーンを行う際に効果的だと思われる媒体としては「テレビ」が83.6%で圧倒的に高い。次いで「インターネット」が48.3%で続く。以下、「ポスター」(26.7%)、「雑誌」(26.3%)、「新聞」(25.8%)、「携帯電話」(25.6%)等が1/4程度で続く。
- 職業別にみると、各層とも「テレビ」「インターネット」中心は変わらない。その中で高校生は他層より「インターネット」がやや低い。それ以外では「ポスター」を挙げる割合が自営業、専業主婦でやや高い。また、自営業で「FM放送」、専業主婦で「雑誌」、公務員で「自治体の広報誌」が他層に比べてやや高い。
- 性別では、男性よりも女性の方が「雑誌」を挙げる割合が高い。
- 地域別では、他地域に比べて東北で「自治体の広報誌」がやや高い。一方、近畿で「インターネット」がやや低い。

- 17年度調査と比較すると、「テレビ」「新聞」がやや減少。一方で「インターネット」「携帯電話」を挙げる割合が高まる。特に「携帯電話」は10ポイント強の伸びがみられる。なお、前回の「ラジオ」に関しては、今回「FM放送」「その他のラジオ放送」に回答肢を分割したので参考程度となるが、ほぼ同様の傾向。
- 属性別にみても、職業別・性別・地域別を通して、総じて各層とも「携帯電話」が効果的だとする傾向が強まっている。「インターネット」も同傾向だが、高校生、自営業ではやや低下した。
- それ以外では、「テレビ」は高校生、公務員、自営業で、「新聞」も会社員、自営業で、「自治体の広報誌」は自営業、専業主婦で、それぞれ前回よりやや低下した。



(2) 献血キャンペーンに効果的だと思う媒体 (Q4)

Q4. 献血のキャンペーンを行う際の効果的な媒体は何だと思いますか。(いくつでも)



【基数:対象者全員】

	(N)	効果的な媒体 (%)									
		テレビ	インターネット	ポスター	雑誌	新聞	携帯電話	自治体の広報誌	FM放送	その他のラジオ放送	その他
全体	5000	83.6	48.3	26.7	26.3	25.8	25.6	13.4	11.9	7.6	3.4
職業別	高校生	80.1	37.0	27.6	26.0	23.8	29.3	11.6	12.2	7.2	2.2
	大学生・専門学校生	82.8	48.5	27.9	26.3	24.8	28.9	11.0	9.9	6.1	3.4
	会社員	83.0	48.0	24.3	25.1	25.2	23.1	13.0	12.7	8.2	3.5
	公務員	81.6	49.8	24.6	21.3	27.1	22.2	22.2	9.2	5.3	2.9
	自営業	77.4	43.4	32.1	22.6	23.6	22.6	12.3	17.9	9.4	3.8
	専業主婦	87.9	46.4	31.9	31.5	27.7	22.8	18.3	13.2	7.6	1.8
	その他	88.1	55.8	28.3	30.5	31.1	29.8	15.5	12.8	9.9	5.3
	性別	男性	81.3	47.8	22.4	20.1	25.5	24.3	11.9	12.6	7.9
女性	86.0	48.8	31.2	32.8	26.2	26.9	15.0	11.2	7.3	3.2	
地域別	北海道	84.3	47.1	27.1	30.5	30.0	25.2	14.3	8.1	6.7	2.4
	東北	88.7	47.9	29.3	29.3	29.3	25.1	20.6	13.0	8.7	3.9
	関東甲信越	82.1	49.7	24.7	27.8	25.0	26.2	10.7	10.2	6.6	3.3
	東海北陸	84.7	47.8	25.0	25.5	26.8	23.1	13.7	14.4	8.1	2.2
	近畿	82.8	42.8	28.1	25.1	23.0	25.5	12.9	12.6	8.2	4.3
	中国・四国	84.7	50.8	30.2	24.4	29.5	26.5	17.4	11.6	7.4	3.0
	九州・沖縄	83.4	50.9	29.0	22.8	24.9	26.8	14.8	13.7	8.7	4.8
	その他	86.2	42.7	29.5	25.2	33.7	15.7	23.5	22.3	2.8	2.8

注: 17年は「その他」の回答肢なし。また、「FM放送」「その他のラジオ放送」は17年の回答肢は「ラジオ」のみ。



(3) 献血キャラクター「けんけつちゃん」認知 (Q5)

- 献血キャラクター『けんけつちゃん』の認知率は23.8%。経験者のほぼ4人に1人が認知。
- 職業別にみると、高校生の認知率が特に高い。大学生・専門学校生、公務員がこれに続く。一方、専業主婦の認知率が1割強と他層に比べて低い。
- 性別では、女性の認知率が男性を10ポイント上回り、地域別では、東北で最も高い。

- 17年度調査と比較すると、認知率は7.0%→23.8%へと、大幅(17ポイント増)に上昇した。
- 属性別にみても、職業別・性別・地域別の各層とも、前回に比べて認知率がアップしたのは共通。特に、大学生・専門学校生、および女性で20ポイント増と顕著である。今回認知率の最も低かった専業主婦でも9ポイント上昇している。

3. 献血の広報・キャンペーンへの認知接触状況

【経験者編】



(3) 献血キャラクター「けんけつちゃん」認知 (Q5)

Q5. 厚生労働省では献血推進のためのキャラクターとして「けんけつちゃん」を作成していますが、知っていますか。

		【基数:対象者全員】		(%)	
		(N)		知っている	知らない
全体				23.8	76.2
	17年	(5000)		7.0	93.0
職業別	高校生			34.8	65.2
	17年	(87)		19.5	80.5
	大学生・専門学校生			31.8	68.2
	17年	(652)		8.1	91.9
	会社員			20.0	80.0
	17年	(2099)		7.1	92.9
	公務員			29.5	70.5
	17年	(203)		11.3	88.7
自営業			22.6	77.4	
17年	(143)		7.0	93.0	
専業主婦			12.7	87.3	
17年	(1067)		3.7	96.3	
その他			19.9	80.1	
17年	(749)		7.7	92.3	
性別	男性			18.9	81.1
	17年	(1705)		6.6	93.4
女性			28.8	71.2	
17年	(3295)		7.2	92.8	
地域別	北海道			16.7	83.3
	17年	(200)		7.5	92.5
	東北			31.0	69.0
	17年	(350)		13.1	86.9
	関東甲信越			26.0	74.0
	17年	(1800)		6.1	93.9
	東海北陸			22.9	77.1
	17年	(750)		7.3	92.7
近畿			20.8	79.2	
17年	(850)		7.3	92.7	
中国・四国			22.3	77.7	
17年	(450)		5.6	94.4	
九州・沖縄			21.3	78.7	
17年	(600)		6.2	93.8	



(4) 献血キャンペーン認知 (Q6)

- 献血に関するキャンペーンのことを「知っている」と回答した人は36.5%。
- 職業別にみると、他層に比べて公務員の認知率がやや高い。また、女性の認知率が男性に比べて11ポイント上回っている。地域別では、東北でやや高く、北海道で最も低い。

- 17年度調査と比較すると、認知率は46.4%→36.5%へと、10ポイント減となっている。
- 属性別にみても、各層とも認知率は低下傾向となっている。その中で、特に公務員で落ち込みが目立つ。また、地域別では、北海道で認知率の低下が顕著である。

3. 献血の広報・キャンペーンへの認知接触状況

【経験者編】



(4) 献血キャンペーン認知 (Q6)

Q6. 献血に関するキャンペーンを知っていますか。

(毎年7月:愛の血液助け合い運動 毎年1~2月:「はたちの献血」キャンペーン)

		【基数:対象者全員】		(%)	
		(N)		知っている	知らない
全体				36.5	63.5
	17年	(5000)		46.4	53.6
高校生				33.1	66.9
	17年	(87)		42.5	57.5
大学生・専門学校生				36.6	63.4
	17年	(652)		47.7	52.3
会社員				36.8	63.2
	17年	(2099)		45.7	54.3
公務員				44.9	55.1
	17年	(203)		63.5	36.5
自営業				32.1	67.9
	17年	(143)		40.6	59.4
専業主婦				35.7	64.3
	17年	(1067)		46.4	53.6
その他				34.0	66.0
	17年	(749)		44.5	55.5
性別	男性			30.9	69.1
	17年	(1705)		39.6	60.4
女性				42.3	57.7
	17年	(3295)		50.0	50.0
地域別	北海道			27.1	72.9
	17年	(200)		43.0	57.0
東北				43.7	56.3
	17年	(350)		55.1	44.9
関東甲信越				32.8	67.2
	17年	(1800)		40.9	59.1
東海北陸				37.7	62.3
	17年	(750)		46.0	54.0
近畿				38.4	61.6
	17年	(850)		49.4	50.6
中国・四国				38.3	61.7
	17年	(450)		50.0	50.0
九州・沖縄				41.3	58.7
	17年	(600)		52.8	47.2



(5) 「HOP STEP JUMP」を配布された記憶 (Q7)

- 高校3年生を対象に、『HOP STEP JUMP』という普及啓発資材が配布されていることを認知している人は14.7%。授業で使用した経験がある人が5.7%。
- 職業別にみると、(現役)高校生の認知率は3割強と高い。大学生・専門学校生が2割強で続く。一方、専業主婦の認知率が他層に比べて低い。

- 17年度調査と比較すると、認知率は10.6%→14.7%へと、4ポイント上昇している。
- 職業別にみると、認知率の突出した高校生は前回と比べてやや後退。それ以外の層は、大きな変化はみられない。なお、地域別では北海道の認知率がやや高まっている。

3. 献血の広報・キャンペーンへの認知接触状況

【経験者編】



(5) 「HOP STEP JUMP」を配布された記憶 (Q7)

Q7. 平成2年から全国の高校3年生を対象に、献血に関する普及啓発資料「HOP STEP JUMP」を配布していますが、学校で配られた記憶はありますか。

【基数:対象者全員】		(N)	(%)				認知 (計)
			保健体育の授業で 使用した	他の授業で使用した	配布されただけ	知らない	
全体			4.2	9.0	85.3		14.7
	17年	(5000)	7.2	1.5	89.4		10.6
高校生			8.3	21.0	68.5		31.5
	17年	(87)	4.6	29.9	65.5		34.5
大学生・専門学校生			5.8	13.6	79.1		20.9
	17年	(652)	4.9	12.6	81.4		18.6
会社員			3.6	6.2	88.3		11.7
	17年	(2099)	5.5	1.9	91.1		8.9
公務員			3.9	7.7	87.0		13.0
	17年	(203)	11.3	4	85.2		14.8
自営業			2.6	4.7	85.8		14.2
	17年	(143)	4.9	7.0	86.7		13.3
専業主婦			4.7		93.8		6.3
	17年	(1067)	6.0	3.0	91.9		8.1
その他			3.3	7.7	88.5		11.5
	17年	(749)	5.3	0.4	92.4		7.6
性別	男性		4.9	9.3	83.8		16.2
	17年	(1705)	7.1	2.1	87.3		12.7
女性			3.4	8.7	86.9		13.1
	17年	(3295)	6.9	1.0	90.5		9.5
地域別	北海道		6.2	11.0	81.9		18.1
	17年	(200)	9.0	1.0	88.5		11.5
東北			3.9	11.8	82.0		18.0
	17年	(350)	5.4	8.0	86.0		14.0
関東甲信越			4.7	7.9	85.1		14.9
	17年	(1800)	7.6	2.3	89.3		10.7
東海北陸			3.5	11.2	84.2		15.8
	17年	(750)	3.1	7.9	88.9		11.1
近畿			4.4	9.2	85.5		14.5
	17年	(850)	3.2	6.0	89.3		10.7
中国・四国			3.2	8.8	86.5		13.5
	17年	(450)	6.0	1.4	91.1		8.9
九州・沖縄			3.1	6.9	89.5		10.5
	17年	(600)	6.8	0.5	91.5		8.5



(1) 献血では感染症に感染しないことの認知 (Q8)

- 『献血』でエイズ、肝炎といった感染症に感染しないことは、経験者の約8割(78.4%)が認知している。
- 認知率は、職業別・性別・地域別のどの属性でみても、あまり違いはみられない。

- 17年度調査と比較すると、認知率は79.9%→78.4%と、ほぼ横ばい傾向。
- 職業別にみると、公務員、自営業の認知率が前回に比べてやや低下している。地域別では、北海道でやや低下。

4. 感染症・血液製剤について

【経験者編】



(1) 献血では感染症に感染しないことの認知 (Q8)

Q8. 献血でエイズ、肝炎その他の感染症に感染することはありませんが、そのことを知っていますか。

【基数:対象者全員】			(%)		
			知っている	知らない	
全体		(N)	78.4	21.6	
	17年	(5000)	79.9	20.1	
職業別	高校生		76.2	23.8	
		17年	(87)	78.2	21.8
	大学生・専門学校生		80.6	19.4	
		17年	(652)	80.5	19.5
	会社員		76.4	23.6	
		17年	(2099)	80.2	19.8
	公務員		81.6	18.4	
		17年	(203)	88.2	11.8
	自営業		74.5	25.5	
		17年	(143)	83.9	16.1
	専業主婦		81.5	18.5	
		17年	(1067)	79.4	20.6
	その他		78.4	21.6	
		17年	(749)	76.5	23.5
	性別	男性		76.2	23.8
			17年	(1705)	77.2
女性			80.8	19.2	
		17年	(3295)	81.3	18.7
地域別	北海道		79.0	21.0	
		17年	(200)	84.5	15.5
	東北		81.4	18.6	
		17年	(350)	83.4	16.6
	関東甲信越		76.3	23.7	
		17年	(1800)	79.1	20.9
	東海北陸		79.4	20.6	
		17年	(750)	79.6	20.4
	近畿		78.7	21.3	
		17年	(850)	78.8	21.2
	中国・四国		81.7	18.3	
		17年	(450)	79.1	20.9
九州・沖縄		79.1	20.9		
	17年	(600)	81.2	18.8	



(2) 血液製剤の海外血液依存の認知 (Q9)

- 《血液製剤は未だ海外の血液に依存している》ということを認知している人は25.3%と、経験者の4人に1人の割合。
- 職業別にみると、高校生の認知率が最も高く、唯一3割を超えている。また、性別・地域別による差はあまりみられない。

- 17年度調査と比較すると、認知率は30.8%→25.3%へ、約6ポイント低下した。
- 職業別では、各層とも前回を下回っているが、中でも会社員、公務員、自営業で10ポイント近く低下した。また、性別で男性、地域別で東北、東海北陸、中国・四国、九州・沖縄等でやや低下。



(2) 血液製剤の海外血液依存の認知 (Q9)

Q9. 血液製剤(*)は未だ海外の血液に依存していることを知っていますか。

*重症熱傷に用いるアルブミン製剤では、国内自給率は未だ60%台である。

【基数:対象者全員】			(%)	
			知っている	知らない
全体		(N)	25.3	74.7
	17年	(5000)	30.8	69.2
職業別	高校生	17年 (87)	32.0	68.0
			34.5	65.5
	大学生・専門学校生	17年 (652)	26.9	73.1
			32.7	67.3
	会社員	17年 (2099)	24.7	75.3
			32.9	67.1
	公務員	17年 (203)	28.0	72.0
			37.4	62.6
自営業			29.2	70.8
	17年 (143)		37.8	62.2
専業主婦			20.8	79.2
	17年 (1067)		23.3	76.7
その他			22.3	77.7
	17年 (749)		30.4	69.6
性別	男性	17年 (1705)	27.0	73.0
			35.6	64.4
女性			23.5	76.5
	17年 (3295)		28.3	71.7
地域別	北海道	17年 (210)	26.2	73.8
			25.5	74.5
	東北	17年 (350)	26.8	73.2
			34.9	65.1
	関東甲信越	17年 (1825)	25.0	75.0
			27.9	72.1
	東海北陸	17年 (780)	25.5	74.5
			33.9	66.1
	近畿	17年 (850)	27.3	72.7
			32.8	67.2
中国・四国			22.3	77.7
	17年 (450)		31.6	68.4
九州・沖縄			23.8	76.2
	17年 (600)		31.5	68.5



(1) ルームの雰囲気について (Q10-1)

- 『献血ルーム』に対するイメージについて、4つの項目で質問した。
- まず《ルームの雰囲気》という点では、「明るい」が34.7%を占め、「暗い」の7.7%を大きく上回っており好評。ただし、全体的には「ふつう」の評価が過半数を占める。
- 職業別で見ると、「明るい」と評価するのは公務員で最も高く、逆に高校生で他層よりも低い。
- 性別では、「明るい」と評価する割合は女性が男性を10ポイント上回っている。
- 地域別では、北海道で「明るい」とする割合が最も高い。

- 17年度調査と比較すると、前回「わからない」の回答肢がないため、一概には比較できないが、全体では「明るい」と評価する割合は42.1%→34.7%と、7ポイント減となっている。
- 職業別にみると、各層とも「明るい」イメージが低下しているが、特に大学生・専門学校生の低下が顕著である。高校生も10ポイント低下した。
- 性別・地域別では、いずれの層も「明るい」がやや低下しており、あまり違いはみられない。

5. 献血ルームのイメージ

【経験者編】



(1) ルームの雰囲気について (Q10-1)

Q10. 献血ルームのイメージを教えてください。 (1) ルームの雰囲気

		(N)	(%)			
			明るい	ふつう	暗い	わからない
職業別	全体	17年 (5000)	34.7	51.7	7.7	6.0
			42.1	49.6		8.3
	高校生	17年 (87)	29.3	53.6	9.4	7.7
			39.1	51.7		9.2
	大学生・専門学校生	17年 (652)	37.8	50.0	7.0	5.3
			51.1	41.3		7.7
	会社員	17年 (2099)	32.1	54.0	7.8	6.1
			40.3	50.6		9.1
	公務員	17年 (203)	42.0	47.3	4.8	5.8
			48.3	47.3		4.4
自営業	17年 (143)	34.0	53.8	7.5	4.7	
		42.0	50.3		7.7	
専業主婦	17年 (1067)	35.3	50.9	8.7	5.1	
		38.8	52.1		9.1	
その他	17年 (749)	35.3	47.2	9.1	8.4	
		43.0	50.6		6.4	
性別	男性	17年 (1705)	29.9	55.2	8.7	6.2
			38.2	52.7		9.1
	女性	17年 (3295)	39.7	47.9	6.6	5.8
			44.2	48.0		7.9
地域別	北海道	17年 (210)	43.3	41.0	8.6	7.1
			50.5	42.0		7.5
	東北	17年 (350)	37.7	49.3	3.9	9.0
			47.1	48.6		4.3
	関東甲信越	17年 (1800)	35.0	52.4	7.8	4.8
			44.1	47.4		8.6
	東海北陸	17年 (750)	32.7	54.6	6.9	5.8
			39.6	51.6		8.8
	近畿	17年 (850)	29.9	53.8	9.9	6.4
			34.1	53.6		12.2
中国・四国	17年 (450)	34.6	52.4	6.5	6.5	
		39.8	53.6		6.7	
九州・沖縄	17年 (600)	38.3	47.2	7.7	6.9	
		46.8	48.0		5.2	

注: 17年は「わからない」の回答肢なし。



(2) ルームの広さについて (Q10-2)

- 《ルームの広さ》という点では、「広い」の20.4%に対して、「狭い」が24.5%と、狭いイメージの方が若干上回っている。ただし、全体的には「ふつう」と評価する人がほぼ半数を占めている。
- 職業別で見ると、「広い」と評価するのは公務員で最も高い。一方、自営業で「狭い」とする割合が他層より高く、「広い」を10ポイント上回っているのが目立つ。
- 性別では、男性で「狭い」のスコアが「広い」を10ポイント上回り、女性に比べその差が大きい。
- 地域別では、中国・四国で「ふつう」が目立ち、他地域よりも「広い」とする割合がやや低い。

- 17年度調査と比較すると、前回「わからない」の回答肢がないため、一概には比較できないが、全体では「広い」「狭い」とも概ね変動はなく、同様の傾向を示している。
- 職業別にみると、公務員、自営業で「狭い」イメージがやや増えている。それ以外は、「ふつう」が総じてやや低下している。(このスコア低下は、今回の「わからない」にシフトした模様)
- 地域別では、中国・四国で「広い」がやや低下している。

5. 献血ルームのイメージ

【経験者編】



(2) ルームの広さについて (Q10-2)

Q10. 献血ルームのイメージを教えてください。 (2) ルームの広さについて

【基数:対象者全員】 (N)			(%)			
			広い	ふつう	狭い	わからない
全体			20.4	48.1	24.5	7.0
	17年	(5000)	20.9	54.6	24.5	
高校生			19.3	45.3	27.1	8.3
	17年	(87)	19.5	51.7	28.7	
大学生・専門学校生			20.5	48.5	25.1	5.9
	17年	(652)	24.7	52.8	22.5	
会社員			18.9	49.4	24.3	7.3
	17年	(2099)	19.9	55.2	24.9	
公務員			26.6	41.1	26.6	5.8
	17年	(203)	22.7	58.1	19.2	
自営業			21.7	41.5	32.1	4.7
	17年	(143)	17.5	59.4	23.1	
専業主婦			20.1	48.7	24.1	7.1
	17年	(1067)	20.7	52.3	27.0	
その他			24.7	46.1	19.6	9.5
	17年	(749)	21.4	55.9	22.7	
性別	男性	(1705)	17.6	48.0	27.7	6.7
	17年	(1705)	17.4	55.8	26.8	
女性			23.3	48.2	21.1	7.4
	17年	(3295)	22.8	53.9	23.3	
地域別	北海道	(210)	23.8	45.2	21.4	9.5
	17年	(200)	24.0	53.5	22.5	
東北			22.8	43.4	24.5	9.3
	17年	(350)	20.0	59.1	20.9	
関東甲信越			21.2	48.8	24.4	5.6
	17年	(1800)	22.2	53.9	23.9	
東海北陸			19.4	50.6	22.8	7.2
	17年	(750)	20.5	55.5	24.0	
近畿			19.0	45.1	28.6	7.4
	17年	(850)	17.4	52.0	30.6	
中国・四国			14.8	53.6	23.0	8.6
	17年	(450)	20.7	53.6	25.8	
九州・沖縄			22.5	46.8	23.3	7.4
	17年	(600)	22.5	57.5	20.0	

注: 17年は「わからない」の回答肢なし。



(3) 職員の対応について (Q10-3)

- 《職員の対応》については、「良い」がほぼ半数の47.2%を占めている。また「ふつう」も44.0%となっており、職員に対する評価は概ね良好。「悪い」とする人はほとんどみられない(3.3%)。
- 職業別で見ると、各層とも評価は良好だが、特に高校生で「良い」と評価する割合が最も高い。
- 性別・地域別による違いはあまりみられない。

- 17年度調査と比較すると、前回「わからない」の回答肢がないため、一概には比較できないが、全体では「良い」が37.8%→47.2%と9ポイント増。その分「ふつう」が57.5%→44.0%へと減少している。
- 属性別にみても、職業別・性別・地域別のいずれの層も、「良い」が増加、「ふつう」が減少という傾向は変わらない。その中で、職業別では自営業、地域別では中国・四国において、「良い」が大きく上昇したのが目立つ。

5. 献血ルームのイメージ

【経験者編】



(3) 職員の対応について (Q10-3)

Q10. 献血ルームのイメージを教えてください。 (3) 職員の対応について

【基数:対象者全員】		(N)	(%)			
			良い	ふつう	悪い	わからない
全体			47.2	44.0	3.3	5.5
	17年	(5000)	37.8	57.5	4.7	
高校生			53.0	38.7	3.9	4.4
	17年	(87)	43.7	50.6	5.7	
大学生・専門学校生			51.1	41.2	5.0	
	17年	(652)	45.6	50.0	4.4	
会社員			44.1	46.7	3.7	5.4
	17年	(2099)	36.3	58.6	5.1	
公務員			48.3	41.1	3.9	6.8
	17年	(203)	40.4	57.6	2.8	
自営業			50.0	44.3	2.8	2.8
	17年	(143)	32.9	62.9	4.2	
専業主婦			44.4	45.8	4.0	5.8
	17年	(1067)	34.6	60.2	5.2	
その他			48.1	41.3	7.9	
	17年	(749)	39.5	56.7	3.7	
性別	男性	(1705)	46.9	44.2	5.4	
	17年	(1705)	37.2	58.5	4.3	
女性			47.4	43.7	5.6	
	17年	(3295)	38.1	57.0	4.9	
地域別	北海道	(210)	50.5	41.0	6.7	
	17年	(200)	45.0	54.5	1.1	
東北			48.5	42.8	6.2	
	17年	(350)	38.3	56.6	5.1	
関東甲信越			45.8	44.7	4.3	5.2
	17年	(1800)	38.4	56.6	5.0	
東海北陸			47.7	44.1	5.3	
	17年	(750)	37.9	57.7	4.4	
近畿			47.2	43.3	3.3	6.3
	17年	(850)	35.4	59.2	5.4	
中国・四国			50.1	43.6	4.9	
	17年	(450)	33.8	60.7	5.6	
九州・沖縄			46.5	44.6	3.1	5.8
	17年	(600)	39.5	56.8	3.7	

注:17年は「わからない」の回答肢なし。



(4) 記念品や軽い飲食物について (Q10-4)

- 《記念品や軽い飲食物》に対するイメージでは、「良い」が40.9%に対し、「悪い」は9.9%となっており、好意的な評価が大きく上回る。なお、「ふつう」という意見が最も多く44.4%。
- 職業別でみると、他層に比べ自営業で「良い」がやや低く、その分「ふつう」評価が多くみられる。
- 性別では、女性の「良い」評価が男性を約7ポイント上回っている。
- 地域別では、北海道で「良い」と評価する割合が他地域に比べて目立つ。

- 17年度調査と比較すると、前回「わからない」の回答肢がないため、一概には比較できないが、全体では「良い」が36.7%→40.9%と若干上昇(4ポイント増)。一方、「ふつう」が7ポイント減。
- 職業別にみると、「良い」は専業主婦でやや上昇、逆に高校生でやや下がった。一方、自営業では「悪い」のスコアがやや高まっている。
- 地域別では、北海道、中国・四国で「良い」とする割合が10ポイント近くも上昇している。北海道はその分「ふつう」が大きく低下している。

5. 献血ルームのイメージ

【経験者編】



(4) 記念品や軽い飲食物について (Q10-4)

Q10. 献血ルームのイメージを教えてください。 (4) 記念品や軽い飲食物について

【基数:対象者全員】		(N)	(%)			
			良い	ふつう	悪い	わからない
全体			40.9	44.3	9.9	5.0
	17年	(5000)	36.7	51.5	11.8	
職業別	高校生	17年 (87)	40.9	40.3	11.6	7.2
	大学生・専門学校生	17年 (652)	43.8	41.5	10.0	4.7
会社員			41.6	49.8	8.6	
	17年	(2099)	37.8	46.8	10.3	5.1
公務員			34.0	53.2	12.9	
	17年	(203)	44.0	41.5	10.6	3.9
自営業			44.3	46.8	8.9	
	17年	(143)	33.0	50.9	14.2	1.9
専業主婦			35.7	55.9	8.4	
	17年	(1067)	44.6	44.0	7.1	4.2
その他			36.6	50.8	12.7	
	17年	(749)	42.8	42.8	7.9	6.4
性別	男性	17年 (1705)	37.4	51.4	11.2	
	女性	17年 (3295)	37.6	45.1	11.9	5.5
地域別	北海道	17年 (200)	31.1	55.5	13.4	
	東北	17年 (350)	44.3	43.5	7.8	4.4
関東甲信越			39.6	49.5	10.9	
	17年	(1825)	49.0	34.8	9.0	7.1
東海北陸			40.0	50.0	10.0	
	17年	(355)	41.1	44.8	8.5	5.6
近畿			34.6	52.9	12.6	
	17年	(1800)	39.9	45.3	10.1	4.7
中国・四国			40.4	48.0	11.6	
	17年	(780)	40.9	44.1	10.5	4.5
九州・沖縄			35.1	54.3	10.7	
	17年	(850)	37.1	48.5	9.4	4.9
九州・沖縄			30.0	56.1	13.9	
	17年	(431)	43.4	40.6	10.2	5.8
九州・沖縄			33.8	53.3	12.9	
	17年	(600)	43.9	41.5	9.9	4.6
			39.5	50.5	10.0	

注:17年は「わからない」の回答肢なし。



(1) 初めての献血した年齢 (Q12)

- 初めての献血した年齢は、「18～19歳」(33.4%)と「20～24歳」(32.3%)が、ともに1/3程度を占めており拮抗。これに「16～17歳」が28.6%で続き、10代での初献血経験者が全体の6割強を占めている。
- 職業別で見ると、当然のことながら高校生は「16～17歳」が9割近くを占め主流。大学生・専門学校生は「18～19歳」が4割と最も多い。一方、会社員、公務員は「16～17歳」が他層よりも低く、「20～24歳」が最も多くなる。
- 女性の初献血年齢が男性に比べて総じて若く、特に「16～17歳」で7ポイント上回っている。
- 地域別では、東北で「16～17歳」の割合が他地域に比べてやや高い。

- 17年度調査と比較すると、「16～17歳」が34.6%→28.6%と、6ポイント減となっている。一方、「18～19歳」「20～24歳」が若干増加傾向。
- 職業別では、「16～17歳」が減少したのは大学生・専門学校生、会社員、公務員、専業主婦。そのうち、大学生・専門学校生、自営業、専業主婦は共通して「20～24歳」がやや高まる。専業主婦は「18～19歳」もやや上昇しており、「18～24歳」が前回より10ポイント増えている。

6. 初めての献血について

【経験者編】



(1) 初めての献血した年齢 (Q12)

Q12. 初めての献血をしたのはいつですか。

		【基数:対象者全員】		(%)			
		(N)	16~17歳	18~19歳	20~24歳	25~29歳	
職業別	全体		28.6	33.4	32.3	5.7	
		17年 (5000)	34.6	30.6	27.9	7.0	
	高校生			87.3		12.7	
		17年 (87)		87.4		11.5	
	大学生・専門学校生		29.9	40.4	28.8		
		17年 (652)	39.9	38.7	21.2		
	会社員		23.0	31.4	37.2	8.5	
		17年 (2099)	28.8	29.6	32.8	8.8	
	公務員		22.2	29.0	38.6	10.1	
		17年 (203)	28.1	32.0	35.0	4.9	
	自営業		33.0	27.4	31.1	8.5	
		17年 (143)	33.6	35.7	21.0	9.8	
	専業主婦		27.7	34.2	29.7	8.5	
		17年 (1067)	39.7	28.6	24.6	7.0	
	その他		30.7	32.0	32.7	4.6	
		17年 (749)	34.4	29.8	27.0	8.8	
	性別	男性		25.2	32.9	35.0	6.9
		17年 (1705)	28.6	31.5	31.8	8.1	
	女性		32.2	34.0	29.4	4.4	
		17年 (3295)	37.7	30.1	25.8	6.5	
地域別	北海道		28.1	36.7	27.6	7.6	
		17年 (210)	36.5	29.5	30.0	4.0	
	東北		38.0	33.5	24.5	3.9	
		17年 (350)	40.0	31.1	22.3	6.6	
	関東甲信越		30.0	32.8	31.0	6.2	
		17年 (1800)	36.6	29.7	26.9	6.8	
	東海北陸		28.7	34.6	31.7	5.0	
		17年 (750)	33.2	30.9	28.7	7.2	
近畿		26.1	30.5	38.8	6.6		
	17年 (850)	29.2	30.4	31.9	8.6		
中国・四国		26.2	32.5	36.4	4.9		
	17年 (450)	27.8	32.2	33.6	6.4		
九州・沖縄		23.8	37.6	34.1	4.5		
	17年 (600)	39.2	31.7	22.3	6.8		



(2) 初めての献血した場所 (Q13)

- 初めての献血した場所は、「献血ルーム」が32.8%とほぼ1/3を占めており最も多い。以下、「大学キャンパス又は専門学校・各種学校」(21.2%)、「献血バス」(21.0%)が同程度、「高校」(18.0%)の順で続く。
- 職業別で見ると、高校生は「高校(での集団献血)」が最も多い。それ以外は「献血ルーム」中心となっているが、特に専業主婦でやや高い。また、自営業、専業主婦は他層に比べて「献血バス」も比較的多い。一方、大学生・専門学校生は「大学キャンパス又は専門学校・各種学校」と「献血ルーム」がほぼ同程度となっている。
- 性別では、女性の「献血ルーム」利用率が男性を大きく上回っているのが目立つ。
- 地域別では、近畿で「献血バス」が他地域に比べてやや高くなっている。

- 17年度調査と比較すると、「献血バス」の割合が大きく減少しているが、前回、「大学キャンパス又は専門学校・各種学校」の回答肢がなかったため、一概には比較できない。
- 職業別では、各層とも「献血バス」が減少したのは共通。また、高校生は「高校」を挙げる割合が高まっている。一方、専業主婦は「高校」が減少し、「血液ルーム」が増加。女性も同様の傾向。

6. 初めての献血について

【経験者編】



(2)初めて献血した場所 (Q13)

Q13. 初めて献血した場所はどこですか。

【基数:対象者全員】 (N)			(%)					
			高校	大学キャンパス又は 専門学校・各種 学校	職場	献血バス (左記以外)	献血ルーム (血液センター)	覚えていない
全体			18.0	21.2	4.8	21.0	32.8	
	17年	(5000)	22.6	5.2	37.1		32.6	
高校生			38.1		23.2		31.5	5.5
	17年	(87)	16.1	34.5			48.3	
大学生・専門学校生			20.0	30.0	15.5		32.4	
	17年	(652)	21.3	38.3			37.4	
会社員			16.3	19.8	8.1	22.7	31.2	
	17年	(2099)	21.8	7.3	37.1		31.5	
公務員			17.4	24.2	13.5	16.9	27.1	
	17年	(203)	20.2	13.3	35.0		29.1	
自営業			19.8	9.4	26.4		36.8	5.7
	17年	(143)	18.2	2.8	42.0		33.6	3.5
専業主婦			11.6	14.7	4.7	26.1	40.4	
	17年	(1067)	29.0	5.2	35.1		28.6	
その他			18.1	15.5	24.9		36.4	
	17年	(749)	19.4	2.4	39.0		36.0	
性別	男性	(1716)	19.6	24.6	6.1	21.8	25.1	
	17年	(1705)	20.7	6.0	42.3		27.2	3.8
女性		(3444)	16.4	17.8	3.4	20.1	40.9	
	17年	(3295)	23.6	4.7	34.4		35.4	
地域別	北海道	(210)	12.4	22.9	7.1	15.7	40.0	
	17年	(200)	10.0	3.0	42.5		43.0	
東北		(355)	27.6	14.9	6.5	17.2	32.4	
	17年	(350)	32.3	5.4	33.1		27.7	
関東甲信越		(1824)	19.2	18.1	3.7	19.2	37.4	
	17年	(1800)	22.7	4.2	32.4		38.0	
東海北陸		(780)	20.5	20.8	4.7	20.6	31.5	
	17年	(750)	23.5	5.5	42.1		25.3	3.6
近畿		(816)	13.5	23.3	4.5	29.0	27.5	
	17年	(850)	18.5	5.4	45.5		27.9	
中国・四国		(431)	16.2	26.2	6.0	21.8	27.8	
	17年	(450)	20.0	9.1	42.0		26.9	
九州・沖縄		(563)	14.9	28.3	6.0	19.2	29.2	
	17年	(600)	27.7	5.0	30.0		35.7	

注:17年は「大学キャンパス又は専門学校・各種学校」の回答なし。



(3)初めての献血の種類 (Q14)

- 初めての献血種類は「200ml献血」が51.6%と過半数を占めている。「400ml献血」は28.9%となっている。なお、「成分献血」は5.7%。
- 職業別で見ると、高校生の7割が「200ml献血」。専業主婦も「200ml献血」が3人に2人の割合を占めており中心。一方、「400ml献血」は公務員で他層よりも高いのが目立つ。
- 性別では、男性は「200ml献血」と「400ml献血」が同程度、女性は「200ml献血」が圧倒的。
- 地域別では、他地域に比べて九州・沖縄で「400ml献血」がやや高めである。

- 17年度調査と比較すると、「200ml献血」が62.3%→51.6%で11ポイント減、「400ml献血」が18.9%→28.9%へ10ポイント増加。両者の差がやや縮まってきている。
- 職業別にみると、高校生を除く各層で「200ml献血」が減り、「400ml献血」が増加した。高校生はほぼ前回並みで変化はみられない。
- 性別では、男女とも共通して「200ml献血」が減り、「400ml献血」が増加。また、各地域別でもこの傾向は変わらない。

6. 初めての献血について

【経験者編】



(3)初めての献血の種類 (Q14)

Q14. 初めての献血の種類は何ですか。

【基数:対象者全員】			(%)			
			200mL献血	400mL献血	成分献血	覚えていない
全体	20年	(5000)	51.6	28.9	5.7	13.8
	17年	(5000)	62.3	18.9	5.5	13.2
職業別	高校生	20年 (87)	69.6	5.0	0.6	24.9
	17年	(87)	71.3	4.6	0.6	23.0
大学生・専門学校生	20年	(652)	52.0	30.8	5.2	12.0
	17年	(652)	58.9	21.8	5.1	14.3
会社員	20年	(2099)	48.2	32.6	5.9	13.2
	17年	(2099)	59.8	23.1	5.5	11.5
公務員	20年	(203)	41.5	43.5	6.3	8.7
	17年	(203)	57.6	32.5	6.9	3.0
自営業	20年	(143)	42.5	32.1	3.8	21.7
	17年	(143)	52.4	22.4	5.6	19.6
専業主婦	20年	(1067)	67.0	12.7	5.8	14.5
	17年	(1067)	72.8	8.4	4.8	14.0
その他	20年	(749)	50.6	23.4	8.6	17.4
	17年	(749)	59.5	17.0	7.1	16.4
性別	男性	20年 (2556)	39.5	39.6	4.7	16.2
	17年	(1705)	45.3	34.4	4.7	15.6
女性	20年	(2444)	64.2	17.8	6.8	11.3
	17年	(3295)	71.1	10.9	5.9	12.0
地域別	北海道	20年 (210)	54.8	29.5	2.4	13.3
	17年	(200)	65.5	18.5	3.5	12.5
東北	20年 (355)	60.6	21.4	5.6	12.4	
	17年 (350)	69.4	17.4	3.4	9.7	
関東甲信越	20年 (1825)	51.9	29.6	5.6	12.9	
	17年 (1800)	59.9	19.9	5.2	14.9	
東海北陸	20年 (780)	53.7	25.3	6.7	14.4	
	17年 (750)	64.3	14.7	5.3	15.7	
近畿	20年 (810)	53.4	27.0	4.8	14.8	
	17年 (850)	61.5	20.5	5.1	12.9	
中国・四国	20年 (431)	48.5	31.3	7.0	13.2	
	17年 (450)	66.0	17.6	6.7	9.8	
九州・沖縄	20年 (583)	40.8	37.0	6.7	15.4	
	17年 (600)	60.3	21.2	8.3	10.2	



(4)初めての献血で400ml献血することへの不安意識 (Q15)

<新規質問>

- 初めての献血で『400ml献血』をすることに対してどう思うか聞いたところ、6割弱(57.2%)の人は「特に不安は感じない」としている。一方、「不安」と回答した人が26.4%と、4人に1人の割合で見られた。
- 職業別で見ると、「特に不安は感じない」は公務員で特に目立つ。一方、専業主婦の4割近くが「不安」としており、「特に不安に感じない」と拮抗している。なお、高校生でも過半数は「特に不安は感じない」としているが、他層に比べて「わからない」が多い。
- 性別では、女性の方が「不安」意識が男性を大きく上回っている。
- 地域別では、中国・四国、九州・沖縄で「特に不安は感じない」がやや高いが、総じてそれほどの違いはみられない。



(4)初めての献血で400ml献血することへの不安意識 (Q15)

Q15. 初めての献血で400ml献血をすることをどう思いますか。

【基数:対象者全員】		(N)	(%)		
			特に不安は感じない	不安	わからない
職業別	全 体	(5000)	57.2	26.4	16.4
	高校生	(181)	56.4	19.9	23.8
	大学生・専門学校生	(1453)	61.4	24.0	14.6
	会社員	(2152)	57.6	26.3	16.2
	公務員	(207)	67.6	19.3	13.0
	自営業	(106)	55.7	23.6	20.8
	専業主婦	(448)	43.3	39.1	17.6
	その他	(453)	52.1	28.7	19.2
	性別	男性	(2556)	64.4	19.9
女性		(2444)	49.8	33.2	17.0
地域別	北海道	(210)	58.6	24.8	16.7
	東北	(355)	58.3	29.0	12.7
	関東甲信越	(1825)	57.5	27.2	15.3
	東海北陸	(780)	52.8	28.3	18.8
	近畿	(816)	54.3	27.0	18.8
	中国・四国	(431)	61.3	22.3	16.5
	九州・沖縄	(583)	62.4	22.6	14.9



(1) 過去1年間の200ml献血回数 (Q16-1)

- 過去1年間で『200ml献血』をした経験のある人は46.1%とほぼ半数。
- 献血した回数では「1回」が27.4%と中心で、「2回」が10.8%で続く。なお、“2回以上”の複数回献血者は全体の2割弱(18.8%)となっている。
- 職業別で見ると、献血経験率は高校生が8割以上で圧倒的に高い。そのうちの大半が「1回」である。大学生・専門学校生がこれに続き、献血経験率は半数。やはり「1回」が中心。一方、公務員の献血経験者は1/3程度にとどまり、他層に比べて低い。
- 性別では、男性に比べて女性の献血経験率が上回る。(男性:40.3%<女性:52.2%)
- 地域別では、他地域に比べて九州・沖縄での献血経験率が低いのが目立つ。

- 17年度調査と比較すると、全体では献血経験率が40.5%→46.1%へ、約6ポイント上昇した。「1回」の献血者が前回に比べて増えている。
- 職業別にみると、公務員、自営業等を中心に「1回」中心ではあるが、総じて献血経験率がやや高まっている。しかし、高校生では唯一前回に比べて約9ポイント減となっている。
- 性別・地域別では、各層とも「1回」を中心に、総じて献血経験率がやや高まっている。

7. 献血回数について

【経験者編】



(1) 過去1年間の200ml献血回数 (Q16-1)

Q16. 過去1年間に何回献血しましたか。 (1) 200ml献血

【基数:対象者全員】			(%)					
			(N)	0回	1回	2回	3回	4回以上
全体				53.9	27.4	10.8	3.7	4.3
	17年	(5000)		59.5	22.3	8.7	4.9	4.6
高校生				17.7	61.9	11.6	5.5	3.3
	17年	(87)		9.2	67.8	14.9	5.7	2.3
大学生・専門学校生				49.8	31.7	12.3	3.3	
	17年	(652)		54.0	28.4	8.6	4.3	4.8
会社員				55.9	25.0	10.2	4.3	4.6
	17年	(2099)		59.3	21.6	9.3	5.1	4.7
公務員				66.2	15.5	8.2	4.3	5.8
	17年	(203)		72.4	15.8	4.9	2.5	4.4
自営業				59.4	23.6	8.5	2.8	5.7
	17年	(143)		65.7	17.5	7.7	4.2	4.9
専業主婦				56.0	23.9	11.2	3.6	5.4
	17年	(1067)		58.5	21.5	8.9	5.9	5.2
その他				62.9	21.4	9.7	2.0	4.0
	17年	(749)		67.4	17.5	7.2	4.1	3.7
性別	男性	(2156)		59.7	24.0	9.5	3.1	3.6
	17年	(1705)		68.3	19.9	5.8	3.3	2.6
女性		(2444)		47.8	31.0	12.1	4.2	4.9
	17年	(3295)		54.9	23.5	10.2	5.7	5.6
地域別	北海道	(210)		51.9	27.6	11.0	4.8	4.8
	17年	(200)		63.5	21.0	4.0	4.0	7.5
東北		(305)		50.1	28.7	11.0	5.4	4.8
	17年	(350)		60.6	20.9	7.7	5.7	5.1
関東甲信越		(1826)		54.2	27.1	10.8	3.6	4.3
	17年	(1800)		60.3	23.0	8.2	4.4	4.1
東海北陸		(780)		51.8	28.6	10.8	3.8	5.0
	17年	(750)		55.3	24.4	8.9	6.5	4.8
近畿		(816)		49.1	30.4	12.3	3.8	4.4
	17年	(850)		53.2	24.1	12.7	5.2	4.8
中国・四国		(431)		55.2	27.6	10.2	3.5	3.5
	17年	(450)		60.7	21.1	10.0	4.2	4.0
九州・沖縄		(663)		64.3	21.6	8.7	2.3	3.1
	17年	(600)		68.3	17.2	5.5	4.2	4.8



(2) 過去1年間の400ml献血回数 (Q16-2)

- 過去1年間における『400ml献血』では、全体の37.7%が経験している。
- 献血した回数は、『200ml』と同様、やはり「1回」が22.1%で中心。“2回以上”の複数回献血者は15.7%となっており、『200ml』(18.8%)と比べて若干低い。
- 職業別で見ると、『200ml献血』が圧倒的に多い高校生と、専業主婦の献血経験率は10%台と他層に比べて低い。一方、大学生・専門学校生と公務員の献血経験率が4割以上とやや高く、特に公務員では“2回以上”のリピーター経験者が他層に比べて多い。
- 性別では、『200ml献血』とは逆に、女性に比べて男性の献血経験率が大きく上回っている。
(男性:47.9% > 女性:27.0%)
- 地域別では、他地域に比べて九州・沖縄の献血経験率が若干高い。

- 17年度調査と比較すると、全体では献血経験率が26.4%→37.7%へと、11ポイントのアップ。そのうち、「3回以上」だけでも前回に比べて4ポイント増えた。
- 職業別にみると、高校生と専業主婦を除くと、いずれも献血経験率が高まっている。特に、公務員、会社員では「3回以上」が増えているのが目立つ。
- 性別・地域別では、総じて各層とも「1回」を中心に献血経験率がやや上昇している。

7. 献血回数について

【経験者編】



(2) 過去1年間の400ml献血回数 (Q16-2)

Q16. 過去1年間に何回献血しましたか。 (2) 400ml献血

【基数:対象者全員】			(%)			
(N)			0回	1回	2回	3回以上
全体			62.3	22.1	8.3	7.4
	17年	(5000)	73.6	16.6	6.3	3.4
職業別	高校生		85.1	11.6		
	17年	(87)	87.4	8.0		
大学生・専門学校生			55.9	27.7	9.8	6.5
	17年	(652)	64.0	21.5	9.4	5.2
会社員			59.2	22.4	9.4	9.0
	17年	(2099)	70.0	18.9	7.3	3.7
公務員			54.1	20.8	9.7	15.5
	17年	(203)	58.6	21.7	13.8	5.9
自営業			65.1	17.0	8.5	9.4
	17年	(143)	75.5	15.4	4.2	4.9
専業主婦			82.6	11.4	3.6	2.5
	17年	(1067)	83.4	11.9	2.8	1.9
その他			71.5	18.8	4.6	5.1
	17年	(749)	80.2	12.6	4.8	2.4
性別	男性		52.1	25.9	11.4	10.6
	17年	(1705)	60.6	22.5	10.9	6.0
女性			73.0	18.0	5.0	4.0
	17年	(3295)	80.3	13.6	4.0	2.1
地域別	北海道		61.0	23.3	11.4	4.3
	17年	(200)	73.5	16.5	6.0	4.0
東北			63.9	19.7	9.6	6.8
	17年	(350)	74.6	17.7	4.9	2.9
関東甲信越			62.5	22.0	8.2	7.4
	17年	(1800)	73.2	17.2	6.4	3.2
東海北陸			66.9	18.2	7.2	7.7
	17年	(750)	78.5	12.5	5.5	3.5
近畿			62.3	23.3	8.8	5.6
	17年	(850)	72.4	18.4	5.9	3.4
中国・四国			60.8	23.7	6.0	9.5
	17年	(450)	72.0	16.0	8.4	3.6
九州・沖縄			56.3	25.6	9.1	9.1
	17年	(600)	71.2	17.5	7.2	4.2



(3) 過去1年間の成分献血回数 (Q16-3)

- 必要な血液の成分だけを採血する『成分献血』に関しては、過去1年間の経験者は22.1%。8割弱の人が実施していない。献血回数は「1回」(11.0%)と複数回献血(11.1%)が同程度。
- 職業別で見ると、高校生の9割以上が実施しておらず、経験率が極端に低い。専業主婦がこれに次いで低い。一方、公務員の献血経験率は3割弱と他層に比べると比較的高い。
- 性別による差はみられない。
- 地域別では、他地域に比べて北海道の献血経験率が特に低くなっている。

- 17年度調査と比較すると、全体では献血経験率が18.8%→22.1%へと、3ポイント強のアップ。回数では「1回」が前回に比べて増えている。
- 職業別にみると、他層の実施経験率が微増傾向にある中、高校生のみ微減しており前回よりもさらに減った。
- 地域別では、中国・四国において献血経験率がやや上昇している。(1回が増えた)

7. 献血回数について

【経験者編】



(3) 過去1年間の成分献血回数 (Q16-3)

Q16. 過去1年間に何回献血しましたか。 (3) 成分献血

【基数:対象者全員】			(%)					
			0回	1回	2回	3回	4回以上	
全体	2017年	(5000)	77.9			11.0	3.2 1.9 6.0	
	17年	(5000)	81.2			7.7	3.4 2.1 5.6	
職業別	高校生	2017年	93.9				5.5	
		17年	(87)	92.0			5.7	
	大学生・専門学校生	2017年	76.5			12.7	3.3 6.5 8.8	
		17年	(652)	77.9			9.7	2.8 2.6 7.1
	会社員	2017年	76.4			11.5	3.4 2.1 6.6	
		17年	(2099)	79.6			8.2	4.0 2.3 5.9
	公務員	2017年	71.0			11.1	5.3 1.9 10.6	
		17年	(203)	73.9			9.9	4.9 3.9 7.4
	自営業	2017年	78.3			10.4	3.8 2.8 4.7	
		17年	(143)	80.4			12.6	1.4 2.1 3.5
	専業主婦	2017年	83.7				8.5 2.9 2.0 2.9	
		17年	(1067)	87.5			5.9	2.8 3.0
	その他	2017年	79.9			8.4	2.4 2.2 7.1	
		17年	(749)	80.5			6.0	3.5 2.7 7.3
	性別	男性	2017年	79.1			10.0	2.9 6.6 6.3
			17年	(1705)	82.0			6.9 2.6 2.0 6.5
女性		2017年	76.5			12.1	3.6 2.2 5.6	
		17年	(3295)	80.8			8.1	3.8 2.2 5.1
地域別	北海道	2017年	86.2			8.6	2.4 1.4 4.4	
		17年	(200)	87.0			7.0 3.0 1.0 4.0	
	東北	2017年	77.7			12.1	3.1 1.7 5.4	
		17年	(350)	81.1			7.1 2.9 2.6 6.3	
	関東甲信越	2017年	77.6			10.9	3.3 1.6 6.5	
		17年	(1800)	81.7			7.9 3.1 1.9 5.3	
	東海北陸	2017年	77.7			10.5	4.0 1.8 6.0	
		17年	(750)	77.7			8.5 3.6 1.9 8.3	
	近畿	2017年	77.7			10.9	3.4 2.1 5.9	
		17年	(850)	80.9			8.2 4.1 2.2 4.5	
	中国・四国	2017年	75.9			12.5	2.6 2.1 7.0	
		17年	(450)	81.3			7.1 2.9 2.9 5.8	
九州・沖縄	2017年	77.5			11.5	2.7 2.6 5.7		
	17年	(600)	82.3			6.5 3.8 2.3 5.0		



(4) 今までの合計献血回数 (Q17)

- 今までの通算献血回数をみると、「1回」が最も多く33.7%と3人に1人の割合。残りの2/3の人が「2回以上」の複数回献血者であり、回数は「3~5回」が26.2%で中心となっている。なお、全体では「2回以下」と「3回以上」がほぼ半数ずつに分けられる。
- 職業別でみると、高校生の献血回数が他層に比べて低く、8割以上が「2回以下」、6割強が「1回」のみ。一方、会社員、公務員、自営業で「3回以上」の割合が他層に比べて高い。
- なお、献血に関連した質問別(下図)にみると、まず《初めて献血した場所別》では大学や職場に比べて高校で初めて献血した層ほど、献血頻度が高い傾向がみられる。「6回以上」でその差が顕著となってくる。つまり、より早く経験すると、その後の献血回数も増えるとも考えられる。
- また《家族の献血の有無》別では、家族の献血現場を見たことがある層ほど、本人の献血頻度も明らかに高まっており、両者の相関が高いことが窺える。

- 17年度調査と比較すると、全体の献血頻度が下がっており、複数回経験者は71.8%→66.3%へと、約6ポイント減少した。
- 職業別にみると、各層とも複数回経験者の割合が減少している。特に、公務員で「3回以上」の割合の落ち込みが顕著。
- 性別・地域別でも、各層とも総じて献血頻度がやや落ちている。

<関連質問の回答別>

【基数:対象者全員】

		(N)	1回	2回	3~5回	6~10回	11~20回	21~30回	それ以上
全体		(5000)	33.7	18.7	26.2	10.8	6.2	2.4	
初めて献血した場所	高校	(902)	30.6	21.5	27.6	10.4	6.6	2.0	
	大学キャンパス又は専門学校・各種学校	(1062)	36.1	20.9	28.6	7.9	4.0	1.6	1.6
	職場	(240)	36.7	22.5	27.9	9.2	1.4	1.2	
	献血バス(上記以外)	(1048)	37.5	18.5	24.2	11.4	2.1	0.4	1.3
	献血ルーム(血液センター)	(1641)	29.5	15.5	25.4	13.2	3.1	3.3	4.0
	覚えていない	(107)	57.0		14.0	18.7	3.7	4.7	
	覚えていない	(107)	57.0		14.0	18.7	3.7	4.7	
家族の献血の有無	ある	(1088)	24.2	16.0	28.4	13.7	10.3	3.5	4.0
	ない	(3531)	35.9	19.1	25.8	10.3	3.3	1.7	1.9
	覚えていない	(381)	40.2	22.8	23.6	7.1	2.6	2.4	

7. 献血回数について

【経験者編】



(4) 今までの合計献血回数 (Q17)

Q17. 今までの献血回数は合計で何回ですか。

【基数:対象者全員】

		(N)	(%)						
			1回	2回	3~5回	6~10回	11~20回	21~30回	それ以上
職業別	全体	17年 (5000)	33.7	18.7	26.2	10.8	6.2	20.2	2.4
		20年 (5000)	28.2	16.3	27.3	13.4	6.2	13.3	3.7
	高校生	17年 (87)	63.0		19.3	13.3	3.9		
		20年 (87)	56.3		29.9	11.5			
	大学生・専門学校生	17年 (652)	38.0	21.1	25.2	8.1			
		20年 (652)	34.0	16.3	27.6	11.3			
	会社員	17年 (2099)	28.3	17.7	27.9	12.8			
		20年 (2099)	25.0	15.6	28.3	14.1			
	公務員	17年 (203)	23.7	16.9	24.6	17.4			
		20年 (203)	13.3	11.8	31.0	13.3			
	自営業	17年 (143)	33.0	11.3	31.1	13.2			
		20年 (143)	28.0	13.3	28.7	16.8			
	専業主婦	17年 (1067)	34.4	18.3	28.3	10.9			
		20年 (1067)	29.2	17.1	26.1	15.5			
	その他	17年 (453)	38.0	18.3	24.1	9.1			
		20年 (453)	31.4	17.1	26.0	11.1			
	性別	男性	17年 (2456)	33.4	18.7	26.3	10.3		
		20年 (2456)	26.9	16.4	28.9	11.0			
女性		17年 (2444)	34.0	18.7	26.1	11.3			
		20年 (2444)	28.9	16.2	26.4	14.7			
地域別	北海道	17年 (210)	35.2	20.0	26.7	10.5			
		20年 (210)	28.0	17.5	24.5	12.5			
	東北	17年 (366)	30.7	18.0	27.3	12.7			
		20年 (366)	24.0	17.4	26.3	16.3			
	関東甲信越	17年 (1825)	34.6	18.0	25.9	10.7			
		20年 (1825)	30.4	16.2	26.7	12.8			
	東海北陸	17年 (780)	32.9	20.0	26.0	9.1			
		20年 (780)	26.0	16.8	28.1	11.7			
	近畿	17年 (816)	35.7	17.6	25.4	11.5			
		20年 (816)	30.2	14.8	28.5	14.6			
	中国・四国	17年 (481)	31.6	20.4	25.8	10.0			
		20年 (481)	24.4	19.6	27.6	12.7			
九州・沖縄	17年 (463)	31.9	19.2	28.0	11.7				
	20年 (463)	26.5	14.3	27.5	14.8				



(1) 初めての献血のきっかけ「1位<最も大きな要因>」(Q18)

- 《初めての献血のきっかけ》となったものを大きい順に3つまで選んでもらった。
1位に挙げた要因では、「自分の血液が役に立ってほしいから」が37.5%で突出傾向。
以下、「輸血用の血液が不足していると聞いたから」(9.1%)、「家族や友人などに勧められたから」(7.2%)、「大学キャンパスに献血バス・出張献血が来たから」(6.6%)などが続く。
- 職業別にみると、各層とも「自分の血液が役に立ってほしいから」が主要なきっかけとなっているのは共通だが、特に、高校生、専業主婦でその意識がやや高い。
- 性別・地域別による違いはあまりみられない。

- 17年度調査と比較すると、回答肢が多少入れ替わったため一概には比較できないが、「自分の血液が役に立ってほしいから」が最も大きな要因であることには変わりはない。
しかも、スコアは33.7%→37.5%へ、4ポイント増となっている。
- 職業別では、この「自分の血液が役に立ってほしいから」が高校生、自営業、専業主婦などでスコアアップしたのが目立つ。その分「なんとなく」とする割合が減ってきた。
- 地域別では、「自分の血液が役に立ってほしいから」は関東甲信越でやや増えた。逆に北海道で減少している。

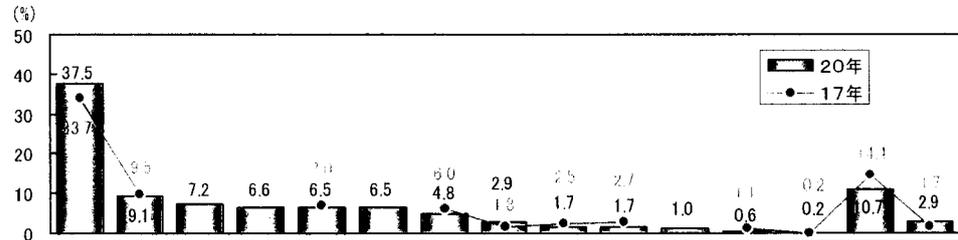
8. 献血するきっかけ

【経験者編】



(1)初めての献血のきっかけ「1位<最も大きな要因>」(Q18)

Q18. 初めての献血のきっかけになったのは、次のうちどれですか。
 きっかけの大きい順に3つまでお選びください。(それぞれひとつずつ)



【基数:対象者全員】

		(N)		(%)													
		20年	17年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
全体	20年 (5000)	37.5	9.1	7.2	6.6	6.5	6.5	4.8	2.9	1.7	1.7	1.0	0.6	0.2	10.7	2.9	
	17年 (5000)	33.7	9.5	7.2	6.6	7.0	6.5	6.0	1.8	2.5	2.7	1.1	0.2	14.4	1.7		
職業別	高校生	44.8	5.5	3.9	0.6	5.5	8.3	7.7	3.3	1.1	1.1	0.6	1.1	-	11.6	5.0	
	17年 (87)	31.0	6.9	3.9	0.6	8.0	10.3	10.3	3.4	-	3.4	1.1	-	23.0	-		
	大学生・専門学校生	37.2	9.1	6.7	7.2	7.2	6.1	6.2	2.1	1.2	1.7	1.0	0.6	0.2	10.5	3.0	
	17年 (652)	32.2	10.7	6.7	7.2	7.4	6.3	6.3	0.9	1.2	4.8	1.2	0.3	15.5	1.5		
	会社員	37.6	9.1	7.3	6.9	6.7	6.0	3.9	3.0	1.8	1.7	1.1	0.6	0.1	11.1	3.0	
	17年 (2099)	34.2	9.5	7.3	6.9	6.7	5.4	1.9	3.0	3.0	3.0	0.9	0.2	14.6	1.8		
	公務員	36.2	9.7	7.2	5.8	4.3	7.7	2.9	4.3	2.9	1.4	3.9	1.0	-	10.1	2.4	
17年 (203)	35.5	10.3	7.2	5.8	11.3	3.4	3.0	2.0	2.0	2.0	1.0	-	12.3	1.5			
自営業	42.5	5.7	6.6	3.8	5.7	9.4	4.7	3.8	1.9	3.8	0.9	-	-	7.5	3.8		
17年 (143)	28.7	11.9	6.6	3.8	8.4	6.3	2.8	2.1	2.8	2.8	1.4	-	-	13.3	3.5		
専業主婦	42.9	12.1	7.1	6.0	5.4	5.6	3.3	4.5	2.0	1.6	0.7	0.2	0.4	7.6	0.7		
17年 (1067)	35.1	8.3	7.1	6.0	6.1	6.8	1.9	2.3	1.7	1.7	1.2	-	-	12.7	1.6		
その他	29.4	8.6	9.9	7.1	6.0	9.3	5.5	2.0	2.6	1.8	0.4	0.9	0.4	13.2	2.9		
17年 (749)	32.6	9.6	9.9	7.1	7.5	6.0	1.7	2.8	1.7	1.7	1.2	0.3	15.1	1.6			
性別	男性	36.4	7.8	6.3	7.3	7.0	6.3	4.1	2.7	1.8	1.7	1.3	0.7	0.1	12.7	3.6	
	17年 (1705)	32.6	9.9	6.3	7.3	7.9	5.5	2.1	2.9	2.8	1.4	0.1	16.8	2.2			
女性	38.6	10.5	8.1	5.8	6.0	6.8	5.5	3.0	1.6	1.7	0.7	0.5	0.3	8.6	2.1		
17年 (3295)	34.3	9.3	8.1	5.8	6.6	6.2	1.7	2.2	2.7	2.7	0.9	0.2	13.2	1.4			
地域別	北海道	31.0	9.5	6.7	8.1	7.1	4.8	9.0	2.9	1.0	1.9	-	1.4	-	14.3	2.4	
	17年 (200)	40.0	7.5	6.7	8.1	5.5	6.5	1.0	1.0	4.5	1.5	-	12.5	1.5			
	東北	36.1	9.3	6.8	3.9	8.7	9.6	3.7	2.3	2.0	2.0	0.8	1.4	-	11.0	2.5	
	17年 (350)	33.4	9.7	6.8	3.9	7.7	8.0	2.3	1.4	1.4	0.6	-	10.9	1.7			
	関東甲信越	38.6	8.9	6.8	5.2	6.5	6.1	5.8	2.8	1.7	1.4	1.2	0.4	0.3	11.1	3.2	
	17年 (1800)	31.9	8.9	6.8	5.2	6.2	7.3	1.9	3.0	2.8	2.8	1.0	0.4	14.9	2.1		
	東海北陸	37.9	8.8	7.6	6.5	5.4	8.1	4.4	3.1	2.7	2.4	0.8	0.8	0.1	8.8	2.6	
	17年 (750)	35.9	8.4	7.6	6.5	7.1	4.8	2.3	3.1	3.2	3.2	1.2	-	15.1	1.5		
近畿	38.4	9.3	6.7	8.1	6.4	4.3	4.3	2.9	0.9	1.7	1.0	0.5	0.2	12.4	2.9		
17年 (850)	36.0	10.6	6.7	8.1	8.8	3.8	1.1	1.6	2.6	2.6	1.1	0.1	14.9	1.8			
中国・四国	38.3	9.3	8.1	6.7	7.0	6.7	3.5	3.2	1.9	1.4	1.2	0.2	0.5	9.5	2.6		
17年 (450)	34.2	12.0	8.1	6.7	7.3	4.4	1.8	2.2	2.2	2.2	0.7	-	16.4	1.3			
九州・沖縄	34.8	9.6	8.6	9.9	6.3	7.4	3.1	2.7	1.9	1.7	1.4	0.7	-	9.3	2.6		
17年 (600)	31.0	9.7	8.6	9.9	6.7	6.2	2.2	2.5	2.7	2.7	1.5	-	12.3	0.8			

注:17年は「献血は愛に根ざしたものだから」「家族や友人などに勧められた」「高校に献血バス・出張献血が来たから」「大学キャンパスに献血バス・出張献血が来たから」の回答肢なし。逆に「高校での集団献血、若しくは友人に誘われたから」を今回削除。



(2)初めての献血のきっかけ「1位～3位累計」(Q18)

- 《初めての献血のきっかけ》となったものを1位～3位累計で見ると、トップはやはり「自分の血液が役に立ってほしいから」が圧倒的に高く、61.0%となっている。
以下、「輸血用の血液が不足していると聞いたから」(39.1%)、「お菓子やジュースがもらえる」(31.2%)、「自分の血液の検査結果が自分の健康管理のためになるから」(29.5%)の順で続く。
3位以下は、前述の第1位に挙げられた要因とは多少順位の変動がある。
- 職業別にみると、全体上位の「自分の血液が役に立ってほしいから」「輸血用の血液が不足していると聞いたから」は他層に比べて専業主婦でやや高い。また、高校生は「自分の血液の検査結果が自分の健康管理のためになるから」が他層よりやや低いが、その一方で「輸血を受ける時に役立てたいから」がやや高い。
- なお、新規項目の「献血は愛に根ざしたものだから」は高校生、自営業で高めであった。

- 17年度調査と比較すると、回答肢が多少入れ替わったため一概には比較できないが、「自分の血液が役に立ってほしいから」が最大要因であることには変わりはない。
それ以外では「将来自分や家族等が輸血を受けることがあるかもしれないから協力した」がやや増え、「なんとなく」との回答がやや減った。
- 職業別では、「自分の血液が役に立ってほしいから」は高校生、自営業、専業主婦で高まる。
「輸血用の血液が不足していると聞いたから」も自営業、専業主婦で増えた。
- また、全般的に「将来自分や家族等が輸血を受けることがあるかもしれないから協力した」が増加傾向、「なんとなく」がやや減った。
- 性別では、女性で「輸血用の血液が不足していると聞いたから」がやや高まっている。

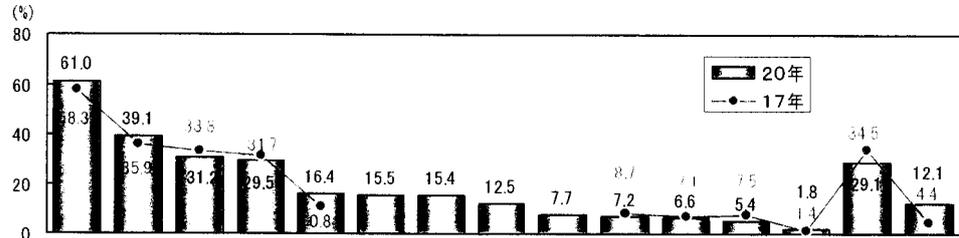
8. 献血するきっかけ

【経験者編】



(2)初めての献血のきっかけ「1位～3位累計」(Q18)

Q18. 初めての献血のきっかけになったのは、次のうちどれですか。
 きっかけの大きい順に3つまでお選びください。(それぞれひとつずつ)



【基数:対象者全員】

		(N)		(%)															
		20年	17年	自分の血液が役に立ってほしいから	輸血用の血液が不足していると聞いたから	お菓子やジュースがもらえるから	自分の血液の検査結果が自分の健康管理のためになるから	将来受けることがあるかもしれないから協力した	家族や友人などに勧められたから	大学キャンパスに献血バス・出張献血が来たから	高校に献血バス・出張献血が来たから	献血は愛に根ざしたものだから	過去に家族や友人などが輸血を受けたことがあるから	輸血を受けるときに役立てたいから	図書券がもらえたから	ネイルアートやマッサージなどのサービスが受けられるから	なんとなく	覚えていない	
全体	20年	(5000)	(5000)	61.0	39.1	31.2	29.5	16.4	15.5	15.4	12.5	7.7	7.2	6.6	5.4	1.8	29.1	12.1	
	17年	(5000)	(5000)	58.3	35.9	33.8	31.7	10.8	15.5	15.4	12.5	7.7	8.7	7.1	7.5	1.4	34.5	4.4	
職業別	高校生	20年	(87)	62.4	39.2	33.1	22.7	11.6	12.2	0.6	16.6	14.4	11.6	12.2	3.9	5.0	27.6	13.3	
	17年	(87)	(87)	49.4	34.5	44.8	29.9	6.9	12.2	0.6	16.6	14.4	10.3	10.3	5.7	3.4	43.7	6.9	
	大学生・専門学校生	20年	(652)	(652)	58.6	38.5	33.6	31.9	15.3	15.5	21.1	12.8	7.2	7.1	7.1	4.6	1.3	27.5	9.8
	17年	(652)	(652)	58.7	36.0	34.2	31.9	9.0	15.5	21.1	12.8	7.2	12.1	7.7	6.4	2.0	36.2	3.2	
	会社員	20年	(2122)	(2122)	61.3	38.3	29.3	28.7	17.3	14.9	14.0	11.6	7.9	6.8	6.4	6.2	1.6	30.7	14.0
	17年	(2099)	(2099)	57.5	36.8	32.7	31.4	11.9	14.9	14.0	11.6	7.9	8.8	7.0	8.1	1.4	34.9	5.1	
	公務員	20年	(207)	(207)	61.8	39.1	30.0	30.9	19.8	17.4	12.6	12.6	9.2	9.2	5.3	7.2	2.4	30.0	6.3
	17年	(203)	(203)	63.1	39.4	34.5	38.4	13.8	17.4	12.6	12.6	9.2	6.9	5.9	11.8	3.0	29.6	0.5	
自営業	20年	(106)	(106)	65.1	43.4	27.4	27.4	16.0	16.0	5.7	15.1	15.1	5.7	1.9	6.6	4.7	25.5	12.3	
17年	(143)	(143)	55.2	34.3	32.9	27.3	11.9	16.0	16.0	5.7	15.1	15.1	13.3	7.7	9.1	0.7	31.5	4.9	
専業主婦	20年	(1067)	(1067)	69.4	45.8	30.6	28.8	19.6	17.2	12.5	11.8	8.0	7.6	6.5	4.2	1.3	25.4	7.4	
17年	(1067)	(1067)	61.3	35.1	34.3	31.1	11.7	17.2	12.5	11.8	8.0	7.4	7.1	6.3	0.7	30.9	4.6		
その他	20年	(749)	(749)	56.7	37.3	34.0	29.4	12.4	17.0	15.9	14.6	3.3	6.2	5.5	4.9	3.1	30.7	16.8	
17年	(749)	(749)	56.2	33.8	34.3	32.0	7.7	17.0	15.9	14.6	3.3	6.5	7.1	7.3	1.1	37.8	3.7		
性別	男性	20年	(2335)	(2335)	57.9	35.0	28.8	28.9	16.7	13.9	16.5	11.9	9.2	6.9	7.5	5.9	1.5	33.3	14.3
	17年	(1705)	(1705)	54.8	34.7	29.5	31.6	11.1	13.9	16.5	11.9	9.2	8.4	9.1	8.7	1.4	38.9	5.6	
女性	20年	(2744)	(2744)	64.2	43.4	33.8	30.2	16.0	17.1	14.2	13.2	6.2	7.4	5.6	4.9	2.2	24.6	9.8	
17年	(3295)	(3295)	60.1	36.5	36.0	31.7	10.7	17.1	14.2	13.2	6.2	8.8	6.1	6.9	1.4	32.2	3.7		
地域別	北海道	20年	(210)	(210)	60.0	37.1	34.3	30.5	13.3	17.6	15.2	9.0	6.2	8.6	7.6	5.2	0.5	33.8	12.4
	17年	(200)	(200)	63.5	41.5	39.0	30.0	9.5	17.6	15.2	9.0	6.2	11.5	8.0	5.5	2.0	34.0	4.5	
	東北	20年	(355)	(355)	60.8	38.3	31.3	29.6	14.6	13.8	9.6	18.9	6.2	9.6	6.8	5.9	1.7	32.4	10.7
	17年	(350)	(350)	64.0	32.3	30.3	32.0	13.7	13.8	9.6	18.9	6.2	8.0	6.3	7.4	0.9	29.1	4.3	
	関東甲信越	20年	(1815)	(1815)	60.1	39.1	34.2	29.1	15.9	14.4	13.3	12.4	8.5	6.2	5.8	5.3	2.2	29.0	13.6
	17年	(1800)	(1800)	55.1	35.1	35.7	30.2	11.3	14.4	13.3	12.4	8.5	8.0	7.1	7.8	1.9	35.4	4.0	
	東海北陸	20年	(780)	(780)	60.5	37.2	30.0	27.8	18.1	17.1	14.6	13.5	7.1	8.5	7.7	6.2	0.9	29.5	12.9
	17年	(750)	(750)	60.1	33.3	32.1	31.9	10.3	17.1	14.6	13.5	7.1	10.4	7.6	8.9	0.9	34.1	5.9	
近畿	20年	(815)	(815)	62.1	41.1	27.3	28.9	19.0	15.4	17.0	10.4	8.7	8.5	6.1	4.4	1.7	29.9	10.3	
17年	(850)	(850)	59.8	37.5	32.1	34.8	11.6	15.4	17.0	10.4	8.7	8.6	6.7	5.8	1.1	36.1	3.6		
中国・四国	20年	(434)	(434)	61.9	39.7	30.9	31.1	16.5	16.5	18.6	12.8	4.6	7.7	7.4	7.0	2.3	26.0	9.0	
17年	(450)	(450)	58.2	38.7	30.9	30.9	8.9	16.5	16.5	18.6	12.8	4.6	8.9	5.3	6.7	0.2	36.7	4.2	
九州・沖縄	20年	(600)	(600)	62.4	40.0	28.0	32.6	13.9	16.5	22.0	11.8	8.6	4.3	7.2	5.0	2.4	25.9	11.5	
17年	(600)	(600)	58.7	37.2	34.8	32.3	9.2	16.5	22.0	11.8	8.6	8.0	9.0	8.7	1.8	31.3	4.7		

注: 17年は「献血は愛に根ざしたものだから」「家族や友人などに勧められた」「高校に献血バス・出張献血が来たから」
 「大学キャンパスに献血バス・出張献血が来たから」の回答がなし。逆に「高校での集団献血、若しくは友人に誘われたから」を今回削除。



(3) 現在献血するきっかけ「1位<最も大きな要因>」(Q19)

- 《現在献血する》第1位のきっかけでも、【初めての献血のきっかけ】と同様、「自分の血液が役に立ってほしいから」が45.3%と圧倒的に高く、献身的な気持ちが第一要因となっている。以下、「輸血用の血液が不足していると聞いたから」(11.7%)、「自分の血液の検査結果が自分の健康管理のためになるから」(10.7%)が1割強で続き、以上がベスト3。
- 職業別にみても大きな違いはみられない。その中で、「自分の血液が役に立ってほしいから」は自営業、専業主婦でやや高めとなっている。
- 地域別では、北海道で「自分の血液が役に立ってほしいから」が他地域に比べてやや低い。

- 17年度調査と比較すると、全体ではあまり変化はなく、「自分の血液が役に立ってほしいから」が他を大きくリードしているという傾向は変わらない。
- 職業別では、「自分の血液が役に立ってほしいから」は【初めての献血のきっかけ】と同様、高校生、自営業、専業主婦で高まっているのが目立つ。なお、高校生で「なんとなく」が減った。
- 地域別では、北海道、東北で「自分の血液が役に立ってほしいから」が減少、特に北海道で顕著。

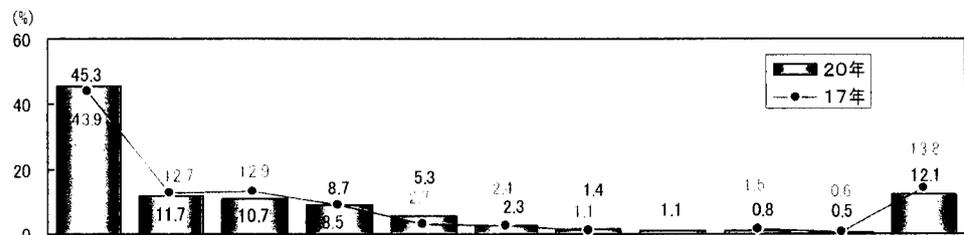
8. 献血するきっかけ

【経験者編】



(3) 現在献血するきっかけ「1位<最も大きな要因>」(Q19)

Q19. 現在献血するきっかけになっているのは、次のうちどれですか。
 きっかけの大きい順に3つまでお選びください。(それぞれひとつずつ)



【基数:対象者全員】

		(N)	45.3	11.7	10.7	8.7	5.3	2.3	1.4	1.1	0.8	0.5	12.1
全体	17年	(5000)	43.9	12.7	12.9	8.5	2.7	2.4	1.1	1.1	1.5	0.6	13.8
	20年	(5000)	45.3	11.7	10.7	8.7	5.3	2.3	1.4	1.1	0.8	0.5	12.1
職業別	高校生	(87)	37.9	9.2	10.3	8.0	4.6	1.1	3.4	1.7	2.2	0.6	23.0
	大学生・専門学校生	(652)	44.5	12.9	10.9	10.3	4.1	2.1	1.9	1.4	0.6	0.6	10.8
	会社員	(2099)	43.9	11.5	11.2	7.8	5.9	2.8	1.5	0.9	0.8	0.6	13.1
	公務員	(203)	45.9	9.7	12.6	6.3	3.9	2.9	1.4	1.4	-	1.0	15.0
	自営業	(143)	53.8	8.5	12.3	8.5	3.8	1.9	-	2.8	-	0.9	7.5
	専業主婦	(1067)	54.7	11.6	8.0	7.4	8.7	1.1	0.4	0.2	0.9	-	6.9
	その他	(460)	41.3	11.9	10.8	9.9	4.6	1.8	0.7	0.9	1.3	0.7	16.1
	17年	(749)	41.4	12.0	13.2	9.3	1.7	1.3	1.2	0.9	1.6	0.1	18.0
性別	男性	(1705)	42.3	12.5	12.4	7.6	2.9	2.2	1.5	1.5	1.2	0.9	16.6
	女性	(3295)	47.1	13.4	10.2	9.0	5.6	2.4	1.2	0.7	1.0	0.4	9.1
地域別	北海道	(200)	50.0	8.0	11.0	10.0	2.5	4.0	1.5	0.5	1.0	0.5	11.5
	東北	(350)	42.8	13.8	11.5	7.9	4.8	3.9	0.8	0.6	0.6	0.6	12.7
	関東甲信越	(1800)	44.8	10.5	10.2	10.7	5.3	2.0	1.0	1.5	1.0	0.5	12.4
	東海北陸	(750)	46.5	11.4	8.5	9.2	5.0	2.7	1.3	0.6	0.6	0.8	13.3
	近畿	(850)	44.6	14.8	15.3	5.1	2.4	2.5	0.9	0.9	0.9	0.4	13.2
	中国・四国	(450)	45.5	12.5	11.4	6.3	6.0	1.9	2.3	0.7	0.2	0.9	12.3
	九州・沖縄	(600)	47.0	12.2	12.9	5.7	5.1	2.9	1.9	0.5	0.5	0.3	11.0
	17年	(600)	45.7	12.0	14.7	9.5	3.3	1.7	0.8	0.8	1.2	0.5	10.7

注:17年は「献血は愛に根ざしたものだから」の回答肢なし。



(4) 現在献血するきっかけ「1位～3位累計」(Q19)

- 《現在献血する》きっかけを1位～3位の累計で見ると、「自分の血液が役に立ってほしいから」が70.4%とやはり圧倒的なトップ。【初めての献血のきっかけ】と同様、最大要因となっている。
- 以下、「輸血用の血液が不足していると聞いたから」(53.2%)、「自分の血液の検査結果が自分の健康管理のためになるから」(40.3%)、「お菓子やジュースがもらえるから」(36.8%)、「将来自分や家族等が輸血を受けることがあるかもしれないから協力した」(27.3)の順で続く。
- 職業別にみると、「自分の血液が役に立ってほしいから」は自営業、専業主婦でやや高い。一方、高校生は「お菓子やジュースがもらえるから」が他層に比べやや高く、また新規の「献血は愛に根ざしたものだから」は高校生、自営業で高めだった。
- 性別・地域別による違いはあまりみられない。

- 17年度調査と比較すると、全体では「輸血用の血液が不足していると聞いたから」「将来自分や家族等が輸血を受けることがあるかもしれないから協力した」がやや増えた。
- 属性別にみても、職業別・性別・地域別を通して、総じて各層とも「輸血用の血液が不足していると聞いたから」「将来自分や家族等が輸血を受けることがあるかもしれないから協力した」がやや増加したのは共通。
- なお、「自分の血液が役に立ってほしいから」は高校生、自営業で高まっている。一方、会社員、公務員では「なんとなく」がやや増えている。
- 性別では、男性で「お菓子やジュースがもらえるから」がやや増加した。

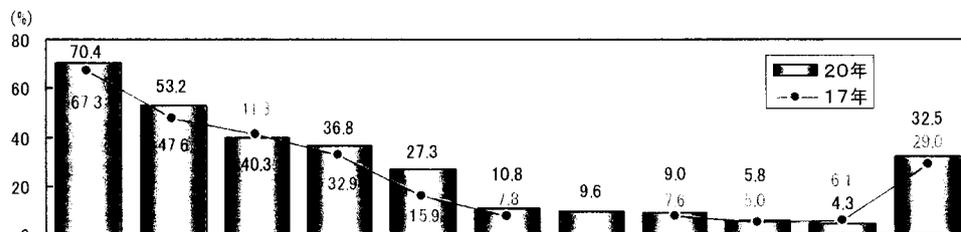
8. 献血するきっかけ

【経験者編】



(4) 現在献血するきっかけ「1位～3位累計」(Q19)

Q19. 現在献血するきっかけになっているのは、次のうちどれですか。
 きっかけの大きい順に3つまでお選びください。(それぞれひとつずつ)



【基数:対象者全員】

		(N)	70.4	53.2	40.3	36.8	27.3	10.8	9.6	9.0	5.8	4.3	32.5
全体		(6000)	67.3	47.6	41.3	32.9	15.9	7.8		7.6	5.0	6.1	29.0
職業別	高校生	(131)	71.8	49.2	27.6	44.8	21.5	9.9	16.6	13.3	5.5	9.4	30.4
	大学生・専門学校生	(333)	69.4	53.0	40.3	40.1	25.3	11.9	10.2	8.6	6.3	3.1	31.9
	会社員	(212)	69.6	53.0	40.5	34.7	28.9	10.8	9.3	9.4	5.6	4.1	34.2
	公務員	(207)	73.4	53.1	43.5	31.4	31.4	10.6	11.1	8.7	5.3	2.4	29.0
	自営業	(106)	75.5	51.9	43.4	34.9	23.6	4.7	17.0	7.5	5.7	6.6	29.2
	専業主婦	(438)	76.1	58.0	38.8	31.3	32.8	8.9	8.3	8.0	4.7	6.7	26.3
	その他	(43)	68.4	52.1	43.5	41.5	22.3	11.0	5.5	8.2	6.6	5.3	35.5
	その他	(749)	65.0	44.7	40.7	31.6	12.3	7.7		5.2	4.3	6.4	34.0
性別	男性	(230)	68.2	50.3	40.4	36.3	25.7	12.3	11.7	9.6	6.2	3.5	35.8
	女性	(277)	72.6	56.3	40.1	37.3	29.0	9.2	7.4	8.4	5.4	5.2	29.1
地域別	北海道	(210)	65.7	56.2	41.9	41.4	25.7	12.9	9.5	7.1	2.9	4.8	31.9
	東北	(350)	72.1	52.4	38.9	36.1	30.4	6.5	9.9	10.7	3.9	3.4	35.8
	関東甲信越	(1825)	68.9	51.0	38.9	39.8	25.7	10.7	10.8	8.4	6.2	5.4	34.0
	東海北陸	(760)	72.4	52.6	39.5	36.5	27.1	10.8	8.3	10.8	6.9	3.8	31.3
	近畿	(850)	70.5	55.0	40.3	31.9	32.1	11.2	10.0	8.8	5.0	4.3	30.9
	中国・四国	(450)	70.5	56.1	41.1	36.9	26.7	11.1	7.9	10.0	5.8	3.0	30.9
	九州・沖縄	(600)	72.6	55.9	45.1	33.1	25.0	12.2	8.2	7.7	6.0	3.1	31.0
	その他	(600)	69.8	49.5	48.5	34.7	15.8	8.7		6.5	6.0	6.0	24.4

注: 17年は「献血は愛に根ざしたものであるから」の回答数なし。



(5) 高校での集団献血がその後の献血への動機付けとなるか (Q22)

- 《高校での集団献血があれば、その後の献血する動機付けになると思うか》と質問した結果、「非常に有効」と評価した人が36.4%を占める。また「どちらかといえば有効」(48.2%)と併せたポジティブ評価は実に84.6%にのぼる。
- 職業別にみると、ポジティブ評価(有効計)は専業主婦で9割を超えており最も高い。一方、他層に比べて自営業でやや低い。ただし、トップボックス(非常に有効)に限ると両層で4割強と高い。
- なお、関連質問として《初めて献血した場所別》にみると(下図)、高校や大学などで初めて献血したという層ほど、“より有効”とする傾向がみられる。特に、高校で初めて経験した層で顕著で、有効計、トップボックス比率ともに高い。

- 17年度調査と比較すると、全体ではポジティブ評価(有効計)が65.9%→84.6%へ、大幅に上昇した(19ポイント増)。高校での献血はその後の献血への動機付けになるとの意識は高くなっている。
- 属性別にみても、職業別・性別・地域別を通して、各層とも“有効計”の割合が大きく上昇した。特に、高校生、大学生・専門学校生、専業主婦で20ポイント以上増加し、高校生の伸びが顕著。
- 地域別では、中国・四国の上昇度が目立つ。

<関連質問の回答別>

【基数:対象者全員】

		(N)	(%)				有効 (計)	関係ない (計)
			非常に有効	どちらかといえば有効	あまり関係ない	全く関係ない		
全体		(5000)	36.4	48.2	11.7	3.7	84.6	15.4
初めて 献血した 場所	高校	(902)	44.9	43.7	8.9	2.5	88.6	11.4
	大学キャンパス又は 専門学校・各種学校	(1062)	35.8	49.8	11.2	3.2	85.6	14.4
	職場	(240)	41.7	42.5	12.9	2.9	84.2	15.8
	献血バス (上記以外)	(1048)	32.4	52.4	11.5	3.7	84.8	15.2
	献血ルーム (血液センター)	(1641)	35.0	47.5	13.7	3.8	82.6	17.4
	覚えていない	(107)	20.6	50.5	12.1	16.8	71.0	29.0

8. 献血するきっかけ

【経験者編】



(5) 高校での集団献血がその後の献血への動機付けとなるか (Q22)

Q22. 高校での集団献血があれば、その経験がその後に献血する動機付けになるといえますか。

(%)

【基数:対象者全員】

		(N)	非常に有効	どちらかといえば有効	あまり関係ない	全く関係ない	有効 (計)	関係ない (計)	
全体	20年	(5000)	36.4	48.2	11.7	3.7	84.6	15.4	
	17年	(5000)	20.4	45.5	22.4	11.7	65.9	34.1	
高校生	20年	(398)	35.9	49.2	8.8	6.1	85.1	14.9	
	17年	(398)	20.7	35.6	28.7	14.9	56.3	43.7	
大学生・専門学校生	20年	(932)	35.1	49.1	12.0	3.9	84.2	15.8	
	17年	(932)	18.1	45.2	23.9	12.7	63.3	36.7	
会社員	20年	(1596)	36.5	47.8	11.9	3.8	84.3	15.7	
	17年	(1596)	21.0	44.4	23.2	11.5	65.4	34.6	
公務員	20年	(104)	38.2	44.9	13.0	3.9	83.1	16.9	
	17年	(104)	25.6	48.8	18.2	7.4	74.4	25.6	
自営業	20年	(115)	41.5	36.8	14.2	7.5	78.3	21.7	
	17年	(115)	21.0	46.9	21.0	11.2	67.8	32.2	
専業主婦	20年	(856)	41.5	51.1	6.9	0.5	92.0	7.4	
	17年	(856)	21.8	50.0	18.5	9.7	71.8	28.2	
その他	20年	(703)	33.6	47.9	15.0	3.5	81.5	18.5	
	17年	(999)	17.5	42.3	25.4	14.8	59.8	40.2	
性別	男性	20年	(266)	34.9	47.3	12.7	5.0	82.3	17.7
	17年	(1688)	19.4	41.3	26.7	12.6	60.7	39.3	
女性	20年	(244)	38.0	49.0	10.8	2.2	87.0	13.0	
	17年	(3312)	21.0	47.6	20.2	11.2	68.6	31.4	
地域別	北海道	20年	(210)	35.7	48.1	12.4	3.8	83.8	16.2
	17年	(200)	16.0	49.0	25.5	9.5	65.0	35.0	
東北	20年	(355)	40.0	45.6	10.4	3.9	85.6	14.4	
	17年	(350)	24.0	48.0	17.4	10.6	72.0	28.0	
関東甲信越	20年	(1824)	33.4	49.5	12.9	4.2	82.9	17.1	
	17年	(1800)	19.9	44.3	22.5	13.3	64.2	35.8	
東海北陸	20年	(780)	37.6	48.1	10.6	3.7	85.6	14.4	
	17年	(750)	20.9	46.1	21.9	11.1	67.1	32.9	
近畿	20年	(816)	36.3	48.2	12.3	3.3	84.4	15.6	
	17年	(850)	18.4	46.5	24.2	10.9	64.8	35.2	
中国・四国	20年	(431)	36.2	50.8	10.7	2.3	87.0	13.0	
	17年	(450)	19.1	44.4	25.8	10.7	63.6	36.4	
九州・沖縄	20年	(483)	42.9	43.7	10.1	3.3	86.6	13.4	
	17年	(600)	24.7	45.0	19.7	10.7	69.7	30.3	



(1) 家族の献血の有無 (Q20)

<新規質問>

- 家族が『献血』している姿を見たことが「ある」という人は21.8%。
- 職業別にみると、専業主婦で「ある」が3割を超えており他層に比べて高い。また、男性に比べて女性の方が10ポイント上回る。
- 地域別による差はそれほどみられない。

9. 家族・友人の献血状況

【経験者編】



(1) 家族の献血の有無 (Q20)

Q20. ご家族が献血している姿を見たことがありますか。

【基数:対象者全員】		(N)	(%)		
			ある	ない	覚えていない
全体		(5000)	21.8	70.6	7.6
職業別	高校生	(181)	23.2	65.2	11.6
	大学生・専門学校生	(1453)	20.0	71.9	8.1
	会社員	(2152)	20.9	71.3	7.8
	公務員	(207)	18.8	74.4	6.8
	自営業	(106)	22.6	70.8	6.6
	専業主婦	(448)	32.4	64.3	3.3
	その他	(453)	21.6	69.8	8.6
性別	男性	(2556)	16.8	73.7	9.5
	女性	(2444)	27.0	67.4	5.6
地域別	北海道	(210)	21.0	71.4	7.6
	東北	(355)	23.9	71.0	5.1
	関東甲信越	(1825)	20.7	71.9	7.5
	東海北陸	(780)	22.2	70.3	7.6
	近畿	(816)	23.2	68.0	8.8
	中国・四国	(431)	23.7	67.7	8.6
	九州・沖縄	(583)	20.2	72.4	7.4



(2)友人の献血の有無 (Q21)

<新規質問>

- 献血経験者の6割(59.7%)が、友達に献血をしている人が「いる」と回答。
- 職業別にみると、「いる」の割合が高いのは大学生・専門学校生と公務員で7割弱にのぼる。一方、自営業、専業主婦では半数前後と他層に比べてやや低い。
- 性別では、「いる」の割合は男性に比べて女性が約8ポイント上回っている。
- 地域別では、東北で「いる」が7割と他地域よりも高い。



(2)友人の献血の有無 (Q21)

Q21. あなたのお友達に献血をしている人はいますか。

【基数:対象者全員】		(N)	(%)		
			いる	いない	わからない
全体		(5000)	59.7	15.4	25.0
職業別	高校生	(181)	56.9	18.2	24.9
	大学生・専門学校生	(1453)	66.3	12.3	21.3
	会社員	(2152)	58.5	16.2	25.3
	公務員	(207)	69.6	13.5	16.9
	自営業	(106)	47.2	18.9	34.0
	専業主婦	(448)	54.5	14.1	31.5
	その他	(453)	48.3	21.4	30.2
性別	男性	(2556)	56.0	17.0	27.0
	女性	(2444)	63.5	13.7	22.8
地域別	北海道	(210)	60.5	13.8	25.7
	東北	(355)	69.9	11.8	18.3
	関東甲信越	(1825)	57.1	17.6	25.3
	東海北陸	(780)	60.0	11.9	28.1
	近畿	(816)	58.7	17.0	24.3
	中国・四国	(431)	61.3	13.5	25.3
	九州・沖縄	(583)	60.9	14.8	24.4



(1) 献血の必要性への理解の深まり (Q23-1)

- 献血に関する資料(巻末参照)の閲読後に、『献血』に関する意識の変化を質問した。まず、「献血の必要性への理解は今までと比べて深まりましたか」との質問では「はい」が32.7%で、「どちらかというとはい」(59.4%)まで含めたポジティブ評価(理解が深まった計)は92.1%にのぼる。一方、否定的な意見はほとんどみられなかった。
- 職業別にみると、各層ともポジティブ評価が9割前後と非常に高いが、その中でも特に専業主婦で高い。トップボックス(はい)も4割弱と他層よりも高い。
- 性別・地域別による違いはあまりみられない。

- 17年度調査と比較すると、全体ではポジティブ評価(理解が深まった計)が87.9%→92.1%へ、さらに4ポイント上昇した。
- 職業別にみると、大学生・専門学校生、会社員で、ポジティブ評価が前回に比べ5ポイント以上上昇している。
- 性別では男性、地域別では北海道で、やはりポジティブ評価が5ポイント以上高まっている。

10. 献血に関する資料評価

【経験者編】



(1) 献血の必要性への理解の深まり (Q23-1)

Q23. 献血に関する資料を読まれた後で次の質問にお答え下さい。

1) 献血の必要性への理解は今までと比べ深まりましたか。

【基数:対象者全員】		(N)	(%)				はい (計)	いいえ (計)
			はい	どちらかという はい	どちらかという いいえ	いいえ		
全体	20年	(4409)	32.7	59.4	5.7	92.1	7.9	
	17年	(5000)	16.2	71.7	10.2	87.9	12.1	
職業別	高校生	20年	32.6	58.6	6.1	91.2	8.8	
		17年	(87)	14.9	71.3	12.6	86.2	13.8
	大学生・専門学校生	20年	33.0	58.8	5.2	90.0	8.2	
		17年	(652)	16.6	69.6	10.9	86.2	13.8
	会社員	20年	31.6	60.9	5.8	87.3	7.5	
		17年	(2099)	15.0	72.0	11.4	87.0	13.0
	公務員	20年	29.0	58.5	10.6	87.4	12.6	
		17年	(203)	14.3	75.4	7.9	89.7	10.3
	自営業	20年	34.0	53.8	10.4	87.7	12.3	
		17年	(143)	22.4	62.2	12.6	84.6	15.4
	専業主婦	20年	38.2	57.1	3.3	95.3	4.7	
		17年	(1067)	18.5	72.0	8.3	90.4	9.6
	その他	20年	33.1	58.1	6.0	91.2	8.8	
		17年	(749)	15.8	73.0	8.7	88.8	11.2
性別	男性	20年	31.2	59.1	6.5	90.3	9.7	
		17年	(1705)	15.0	70.2	12.2	85.2	14.8
	女性	20年	34.2	59.7	4.8	93.9	6.1	
		17年	(3295)	16.9	72.5	9.1	89.4	10.6
地域別	北海道	20年	36.7	59.0	4.3	95.7	4.3	
		17年	(200)	16.0	67.0	13.5	83.0	17.0
	東北	20年	36.3	55.8	5.9	92.1	7.9	
		17年	(350)	18.0	73.4	6.9	91.4	8.6
	関東甲信越	20年	30.0	60.4	7.0	90.5	9.5	
		17年	(1800)	14.9	71.1	12.1	86.0	14.0
	東海北陸	20年	33.6	60.0	4.4	93.6	6.4	
		17年	(750)	15.7	73.9	9.3	89.6	10.4
	近畿	20年	32.2	59.4	5.5	91.7	8.3	
		17年	(850)	16.0	72.6	9.4	88.6	11.4
	中国・四国	20年	36.0	58.0	4.4	94.0	6.0	
		17年	(431)	19.8	70.2	8.2	90.0	10.0
九州・沖縄	20年	34.3	58.5	5.7	92.8	7.2		
	17年	(600)	17.5	71.3	9.0	88.8	11.2	



(2) 献血に協力する意識の高まり (Q23-2)

- 閲読後に、「献血に協力する気持ちは高まりましたか」と聞いたところ、「はい」が31.3%で、「どちらかというとはい」(56.6%)まで含めると、ほぼ9割(87.9%)で協力意向の高まりがみられた。
- 職業別・性別による違いはあまりみられないが、その中で専業主婦でポジティブ評価が9割以上と特に高い。なお、トップボックス(はい)に限ると、高校生も専業主婦と遜色なく他層より高い。
- 地域別では、中国・四国でトップボックス比率が最も高くなっている。

- 17年度調査と比較すると、全体のポジティブ評価は85.3%→87.9%と、若干上昇した。
- 職業別にみると、各層ともポジティブ評価は若干上昇した程度にとどまるものの、トップボックス比率が各層とも大きく上昇した。特に、高校生、専業主婦の伸びが目立つ。
- 地域別では、北海道、中国・四国で前回よりもポジティブ評価がやや上昇。トップボックス比率は各地域とも高まっている。

10. 献血に関する資料評価

【経験者編】



(2) 献血に協力する意識の高まり (Q23-2)

Q23. 献血に関する資料を読まれた後で次の質問にお答え下さい。

2) 資料を読んで献血に協力する気持ちは高まりましたか。

【基数:対象者全員】		(N)	はい	どちらかという はい	どちらかという いいえ	いいえ	はい (計)	いいえ (計)	
全体	20年	(4911)	31.3	56.6	9.3	3.3	87.9	12.1	
	17年	(5000)	19.3	66.0	12.5	3.7	85.3	14.7	
高校生	20年	(71)	36.5	48.6	11.6	3.3	85.1	14.9	
	17年	(87)	20.7	59.8	17.2	3.3	80.5	19.5	
大学生・専門学校生	20年	(147)	31.9	56.5	8.3	3.3	88.4	11.6	
	17年	(652)	18.9	64.9	12.6	3.7	83.7	16.3	
会社員	20年	(177)	29.9	57.9	9.8	3.7	87.7	12.3	
	17年	(2099)	19.0	65.0	13.7	2.5	84.0	16.0	
職業別 公務員	20年	(292)	30.0	54.6	13.5	2.7	84.5	15.5	
	17年	(203)	22.2	66.5	10.8	3.7	88.7	11.3	
自営業	20年	(106)	25.5	55.7	16.0	2.8	81.1	18.9	
	17年	(143)	21.7	59.4	16.1	2.8	81.1	18.9	
専業主婦	20年	(444)	37.1	56.7	4.9	1.7	93.8	6.3	
	17年	(1067)	20.8	68.5	9.2	1.7	89.3	10.7	
その他	20年	(453)	30.7	55.4	10.4	3.5	86.1	13.9	
	17年	(749)	17.0	67.7	12.7	3.7	84.6	15.4	
性別 男性	20年	(2346)	27.0	58.1	11.2	3.7	85.1	14.9	
	17年	(1705)	15.7	65.2	15.8	3.3	80.9	19.1	
女性	20年	(2444)	35.9	55.0	7.3	1.8	90.9	9.1	
	17年	(3295)	21.2	66.4	10.7	3.7	87.5	12.5	
地域別	北海道	20年	(710)	35.2	55.2	7.6	3.0	90.5	9.5
		17年	(200)	22.5	60.0	14.5	3.0	82.5	17.5
	東北	20年	(355)	33.0	56.3	8.7	2.0	89.3	10.7
		17年	(350)	21.1	68.0	8.9	2.0	89.1	10.9
	関東甲信越	20年	(1875)	28.3	57.6	10.8	3.2	85.9	14.1
		17年	(1800)	17.2	65.2	14.9	2.7	82.4	17.6
	東海北陸	20年	(780)	31.2	57.7	7.9	3.2	88.8	11.2
		17年	(750)	20.3	66.1	12.5	3.7	86.4	13.6
	近畿	20年	(810)	31.1	56.9	9.3	2.7	88.0	12.0
		17年	(850)	18.1	68.4	10.8	2.7	86.5	13.5
	中国・四国	20年	(431)	38.7	53.1	6.7	2.1	91.9	8.1
		17年	(450)	21.1	64.7	11.8	2.7	85.8	14.2
	九州・沖縄	20年	(583)	33.3	55.1	9.3	2.7	88.3	11.7
		17年	(600)	22.7	66.3	9.2	2.7	89.0	11.0



(3) 献血回数の増加意向喚起 (Q23-3)

- 同様に、アンケートへの記載や資料を読んで《献血に行く回数を増やそうと思いましたか》と聞いたところ、「はい」が28.5%。「どちらかというとはい」(54.4%)を含めると、全体の83.0%が今後献血へ行く回数の増加意向を示した。資料閲読後に多くの人が回数の増加を喚起されている。
- 職業別にみると、専業主婦でポジティブ評価が9割と特に高い。またトップボックス(はい)に限ると、高校生は専業主婦をも凌いでおり、両層が他層よりも高いのが目立つ。一方、公務員、会社員のポジティブ評価がやや低め。
- 性別では、女性のポジティブ評価が男性を9ポイント近く上回っている。
- 地域別では、各地域ともポジティブ評価は8割以上で差はみられない。

- 17年度調査と比較すると、全体のポジティブ評価は82.5%→83.0%と、ほぼ横ばい。ただし、トップボックス(はい)に限ると、19.7%→28.5%へ9ポイント上昇している。
- 職業別にみると、ポジティブ評価は公務員でやや低下。それ以外は大きな動きはみられない。なお、全体と同様、各層ともトップボックス比率が前回に比べて上昇。特に、高校生、専業主婦の上昇度が顕著。
- 地域別では、北海道でポジティブ評価が上昇。トップボックス比率は各地域とも高まっている。

10. 献血に関する資料評価

【経験者編】



(3) 献血回数の増加意向喚起 (Q23-3)

Q23. 献血に関する資料を読まれた後で次の質問にお答え下さい。

3) アンケートへの記載及び資料を読んで、献血に行く回数を増やそうと思いましたか。

【基数:対象者全員】		(N)	(%)				はい (計)	いいえ (計)
			はい	どちらかという はい	どちらかという いいえ	いいえ		
全体	20年	(5000)	28.5	54.4	13.0	4.1	83.0	17.0
	17年	(5000)	19.7	62.8	14.3	3.2	82.5	17.5
高校生	20年	(141)	35.4	44.8	13.8	6.1	80.1	19.9
	17年	(87)	20.7	60.9	14.9	3.4	81.6	18.4
大学生・専門学校生	20年	(645)	29.4	54.0	12.3	4.3	83.4	16.6
	17年	(652)	20.9	60.0	14.1	5.1	80.8	19.2
会社員	20年	(2112)	26.9	56.0	13.4	3.8	82.9	17.1
	17年	(2099)	19.3	62.6	15.1	3.0	81.9	18.1
公務員	20年	(207)	28.5	50.2	17.4	3.9	78.7	21.3
	17年	(203)	23.6	60.6	13.8	3.0	84.2	15.8
自営業	20年	(106)	25.5	51.9	18.9	3.8	77.4	22.6
	17年	(143)	15.4	64.3	16.1	4.2	79.7	20.3
専業主婦	20年	(440)	33.7	56.5	7.8	2.0	90.2	9.8
	17年	(1067)	20.5	65.9	11.8	1.8	86.4	13.6
その他	20年	(453)	26.5	52.8	14.6	6.2	79.2	20.8
	17年	(749)	17.9	62.2	15.5	4.4	80.1	19.9
男性	20年	(2556)	24.6	54.2	16.0	5.2	78.8	21.2
	17年	(1705)	16.4	62.1	17.2	4.3	78.5	21.5
女性	20年	(2444)	32.6	54.7	9.8	2.9	87.3	12.7
	17年	(3295)	21.3	63.2	12.8	2.7	84.6	15.4
北海道	20年	(210)	35.2	51.9	7.6	5.2	87.1	12.9
	17年	(200)	23.5	55.5	16.5	4.5	79.0	21.0
東北	20年	(355)	28.2	55.2	13.8	2.8	83.4	16.6
	17年	(350)	23.4	61.1	11.7	3.7	84.6	15.4
関東甲信越	20年	(1825)	26.4	54.4	14.5	4.7	80.8	19.2
	17年	(1800)	17.2	62.1	17.1	3.7	79.2	20.8
東海北陸	20年	(780)	30.0	53.5	12.1	4.5	83.5	16.5
	17年	(750)	19.2	65.6	12.9	2.3	84.8	15.2
近畿	20年	(816)	27.5	55.9	13.5	3.2	83.3	16.7
	17年	(850)	18.5	65.2	13.4	2.9	83.6	16.4
中国・四国	20年	(431)	32.3	53.8	11.1	2.8	86.1	13.9
	17年	(450)	22.9	61.3	13.3	2.5	84.2	15.8
九州・沖縄	20年	(583)	29.8	54.7	11.3	4.1	84.6	15.4
	17年	(600)	23.5	63.0	10.5	3.0	86.5	13.5



- 最後に、『献血』についての要望や知りたいことをみると、トップは「献血について正しい知識、必要性を知らせてほしい」で40.5%。
- 以下、「職場や学校などで献血の機会を増やしてほしい」(38.5%)、「献血する場所、日時などについて十分知らせてほしい」(37.5%)、「献血した時の処遇品(記念品)をもっと良くしてほしい」(35.4%)などが僅差で続いており、突出したものはないものの要望は多岐にわたっている。
- 職業別にみると、他層に比べて専業主婦の要望が総じて多岐にわたる。特に、「学校の授業で献血の重要性等について取り上げてほしい」が他層に比べて高い。
一方、高校生、公務員はともに「献血について正しい知識、必要性を知らせてほしい」「学校の授業で献血の重要性等について取り上げてほしい」がやや低い。しかし、「献血で昼休み、夜間などの受付時間を延長してほしい」は両者で差があり、公務員で最も高く、高校生で最も低い。
なお、高校生は「進学や就職時に献血の経験を考慮してほしい」が他層よりも高い。
- 性別では、総じて男性より女性の要望が目立つ。特に「職場や学校などで献血の機会を増やしてほしい」「学校の授業で献血の重要性等について取り上げてほしい」でその差が大きい。
- 地域別では、多少のスコア差はあるものの、全体的には大きな違いはみられない。

- 17年度調査と比較すると、全体的に大きな動きはみられない。その中で「献血した時の処遇品(記念品)をもっと良くしてほしい」がややスコアを下げている。
- 職業別にみると、上位項目の中では「献血について正しい知識、必要性を知らせてほしい」は高校生、「職場や学校などで献血の機会を増やしてほしい」は専業主婦、自営業でやや増加。
また、「献血された血液がどのように使われるのか知りたい」は専業主婦、高校生で、「学校の授業で献血の重要性等について取り上げてほしい」は専業主婦と会社員でやや増えている。
なお、自営業、公務員は「特になし」が前回よりも増えた。
- 地域別では、上位項目において北海道の上昇度が目立つ。

付) 調査票 / 呈示資料

<スクリーニング項目>

- SC1 現在お住まいの地域は、以下のうちどちらになりますか。
1. 北海道 2. 東北 3. 関東甲信越 4. 東海北陸 5. 近畿
6. 中国・四国 7. 九州・沖縄
- SC2 現在おいくつですか。
1. 15歳以下 ⇒ 対象外
2. 16～17歳
3. 18～19歳
4. 20～24歳
5. 25～29歳
6. 30歳以上 ⇒ 対象外
- SC3 あなたの性別を教えてください。
1. 男性 2. 女性
- SC4 現在のご職業を教えてください。
1. 高校生 2. 大学生・専門学校生 3. 会社員 4. 公務員 5. 自営業
6. 専業主婦 7. その他 ()
- SC5 あなたは学業及び職業で、医療関係に携わっていますか。
1. はい 2. いいえ
- SC6 あなたは、今までに「献血」をされたことがありますか。
1 ある ⇒ 献血経験者用調査票
2 ない ⇒ 献血未経験者用調査票

若年層献血意識調査

問1 献血について知っていますか。

1. よく知っている 2. ある程度知っている 3. まったく知らない

問2 献血の種類（※）を知っていますか。

1. 知っている 2. 知らない

※ ... 献血の種類には、すべての血液の成分を採血する全血献血（200mLまたは400mL）と、必要な血液の成分だけを採血する成分献血（血漿成分献血または血小板成分献血）があります。

問3 献血がどこでできるか知っていますか。（※）

1. 知っている 2. ある程度知っている 3. 知らない

※ ... 献血は、①献血ルーム ②献血バス ③血液センター ④会社や団体での出張献血です。

問4 献血について関心がありますか。

1. 非常に関心がある 2. 関心がある 3. 特に関心がない 4. 全く関心がない

問5 献血は患者さんに対する輸血だけでなく、献血を原料とした血液製剤として、さまざまな病気の治療に役立っていることを知っていますか。

1. 知っている 2. 知らない

問6 献血へ協力してくださる若い方の数が、近年大幅に減っています（※）。知っていましたか。

1. 知っている 2. 知らない

※ ... 最近5年間で20代の献血者数は161万8千人から113万5千人（30%減）に、10代の献血者数は56万4千人から32万4千人（43%減）に減少しています。

問7 献血に関して、どのような広報媒体を見たこと（聞いたこと）がありますか（複数回答可）。

1. テレビ 2. FM放送 3. その他のラジオ放送 4. 新聞
5. 街頭での呼びかけ 6. 献血ルーム前の看板・表示 7. チラシの配布
8. ポスターの掲示 9. 献血関係のイベント 10. 自治体の広報誌 11. 雑誌等
12. インターネット 13. 献血バス
14. その他（ ）
15. 何かで見た（聞いた）が、何の媒体か覚えていない
16. 見たこと（聞いたこと）がない

問8 献血のキャンペーンを行う際の効果的な媒体は何だと思いますか（複数回答可）。

1. テレビ 2. FM放送 3. その他のラジオ放送 4. 新聞 5. 雑誌
6. 自治体の広報誌 7. インターネット 8. 携帯電話 9. ポスター
10. その他（ ）

問9 厚生労働省では献血推進のためのキャラクターとして「けんけつちゃん」を作成していますが、知っていますか。

1. 知っている 2. 知らない

問10 献血に関するキャンペーンを知っていますか。

（毎年7月：愛の血液助け合い運動 毎年1～2月：「はたちの献血」キャンペーン）

1. 知っている 2. 知らない

問11 平成2年から、全国の高校3年生を対象に、献血に関する普及啓発資材「HOP STEP JUMP」を配布していますが、学校で配られた記憶はありますか。

1. 保健体育の授業で使用した
2. 他の授業で使用した
3. 配布されただけ
4. 知らない

※ 参考（平成19年版 高校生副読本「HOP STEP JUMP」→

<http://www.mhlw.go.jp/new-info/kobetu/iyaku/kenketsugo/2e/index.html> をご覧下さい)

問12 献血でエイズ、肝炎その他の感染症に感染することはありませんが、そのことを知っていますか。

1. 知っている
2. 知らない

問13 血液製剤（※）は未だ海外の血液に依存していることを知っていますか。

1. 知っている
2. 知らない

※...重症熱傷に用いるアルブミン製剤では、国内自給率は未だ60%台である。

問14 献血ルームのイメージを教えてください。

1. 明るい
2. ふつう
3. 暗い
4. わからない

問15 献血したことがないのはどのような理由からですか。

理由の大きい順に3つまで、その番号をお選びください。

1. 献血を申し込んだが、基準に適合せずに断られた
2. 献血している所に入りづらかったから
3. 呼び込みが強引で嫌だったから
4. 献血場所が遠いので面倒だから
5. 近くに献血する場所や機会がなかったから
6. どこで献血ができるか分からない
7. 時間がかかりそうだから
8. 忙しくて献血する時間がなかったから
9. 自分が献血しなくても誰かがやると思ったから
10. 自分の血液が役に立たないと思ったから
11. 血液が無駄にされていると聞いたから
12. 針を刺すのが痛くて嫌だから
13. なんとなく不安だから
14. 健康上出来ないと思ったから
15. 病気がうつると思ったから
16. 献血すると言ったら、友人や家族からとめられた
17. 血を採られるという感じが嫌だ
18. 恐怖心
19. 職員の態度が悪いので献血したくない
20. 献血する意志がない
21. 海外渡航歴等による献血制限で献血したくてもできない
22. 薬を服用しているので献血ができない
23. その他
24. わからない

1 番目 2 番目 3 番目

23.その他を選んだ場合の具体的な理由

問16 あなたが献血するきっかけとなり得る項目を選択してください。
きっかけの大きい順に3つまで、その番号をお選びください。
なお、13、14番を選択した方は、具体例を教えてください。

1. 家族や友人などから勧められた
2. 献血しているところが入りやすい雰囲気になった
3. 近くに献血する場所ができた（献血ルーム）
4. 近くに献血する場所ができた（献血バスまたは出張献血）
5. キャンペーンやイベント等により献血が身近に感じられるようになった
6. 好きなタレントがキャンペーンに起用されていた
7. 献血の重要性が明確になった
8. 血液が無駄になってないことが分かった
9. 針が細くなった
10. 針を刺すときに痛みを和らげる処置が実施された（麻酔など）
11. 献血で病気がうつることはないと思った
12. 献血ルームの受付時間が長くなった
13. 献血したときの処遇品（記念品）が良くなった
14. 献血ルームのサービスが良くなった
15. 献血が自分の健康管理の役に立つようになった
16. 職員の態度が良くなった
17. 海外渡航歴等の献血制限が解除された
18. 献血が健康にほとんど害がないということが分かった
19. 献血できる場所が分かった
20. 献血は絶対しない

1 番目 2 番目 3 番目

13. 献血したときの処遇品（記念品）が良くなったを選んだ場合の具体例

14. 献血ルームのサービスが良くなったを選んだ場合の具体例

20. 献血は絶対しないを選んだ場合の理由

問17 ご家族が献血している姿を見たことがありますか。

1. ある 2. ない 3. おぼえていない

問18 あなたのお友達に献血をしている人はいますか。

1. いる 2. いない 3. わからない

問19 献血に関する資料を読まれた後で次の質問にお答え下さい。
下の資料をご覧ください。

問19-1 献血の必要性への理解は良くなりましたか。

1. はい 2. どちらかというとはい 3. どちらかというといいえ 4. いいえ

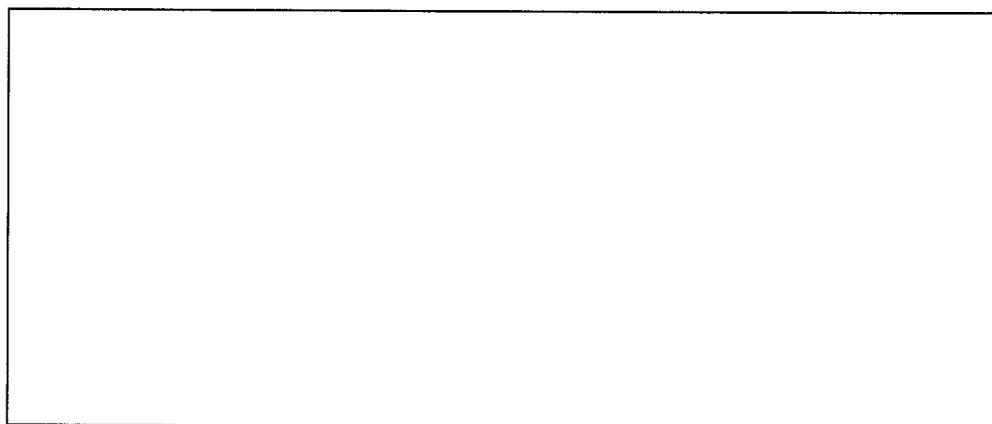
問19-2 今は献血に協力する気持ちはありますか。

1. ある 2. どちらかというとある 3. どちらかというとない 4. ない

問19-3 今後、実際に献血に行きますか。

1. はい 2. どちらかというとはい 3. どちらかというといいえ 4. いいえ

問20 若い方の献血に協力する気持ちを高めるためには、どのようなことをすればよいと思いますか。広報の方法やキャンペーン、イベント、献血場所などについて具体的なアイデアやイメージなどがあれば自由に記入してください。



以上で献血に関するアンケートは終了です。御協力ありがとうございました。

わが国は、輸血などの血液製剤を献血により安全に安定して国内自給することを目指している世界でも数少ない国です。今後とも、献血への御理解と御協力をお願いいたします。

なお、最後に、献血推進キャラクター「けんけつちゃん」をどうぞよろしくお願ひします。

プロフィールはこちら → <http://www.mhlw.go.jp/new-info/kobetu/iyaku/kenketsugo/ti.html>

若年層献血意識調査

献血経験者用

問1 献血は、患者さんに対する輸血だけでなく、献血を原料とした血液製剤として、さまざまな病気の治療に役立っていることを知っていますか。

1. 知っている 2. 知らない

問2 献血へ協力してくださる若い方の数が、近年大幅に減っています(※)。知っていましたか。

1. 知っている 2. 知らない

※ ...最近5年間で20代の献血者数は161万8千人から113万5千人(30%減)に、10代の献血者数は56万4千人から32万4千人(43%減)も減少しています。

問3 献血に関して、どのような広報媒体を見たこと(聞いたことが)ありますか(複数回答可)。

1. テレビ 2. FM放送 3. その他のラジオ放送 4. 新聞
5. 街頭での呼びかけ 6. 献血ルーム前の看板・表示 7. チラシの配布
8. ポスターの掲示 9. 献血関係のイベント 10. 自治体の広報誌 11. 雑誌等
12. インターネット 13. 献血バス
14. その他()
15. 何かで見た(聞いた)が、何の媒体か覚えていない
16. 見たこと(聞いたこと)がない

問4 献血のキャンペーンを行う際の効果的な媒体は何だと思いますか(複数回答可)。

1. テレビ 2. FM放送 3. その他のラジオ放送 4. 新聞 5. 雑誌
6. 自治体の広報誌 7. インターネット 8. 携帯電話 9. ポスター
10. その他()

問5 厚生労働省では献血推進のためのキャラクターとして「けんけつちゃん」を作成していますが、知っていますか。

1. 知っている 2. 知らない

問6 献血に関するキャンペーンを知っていますか。

(毎年7月:愛の血液助け合い運動 毎年1~2月:「はたちの献血」キャンペーン)

1. 知っている 2. 知らない

問7 平成2年から、全国の高校3年生を対象に、献血に関する普及啓発資材「HOP STEP JUMP」を配布していますが、学校で配られた記憶はありますか。

1. 保健体育の授業で使用した 2. 他の授業で使用した 3. 配布されただけ
4. 知らない

※参考(平成19年版 高校生副読本「HOP STEP JUMP」

http://www.jdpc.or.jp/~info/2007info/2007_hokokusho_jo_hokokusho_zo_hokokusho.pdf をご覧下さい)

問8 献血でエイズ、肝炎その他の感染症に感染することはありませんが、そのことを知っていますか。

1. 知っている 2. 知らない

問9 血液製剤(※)は未だ海外の血液に依存していることを知っていますか。

1. 知っている 2. 知らない

※...重症熱傷に用いるアルブミン製剤では、国内自給率は未だ60%台である

問10 献血ルームのイメージを教えてください。

- 1 ルームの雰囲気 1. 明るい 2. ふつう 3. 暗い 4. わからない
- 2 ルームの広さについて 1. 広い 2. ふつう 3. 狭い 4. わからない
- 3 職員の対応について 1. 良い 2. ふつう 3. 悪い 4. わからない
- 4 記念品や軽い飲食物について 1. 良い 2. ふつう 3. 悪い 4. わからない

問11 献血について何か要望又は知りたいことがありますか。(複数回答可)

- 1. 献血する場所、日時などについて十分知らせてほしい
- 2. 献血について正しい知識、必要性を知らせてほしい
- 3. 献血で昼休み、夜間などの受付時間を延長してほしい
- 4. 職場や学校などで献血の機会を増やしてほしい
- 5. 献血された血液がどのように使われるのか知りたい
- 6. 献血したときの処遇品(記念品)をもっと良くしてほしい
- 7. 進学や就職時に献血の経験を考慮してほしい
- 8. 学校の授業で献血の重要性等について取り上げてほしい
- 9. その他()
- 10. 特にない

問12 初めて献血をしたのはいつですか。

- 1. 16～17歳 2. 18～19歳 3. 20～24歳 4. 25歳～29歳

問13 初めて献血した場所はどこですか。

- 1. 高校 2. 大学キャンパス又は専門学校・各種学校
- 3. 職場 4. 献血バス(1～3以外)
- 5. 献血ルーム(血液センター) 6. 覚えていない

問14 初めての献血の種類は何ですか。

- 1. 200mL献血 2. 400mL献血 3. 成分献血 4. 覚えていない

問15 初めての献血で400mL献血をすることをどう思いますか。

- 1. 特に不安は感じない 2. 不安 3. わからない

2. 不安を選んだ場合の理由

問16 過去1年間に何回献血しましたか。

(1) 200mL献血

- 1. 0回 2. 1回 3. 2回 4. 3回 5. 4回 6. 5回 7. 6回以上

(2) 400mL献血

- 1. 0回 2. 1回 3. 2回 4. 3回以上

(3) 成分献血

- 1. 0回 2. 1回 3. 2回 4. 3回 5. 4回 6. 5回 7. 6回 8. 7回以上

問17 今までの献血回数は合計で何回ですか。

- 1. 1回 2. 2回 3. 3～5回 4. 6～10回 5. 11～20回
- 6. 21～30回 7. それ以上

問18 初めての献血のきっかけになったのは、次のうちどれですか。
きっかけの大きい順に3つまで、その番号をお選びください。

1. 自分の血液が役に立ってほしいから
2. 輸血は愛に根ざしたものだから
3. 輸血用の血液が不足していると聞いたから
4. 自分の血液の検査結果が自分の健康管理のためになるから
5. 将来自分や家族などが輸血を受けることがあるかもしれないから協力した
6. 過去に家族や友人などが輸血を受けたことがあるから
7. お菓子やジュースがもらえるから
8. ネールアートやマッサージなどのサービスが受けられるから
9. 図書券がもらえたから
10. なんとなく
11. 輸血を受けるときに役立てたいから
12. 家族や友人などに勧められたから
13. 高校に献血バス・出張献血が来たから
14. 大学キャンパスに献血バス・出張献血が来たから
15. 覚えていない

1 番目 2 番目 3 番目

問19 現在献血するきっかけになっているのは、次のうちどれですか。
きっかけの大きい順に3つまで、その番号をお選びください。

1. 自分の血液が役に立ってほしいから
2. 献血は愛に根ざしたものだから
3. 輸血用の血液が不足していると聞いたから
4. 自分の血液の検査結果が自分の健康管理のためになるから
5. 将来自分や家族などが輸血を受けることがあるかもしれないから協力したい
6. 過去に家族や友人などが輸血を受けたことがあるから
7. お菓子やジュースがもらえるから
8. 輸血を受けるときに役立てたいから
9. テレビやDVDを観ることができるから
10. ネールアートやマッサージなどのサービスが受けられるから
11. なんとなく

1 番目 2 番目 3 番目

問20 ご家族が献血している姿を見たことがありますか。

1. ある
2. ない
3. おぼえていない

問21 あなたのお友達に献血をしている人はいますか。

1. いる
2. いない
3. わからない

問22 高校での集団献血があれば、その経験がその後に献血する動機付けになると思いますか。

1. 非常に有効
2. どちらかと言えば有効
3. あまり関係ない
4. 全く関係ない

問23 献血に関する資料を読まれた後で次の質問にお答え下さい。

下の資料をご覧ください。

問23-1 献血の必要性への理解は今までと比べ深まりましたか。

1. はい 2. どちらかというとはい 3. どちらかというといいえ 4. いいえ

問23-2 資料を読んで献血に協力する気持ちは高まりましたか。

1. はい 2. どちらかというとはい 3. どちらかというといいえ 4. いいえ

問23-3 アンケートへの記載及び資料を読んで献血に行く回数を増やそうと思いましたか。

1. はい 2. どちらかというとはい 3. どちらかというといいえ 4. いいえ

問24 若い方の献血に協力する気持ちを高めるためには、どのようなことをすればよいと思いますか。

広報の方法やキャンペーン、イベント、献血場所などについて具体的なアイデアやイメージなどがあれば自由に記入してください。

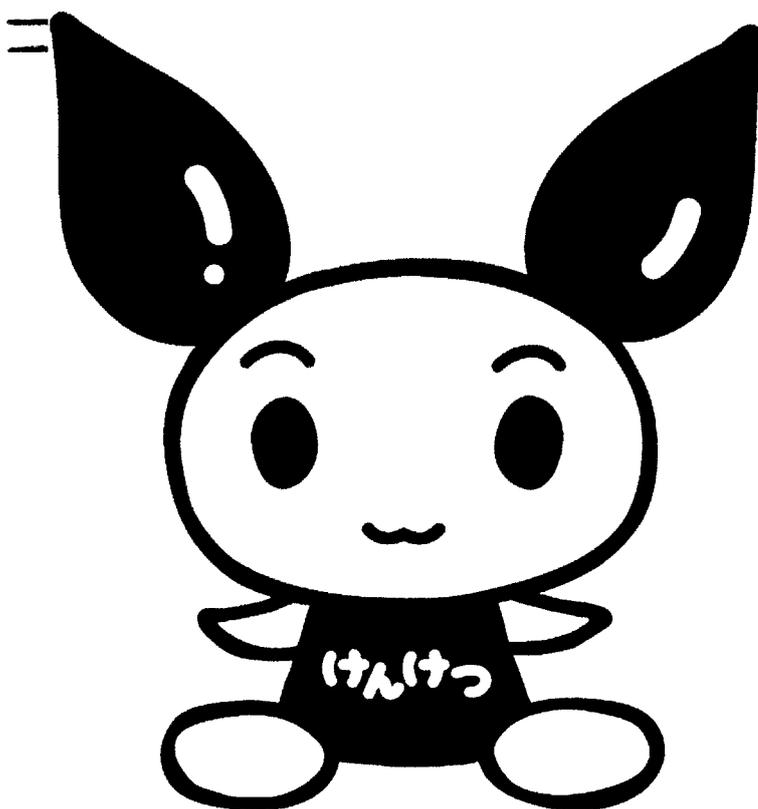
以上で献血に関するアンケートは終了です。御協力ありがとうございました。

わが国は、輸血などの血液製剤を献血により安全に安定して国内自給することを目指している世界でも数少ない国です。

今後とも、献血への御理解と御協力をお願いいたします。

なお、最後に、献血推進キャラクター「けんけつちゃん」をどうぞよろしくお願ひします。

プロフィールはこちら → <http://www.mhlw.go.jp/new-info/kobetu/iyaku/kenketsugo/1i.html>



献血にご協力を 若い皆さんの熱い友情を

血液を必要とする人すべてが輸血を受けられるように。
献血したことのある方もない方も、あらためてご協力をお願いします。
血液を必要としている人はあなたのすぐそばにいるかもしれません。

? 献血はどこでできるの？

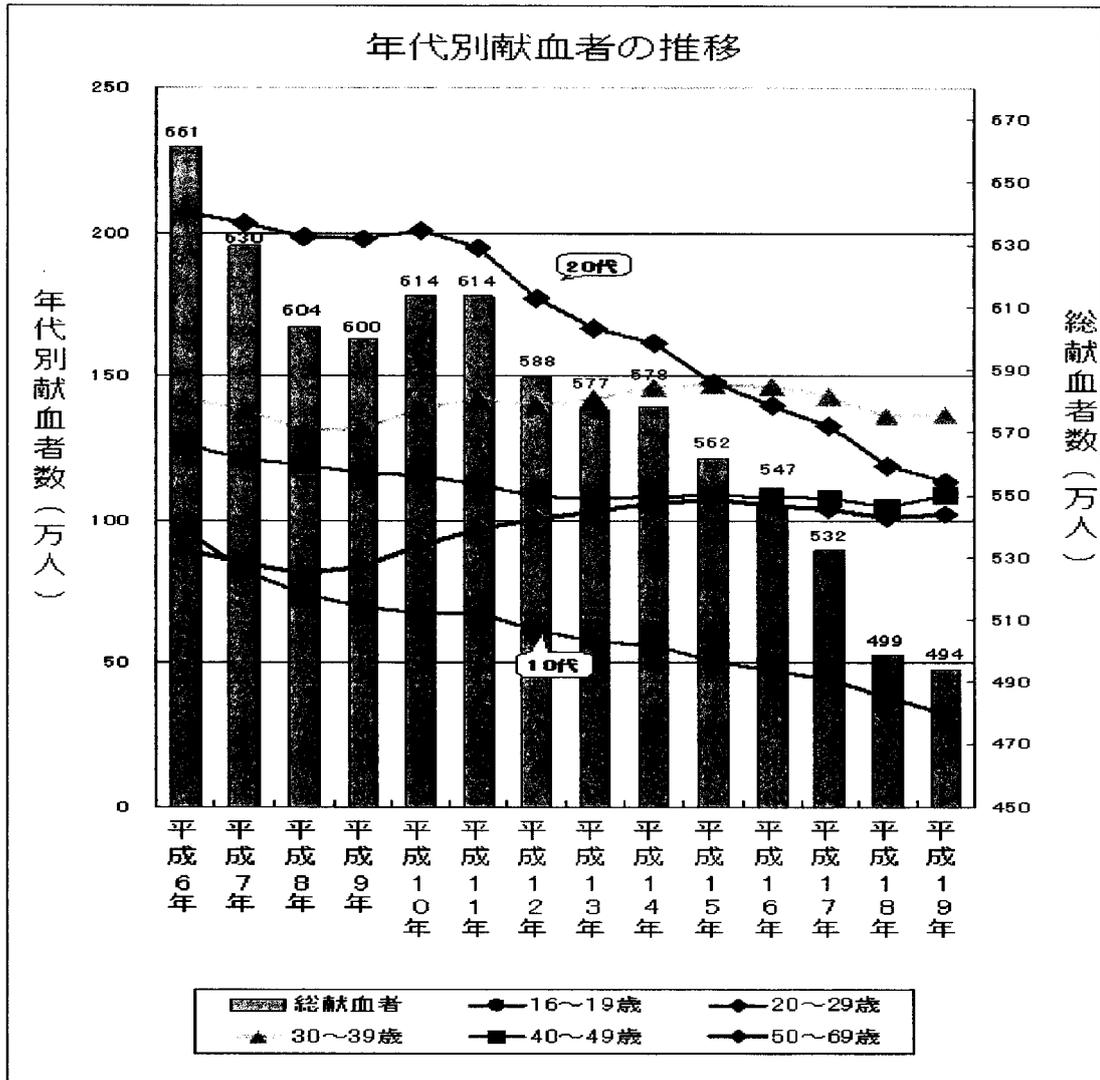
献血は、献血ルームや献血バスで行うことができます。
全国の血液センターや献血ルームは、日本赤十字社ホームページ(<http://www.jrc.or.jp>)に掲載しています。

? 献血はなぜ必要なの？

血液は様々な働きをしており、生命を維持するために不可欠のものです。そこで事故などで大量に血液が失われた人や、病気で正常な血液を造ることができなくなってしまった人には、血液を補充（輸血）することが必要になります。

しかし、医療技術の発達した現在でも、血液と全く同じ作用をもつものを人工的に作ることはできません。医療に必要な血液は私たち自身が提供するほかに確保する方法がありません。

献血は、病気やけがで血液を必要としている人のために、見返りを求めず血液を提供することです。健康な人のボランティアによって、多くの人の命が救われているのです。



現代の医療に欠くことのできない血液。
その血液の確保が徐々に難しくなっています。

原因の一つは若年献血者の減少。若年者数自体が少子化の影響で減少しているほか、若年人口に占める献血者の割合も減少していることから、若年者の献血離れが進んでいると言えます。

別の原因として、血液の安全対策の強化も挙げられます。血液にはウイルスなど病気の原因となるものが潜んでいる可能性があり、献血の前の問診でいくつかの条件に当てはまる方については、献血をご遠慮いただいています。感染症についての新たな事実が明らかになるにつれ、献血をご遠慮いただかなくてはならない人が増えてきているのです。

このままでは輸血を必要とする方々に血液が届けられないという危機的な状況となる可能性もあります。

献血はひとりひとりの思いやりによって支えられているシステム。皆さんのご協力をお願いします。